2026年度

履 修 要 綱

学校法人湘央学園　浦添看護学校
看護学科（3年課程）

学園章

学園章は「生命の尊重と健やかな地球の象徴」を理念としています。

デザインは、住みよい地球（外円）、緑の自然（中の若芽）、生命の科学、生命の尊重（白地）、未来（深緑色）を表し、グローバルな視点に立った新進気鋭の「人（生命）に関わる技術者」育成への願いが込められています。

目　次

1　**教育方針**

建学の理念・教育理念・教育目的・教育目標　・・・・・・・・・・　1

看護の主要概念　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

2　**教育課程の考え方**

教育課程の構造図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

各分野の教育内容の考え方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

カリキュラムデザイン　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19

教育課程進度表（３年課程）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20

教科外活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

3　**教育内容**

基礎分野

科学的思考の基盤　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23

人間と生活・社会の理解　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27

専門基礎分野

人体の構造と機能　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　47

疾病の成り立ちと回復の促進　・・・・・・・・・・・・・・・・・　55

健康支援と社会保障制度　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　81

専門分野

基礎看護学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　93

地域・在宅看護論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　121

成人看護学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　135

老年看護学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　153

小児看護学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　161

母性看護学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　171

精神看護学　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　179

看護の統合と実践　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　189

実習要綱

臨地実習の目的、目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　199

教　育　方　針

建学の精神

「生命を尊重する、人間性豊かな専門職業人の育成」

湘央学園は､｢生命を尊重する､人間性豊かな専門職業人の育成を行う｣を建学の精神とし、時代の変化に関わらず「人のために科学する心を育む」姿勢は普遍である。 とりわけこれからの時代は、さらに人の叡智と心のバランスが重要となり、今まで以上に心の豊かさや優しさが求められてくる。

専門職業人として保健・医療・福祉の分野にたずさわる者は、深い愛情に根ざした、質の高い知識と技術をもって職務に当たらなくてはならないという思いを表し､「愛・智・技」を校是としている。

「愛」は人に対する思いやり、優しさ、気配りといった人間性を意図し､「智」は人間の持つ叡智を、そして､「技」は理論に裏付けされた質の高い技術を目ざしている。

教育理念

「愛」
思いやり・優しさ・気配りを持って、看護の対象への深い理解と共感できる専門職業人を育成する。

「智」
科学的根拠に基づき、対象の健康上の課題の解決に向けて、その人が生活者として、その人らしく生きることができるように支援するための基礎的な看護実践能力を育成する。

「技」
自己教育力を高めながら保健医療福祉に関わる一員として、質の高い看護が実践できる能力を培う。

教育目的

看護師として必要な愛、智、技を育み、看護を探求し社会に貢献しうる人材を育成する。

教育目標

１．生命の尊厳と高い倫理観に基づいた豊かな人間性を養う。

２．看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる能力を養う。

３．人々の健康上の課題に対応するために、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。

４．保健医療福祉における看護師の役割を認識し、チームの一員として多職種と協働できる基礎的能力を養う。

５．看護への探求心をもち専門職業人として学習し続ける能力を養う。

看護の主要概念

概　念	内　　容
人　間	１．人間は、身体的・精神的・社会的に統合された存在である。 ２．人間は、基本的欲求をもつ存在である。 ３．人間は、多様な価値観をもつ独自の存在である。 ４．人間は、自立（＝自律）した存在である。 ５．人間は、基本的人権を有し、尊厳をもつ存在である。 ６．人間は、成長発達し続ける存在である。 ７．人間は、環境と相互作用し、変化し続ける存在である。 ８．人間は、社会的にそれぞれの役割を担い、生活している存在である。
環　境	１．環境は、人間を取り巻く全てである。 ２．環境は、常に人間と相互に影響しあい変化し続けている。 ３．環境は、人間の生活と健康に影響を及ぼしている。 ４．環境は、外部環境・内部環境があり、内部環境の恒常性の維持は、外部環境が相互にかかわっている。
健　康	１．健康は、身体的・精神的・社会的に調和の取れた状態である。 ２．健康は、最良の健康から死までの連続的な健康状態がある。 ３．健康は、常に環境と影響しあい流動的に変化する。 ４．健康は、人間の基本的権利であり自ら獲得するものである。
看　護	１．看護は、あらゆる健康状態にある個人とその家族、または集団を対象とする。 ２．看護は、その人らしい生活を支え、セルフケアができるように援助を行う。 ３．看護は、対象である人と看護者との人間関係を基盤として行われる。 ４．看護は、科学的根拠に基づいて健康状態や変化に対応するために働きかける。 ５．看護は、保健医療福祉チームと協働し、独自の機能と役割を担う。 ６．看護は、社会の変動に伴って変化する保健医療福祉ニーズに対応する。

教育目標の内容分析

教育目標	教育目標の内容分析
1．生命の尊厳と高い倫理観に基づいた豊かな人間性を養う。	1）生命の尊厳を守ることができる。 2）看護師として倫理に基づいた行動をとることができる。 3）自己及び他者を尊重することができる。 4）愛を持って思いやりや気配りができる。 5）自己洞察し、人間関係を築くことができる。 6）社会の規範、道徳に基づいた行動をとることができる。
2．看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。	1）看護の対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に捉えることができる。 2）成長発達段階から看護の対象を捉えることができる。 3）あらゆる健康状態から看護の対象を捉えることができる。 4）基本的欲求を持つ存在として看護の対象を捉えることができる。 5）自立（自律）できる存在として看護の対象を捉えることができる。 6）看護の対象には多様な価値観があることを認識することができる。 7）看護の対象を環境と相互に影響しあう生活者として捉えることができる。
3．人々の健康上の課題に対応するために、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。	1）理論を活用しアセスメントすることができる。 2）根拠に基づいた看護援助を考えることができる。 3）看護技術の基本を身につけることができる。 4）あらゆる健康状態に応じた看護実践ができる。 5）行った援助を振り返り、技術の向上を図ることができる。 6）対象の状況に応じて安全に援助することができる。 7）看護実践をよりよくするために、創意工夫することができる。
4．保健医療福祉における看護師の役割を認識し、チームの一員として多職種と協働できる基礎的能力を養う。	1）多様な場における看護師の役割と機能を理解することができる。 2）看護師として責任を自覚することができる。 3）チームの一員として協働することができる。 4）多職種の役割を理解することができる。 5）多職種との連携・調整の必要性を理解することができる。 6）社会資源の活用を理解することができる。 7）看護におけるマネジメントの重要性を理解することができる。
5．看護への探求心をもち、専門職業人として学習し続ける能力を養う。	1）看護を探求する姿勢を持ち続けることができる。 2）主体的に学び続ける姿勢を持つことができる。 3）自己の健康を維持し、学習を継続することができる。 4）社会に関心を持つことができる。 5）国際的視野を持つことができる。 6）変動する社会や様々な状況に柔軟に対応することができる。 7）自己の看護観を表現することができる。

1．ディプロマ・ポリシー

教育理念を基に、本校の教育課程に沿って研鑽に努め、指定する卒業単位を修得することで下記の能力・資質を修得・涵養し、社会・地域に貢献できる人材を養成する。

1）自律する力：社会の規範、道徳に基づいた行動を考えて自身をコントロールできる。
2）関係を築く力：一人ひとりに倫理観をもって関わり関係性を築くことができる。
3）対象理解する力： 対象を統合された生活者として理解できる。
4）看護を思考する力：理論を活用し科学的根拠に基づき、看護実践するために思考できる。
5）看護を実践する力：あらゆる対象に応じて、安全・安楽に看護を実践できる。
6）協働する力：多様な場における看護師の役割を理解し、多職種と連携・調整できる。
7）学び続ける力：看護を探求する姿勢を持ち続け、主体的に学び続けることができる。
8）変化に対応する力：社会の変化に関心を持ち、変動する様々な状況に対応できる。
9）看護観を深める力：自己の看護を振り返り、自己の看護観を深めることができる

2．カリキュラム・ポリシー

本校の教育理念である「愛・智・技」と、ディプロマ・ポリシーに示された到達目標及び教育目標を達成するために、看護を実践するためのカリキュラムを編成し、実施する。

1）看護専門職として基礎的な内容から専門的・応用的な内容へと段階的に学修を進めるように配置し、各段階で常に教育理念である「愛・智・技」を実現するために着実に身につけるように編成する。
2）授業では、それぞれの科目を講義、演習、実習などの多様な学修形態を通じて、協同の精神を学習に取り入れ、卒業到達目標として身につける 9 つの力を総合的に育成する。
3）地域で暮らす人々の健康を支える看護を実践する能力を養うため、地域の「健康支援を知る実習」などを配置し、看護の対象である生活や暮らしを幅広く理解する。
4）基礎分野では、人間理解に必要な科目を増やすと共に複数の語学科目を配置し、国際的視野に立った医療や看護を学ぶことにより、異なる文化や価値観を理解する姿勢を育てる。
5）対象の健康段階・発達段階に応じた専門知識や技術を理解し、問題解決技法に基づいて段階的に看護を実践することで、臨床判断能力の基礎を身につける。
6）学修成果の評価は、授業の進度に合わせてシラバスに明示された学習目標に基づく定期試験、レポート、実習評価などを含め、総合的評価を行う。また、学生の学修状況や授業評価を活用して教育方法の改善につなげる。

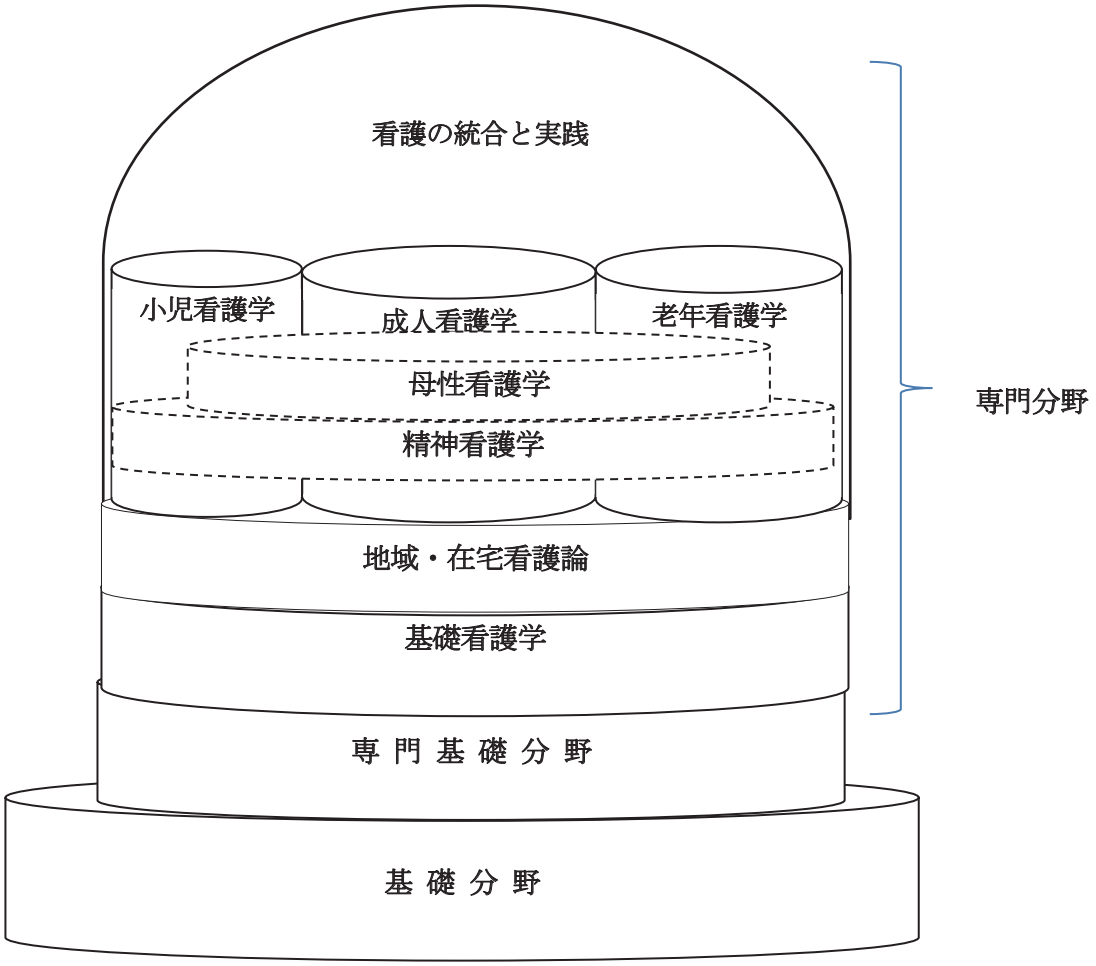
3．アドミッション・ポリシー

本校の教育理念である「愛・智・技」を深く理解し、その実現に向けて人間性の涵養に努めると同時に知識、技術の習得に主体的に取り組み、保健医療福祉の現場で、人や生命の安寧のために貢献したいという熱意のある入学生の受け入れを基本方針とする。

具体的には
1）入学後の学習に必要な基礎学力が身についている人
2）人に関心を寄せ、思いやりの心をもっている人
3）自分の考えや思いを表現できる人
4）看護師を目指す明確な意志をもっている人
5）誠実で責任感のある行動がとれる人
6）主体的に学習し続ける意欲がある人
7）他者と協調できる人

教育課程の考え方

教育課程の構造図



カリキュラム構造図の考え方

「基礎分野」は、専門基礎分野、専門分野の基礎となり、看護を実践する人として、幅広いものの見方、考え方、そして人間理解に必要な基礎的能力を養う内容とする。基礎分野の科学的思考の基盤には､協同に基づく探求学習の方法やコミュニケーション力を身につけられるよう｢協同学習の精神｣を導入し、各看護学の主体的な学習の基盤とするように位置づけた。

「専門基礎分野」は、専門分野の指示科目として位置づけ、人間のしくみとはたらきを専門分野の教育内容と関連付けて系統的に理解する内容とした。疾病の成り立ちと回復の促進として、健康・疾病・障がいに関する観察力や判断力を強化するために、臨床における薬理学や栄養学など看護実践に関連付けた科目を設定した。また、講義だけでなく演習を強化することで、看護実践における臨床判断能力の基盤となる内容とする。

「専門分野」は、基礎分野・専門基礎分野を土台にすべての看護学の基盤として位置づけ、看護に必要な基礎的実践能力を養う内容とする。また、地域・在宅看護論は、地域で必要とされる人材の育成に向け、各看護学の基盤となることから早期に学ぶ内容として看護領域関連の次に位置付けた。また、看護領域に関連する実習内容として「看護実践ステップアップ実習」を基礎看護学に、「健康支援を知る実習」は、地域・在宅看護論の実習に位置づけた。

各看護学は５つの看護学で構成し、対象の成長発達段階に応じた看護を実践する基礎的能力を養う内容とした。母性看護学は、女性及び家族に焦点を当て、他の看護学と一部重なる科目として位置づける。精神看護学は、あらゆる発達段階の人々の心の健康に焦点を当てて学習するため、各看護学に横断するように位置づけた。｢看護の統合と実践｣では、基礎分野から各看護学において学習した知識と技術を統合して実践できる内容とした。

各分野の考え方

	教育内容	科目名	考え方
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考 学びの基本 人間工学	科学的思考の基盤においての科目としては、「論理的思考」「学びの基本」「人間工学」を設定した。科学的根拠をもち看護を実践するためには、論理的な考え方を身につける必要がある。また、コミニュケション能力を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断を促す内容をとした。 「論理的思考」では、客観的に物事を認識するための論理性は、すべての科学分野において重要である。論理的思考の形式と法則を学び、文章の読解を通じて論理的思考の基礎を養うことを目的とした。 「学びの基本」では、これから看護を学ぶための基本姿勢や協同の精神を取り入れた学習方法の内容をアクティブラーニングを具現化したものとして位置づけ、具体的な教育方法を「協同学習」とした。協同学習の理論や協同による論理的言語技術、協同に基づく探求学習の方法などにより主体的な学びができるような科目とした。協同学習の技法は各看護学の学習方法の基本となり、主体的な学習によりコミュニケーション力を高めることにつながる。 「人間工学」では、人間を取り巻く環境や日常生活動作を物理学的視点で理解するために設定した。自然環境である光・音・振動などの性質を理解することは、よりよい生活環境の調整につなげる。また、人体の運動力学を学び、看護における日常生活の効果的なケアにつなげる。
	人間と社会 ・生活の理解	生活と暮らし 健康と栄養 生涯発達心理学 倫理学 人間関係論 教育学 異文化の理解Ⅰ 異文化の理解Ⅱ 健康とスポーツ 社会と家族 沖縄の文化 情報科学	人間と生活・社会の理解においては、人間と社会を幅広く捉えるために生活や暮らすとは何か理解する内容と家族論、人間関係論、生涯発達論等を学ぶ内容とした。また、国際化及び情報化（ＩＣＴを活用するための基礎的能力）へ対応しうる能力、人権の重要性と高い倫理観を養うことを目的とした科目を選定した。 「生活と暮らし」では、看護の様々な対象やあらゆる場を理解するための土台として、生活を構成する要素、様々な生活環境を知ること、地域の生活環境の理解を深める内容とした。 「健康と栄養」では、人間の生活における健康と栄養の関連性について理解し、発達段階に応じた食事の形態の基本を学ぶ科目とした。専門基礎科目の臨床栄養学の健康障害時の食事療法につなげる内容とした。 「生涯発達心理学」では、人間の発達課題、心理・社会的危機について理解する内容とする。 「倫理学」では、人間としてのあり方、生き方などを考えることにより、医療にかかわる者としての生命尊重や相手を尊重し、倫理に基づく行動の基礎を学ぶ内容とした。

	教育内容	科目名	考え方
			「人間関係論」では、人間関係の意義を理解し、コミュニケーションの基本とカウンセリングの基本・技法を学ぶ内容とした。また、人間関係を発展させるコミュニケーション能力を高めることにつなげる。 「教育学」では、人間形成における教育の機能を理解し、人間の可能性を引き出すための教育の方法や評価、指導技術を学び、看護実践に生かすことができるように設定した。 「異文化の理解Ⅰ」では、これまでの教育による英語実践能力の向上を念頭に、専門的学習へ導くための科目と捉え、看護ケアの場面での英会話や、看護英語の文献の読解を学ぶ内容とした。 「異文化の理解Ⅱ」では,国際化へ対応しうる能力として英語以外の外国語を学ぶと共に異文化の理解に繋げる。在沖外国人の中で接する機会の多い中国語、韓国語、スペイン語を選択必修科目とした。 「健康とスポーツ」では、生活の中での健康と運動に焦点を当て、学習する内容とした。心と体のバランスは健康を考える上で重要である。運動は、心のバランスを保つ上でも必要である。また、運動による筋力ｕｐは、転倒予防、生活習慣病の予防にもつながる。生活の中でとりいれられる運動を実践することは、自らの健康維持にも役立ち、看護を実践する上での指標となる。 「社会と家族」では、社会の影響を受けて存在している現代は、社会、就労形態の変化に伴い家族の形態や機能が多様化している。社会の構造や家族の形態・機能を学ぶことは、患者や患者を取り巻く家族を理解することにつながり、家族を含めた看護を考える科目とした。 「沖縄の文化」では、世界の様々な民族の社会・文化から地域における沖縄の文化学ぶ内容とした。沖縄の文化、生活習慣や価値観などを理解することから看護の対象理解に繋げる科目とした。 「情報科学」では、看護師にとって必要不可欠な情報通信技術を学ぶ内容とした。情報社会において看護師は、電子カルテなど ICT を活用した情報収集するための能力を身につけ患者の情報を安全に活用し、情報をもとに関わりを持つ必要がある。講義では情報とは何か、看護に関連づけて学ぶとともに情報の取り扱いなど情報リテラシーを学ぶ内容とした。さらに、看護の専門性を発揮するための看護研究に必要なデータ収集や統計的手法も学ぶ。
	人体の構造と機能	人体のしくみとはたらきⅠ 人体のしくみとはたらきⅡ	人体の構造と機能においては、人体を人間の生活行動に焦点を当てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するため、「人体のしくみとはたらき」、「生化学」とし看護実践の基盤として学ぶ内容と

	教育内容	科目名	考え方
専門基礎分野		人体のしくみとはたらきⅢ 生化学	した。「人体のしくみとはたらき」は、ある特定の機能に焦点をあてて形態（外からみた人の形や働き）を観る、つまり看護の対象である人間の生活行動に焦点を当てて形態や機能を学ぶ科目である。より深く理解するため、演習を取り入れる。 「人体のしくみとはたらきⅠ」では、疾病治療学との関連で、基本的な解剖学的用語や身体の構成を学び、人体のしくみとはたらきを学ぶ意義や看護の土台となる基礎知識を学ぶ内容とした。また、ヒトの生活行動に焦点をあて「食べる」「トイレに行く＝排尿」の２つの生活行動の内容を機能別に捉えて学ぶ。消化器、尿の生成、子孫を残すしくみ＝生殖器に関するしくみとはたらきに人体の発生をあわせて学ぶ内容とした。 「人体のしくみとはたらきⅡ」では、ヒトの生活行動に焦点をあてた人体のしくみとはたらきのうち「息をする」を学ぶ内容とした。また、恒常性維持のための物質の流通に関連するしくみとはたらきとして、流通の媒体である血液、生体防御を学ぶ。さらに、恒常性維持のための物質の流通の原動力である循環のしくみとはたらきについて学ぶ内容とした。 「人体のしくみとはたらきⅢ」では、恒常性維持のための調節機構に関連する人体のしくみとはたらきとして、内部の環境を整える、情報を判断し伝達する、身体を支え動かす、外部から情報を取り入れるしくみとはたらきについて学ぶ内容とした。 「生化学」は、生体物質の基本的知識とその物質代謝を基にして、病気や病態を捉える科目である。様々な生体機能の中で、正常を維持するためにどの物質が重要な役割を果たしているのか、正常から異常へと変化する際にどの経路が関連しているのか学ぶ。また、物質の代謝物を数値化されたものは、臨床に広く応用されている生化学検査であり、その検査の意味を理解することにつながり、看護ケアをする上での科学的判断の根拠につながる科目である
	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学総論 微生物学 病理学総論 治療総論 疾病治療学Ⅰ 疾病治療学Ⅱ 疾病治療学Ⅲ 疾病治療学Ⅳ 疾病治療学Ⅴ 疾病治療学Ⅵ 疾病治療学Ⅶ 臨床薬理学 臨床栄養学	疾病の成り立ちと回復の促進については、疾病の成り立ちや回復に対する基礎的知識を学び、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するため、「微生物学」、「病理学総論」、「薬理学総論」、「疾病治療学」を学ぶ内容とした。さらに「治療総論」「臨床薬理学」「臨床栄養学」として、看護実践の基盤とする臨床判断能力に役立てる内容の科目とした。 「薬理学総論」では、薬物の分類や作用するしくみについて学ぶ。薬は病気によって身体機能が正常より亢進、あるいは低下した状態のときに正常な状態に近づけるようにはたらく化学物質である。薬の基本的性質を理解し、主な薬剤の特徴として病気の回復促進につながる看護援助の根拠となるような学習内容とした。

	教育内容	科目名	考え方
専門基礎分野			また、医薬品に関する法律について薬剤に関する基本を学ぶ内容とし、薬理学の基礎知識学ぶ。 「微生物学」では、健康を脅かす微生物の基礎知識を学ぶ。微生物には、高分子有機化合物を他の生物に再利用可能な小さな分子に分解したり、人間に有益をもたらす食物を作り出したり、人間や動植物に病気を引き起こしたりという多様な面がある。微生物学を学ぶことにより、微生物がどこにいて、どのようにしてヒトに感染し病気を起こすのか、それを治療し予防するにはどうしたらよいかなどを学ぶ内容とする。 「病理学総論」では、病気の原因を追究し、病気になった患者の身体に生じている変化がどのようなものであるかを知る科目であり、患者の病気の診断・検診及び病気の予防にも生かされる。　看護にとって根拠に基づいた的確な看護を行うためには、人間の構造と機能を理解したうえで、病気の原因あるいは経過についても正確な知識を養っておかなければならない。病理学（＝病気の原因や経過）を知ることは、日常行っている看護活動の根拠となりうる。また、疾病の発生傾向や発生要因などについて理解することは、予防的視点から看護に取り組むことにつながる。 疾病治療学では、さまざまな臨床の分野での代表的な疾病の診断・治療など、看護をおこなう上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるような内容とした。成長発達段階が影響する小児期に特徴的な疾病と治療、母性看護学の対象である内分泌環境の変化の時期にある女性の疾病と治療、すべての発達段階に発生しうる精神障害に関する疾患と治療の内容を取り出し、科目を設定した。 「治療総論」では、主に外科的治療に関する共通の特徴として、放射線療法、手術療法や麻酔法、疼痛管理などの内容とした。また、手術後のリハビリテーションや障害をもつ対象のリハビリテーションも含めた。さらに生体の危機にある状態への対応として救急医療についても学習する内容とした。 「疾病治療学Ⅰ」では、消化吸収、血液･造血、内分泌・代謝機能障害、「疾病治療学Ⅱ」では、呼吸・循環機能障害、「疾病治療学Ⅲ」では、排泄・腎、生殖、生体防御機能障害、「疾病治療学Ⅳ」では、運動、脳・神経、感覚器（皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉科疾患､）機能障害の代表的な疾病の原因、症状、病態生理、診断、治療の特徴を学ぶ。 「疾病治療学Ⅴ」では、小児の特徴的な疾病とその診断治療過程の関する内容とした。小児の成長発達段階を踏まえ、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるようにした。 「疾病治療学Ⅵ」では、母性看護学の対象である女

	教育内容	科目名	考え方
			性の特徴を捉え、内分泌環境変化の時期である女性の健康障害と検査、治療を理解する内容とした。 「疾病治療学Ⅶ」では、主な精神疾患の精神症状の現れ方の特徴とその診断治療過程の関する内容とした。看護師・患者関係成立、発展の必要性を理解するとともに、健康障害に応じた看護に生かすことができる内容とした 「臨床薬理学」では、薬理学総論の内容を踏まえ、薬物療法の基礎知識、対症療法薬・主要疾患の臨床薬理学、薬物療法の基本と看護師の役割について学ぶ内容とした。また、薬物療法時に必要な看護師の臨床判断するための基礎的な知識について学ぶ。 「臨床栄養学」では、科目「健康と栄養」の学習内容を踏まえ、傷病者の様々な病態や栄養状態等に応じた総合的な栄養管理について学ぶ。栄養管理はチーム医療を基盤にして行われるため、病院における栄養管理の概要と各種疾患患者の食事療法の実際を学ぶ。栄養管理について理解することで食事療法における臨床判断能力が身につけられるように栄養のアセスメントについて学ぶ。

<table>
<tr><th></th><th>教育内容</th><th>科目名</th><th>考え方</th></tr>
<tr><td>専門基礎分野</td><td>健康支援と
社会保障制度</td><td>健康支援論
公衆衛生学
社会福祉Ⅰ
社会福祉Ⅱ
保健医療論
看護と法律</td><td>健康支援と社会保障制度の教育内容において、保健医療福祉に関する基本概念、関係制度、関係職種の役割を理解するとともに、健康や障害の状態に応じ社会資源の活用ができるような基礎的な能力を養う内容とした。
「健康支援論」では、健康寿命の延長や QOL 向上を目指すヘルスプロモーション活動を実践する知識や技術を身につけることを目的とした内容とした。健康増進や疾病予防のための行動変容を促す理論やモデルを活用した健康教育の企画・実施・評価等の一連のプロセスを学ぶ。
「公衆衛生学」では、生活者のさまざまな健康について、健康で活力ある福祉社会を作り上げる公衆衛生の目的を学ぶ内容とした。国民の健康に関する状況と生活環境を学び、人々が健康を享受するために望ましい制度や公衆衛生活動の実際を学ぶ内容とした。
「社会福祉Ⅰでは、生活者の健康を保障する社会の制度を理解し、それらを社会資源として活用する能力の基礎知識とする科目とした。
「社会福祉Ⅱ」では、国民の最低限の生活を保障する社会保障制度、社会的な援護を要する者への支援を行う社会福祉制度がある。この社会保障、社会福祉制度は、高齢化の急速な進行と年金制度の成熟化、介護保険制度の創設などにより、誰もが必ずかかわりをもつ普遍的な制度として意識されるようになった。そのような介護保険制度、労働保険制度、生活保障制度のしくみのほか、働き方の多様性を含めたダイバシティーなどを学ぶ科目とした。
「保健医療論」では、医療のあり方が大きく変貌しつつある今日、医療の変遷を知らずにこの変貌した時代や看護の目ざすべき目標を明確にすることはできない。医療の変遷を知り、現在の保健医療システム・サービスの現状と課題を理解する内容とした。
「看護と法律」では、医療に関連する法の基礎知識、看護職に必要な法規を学び、専門職業人として法的責任を自覚した行動が取れるための基礎知識を学ぶ。また、労働関係法規を学び、患者や看護者の労働環境からくる健康問題・健康対策なども理解する内容とした。</td></tr>
<tr><td>専門分野</td><td colspan="3">専門分野における科目構造は、「概論」「方法論」から構成した。看護学概論の教育内容の全体構造では、看護の目的、看護の対象の理解、健康の概念、環境の概念、看護倫理、看護の機能と役割、社会資源の教育内容を構成した。また、看護学方法論では、健康状態別の看護を中心に系統・機能障害、治療処置別の看護から構成した。具体的な内容は人間関係であるコミュニケーションを強化する内容や関係構築、看護実践能力として安全な看護技術の習得、看護過程のプロセス、臨床判断能力を学ぶ内容として各看護学との関連性を持たせた内容とした。
各看護学では、成長発達段階を深く理解し、健康の保持・増進及び疾病の予防にも含め様々な健康状態にある人々及び多様な場で看護を必要とする人々に対する看護を学ぶ内容とした。</td></tr>
</table>

	教育内容	科目名	考え方
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論Ⅰ 基礎看護学概論Ⅱ 基礎看護学方法論Ⅰ基礎看護学方法論Ⅱ 基礎看護学方法論Ⅲ 基礎看護学方法論Ⅳ 基礎看護学方法論Ⅴ 基礎看護学方法論Ⅵ 基礎看護学方法論Ⅶ 基礎看護学方法論Ⅷ 基礎看護学方法論Ⅸ	「基礎看護学」は看護学の学習の入口であるとともに、すべての看護学の基礎・土台として位置づけられている。看護の基本・基礎を身につけることをねらいとしているため、単位数や教育内容が広範囲に及ぶ。そのため、基礎分野、専門基礎分野に連動し、各看護学との学習内容の重複を避け、他分野との関連性を整理し、段階的に習熟できるようにした。 「基礎看護学概論Ⅰ」では、看護の目的や看護の主要概念（健康、環境、人間、看護）、看護倫理、看護の機能と役割、社会資源などについて理解を深め、専門職業人として学習する上での基礎となる内容とした。 「基礎看護学概論Ⅱ」では、看護に関連する看護理論、人間の基本的欲求の捉え方、健康状態に応じた看護、研究の基礎を学ぶ内容とした。基本的欲求の捉え方では、本校のアセスメント枠組みをもとに、対象をどのように捉えるかについて学習する。各看護学に共通する考え方であり、対象に合った看護を提供するための基礎となる。 研究の基礎の単元では、論文の探し方・読み方を学び、根拠に基づいた看護実践（EBP）を行うための基礎となる内容とした。 「基礎看護学方法論Ⅰ・Ⅱ」では共通基本技術Ⅰ・Ⅱとして、安全・安楽な技術、コミュニケーション技術などを強化する科目とした。さまざまな看護場面に共通する技術を身につけさせることをねらいとしている。 「基礎看護学方法論Ⅲ」では、バイタルサインの測定技術やフィジカルアセスメントの基本技術を学ぶ内容とした。 「基礎看護学方法論Ⅳ・Ⅴ」では、日常生活援助技術Ⅰ・Ⅱとして、活動・休息、排泄、食事・栄養、清潔などの日常生活上の援助技術を身につけさせる内容とした。対象のニードや生活行動に焦点をあてた援助技術は、専門基礎分野の「人体のしくみとはたらき」と関連させながら整理をした。 「基礎看護学方法論Ⅵ・Ⅶ」では、診療に伴う技術Ⅰ・Ⅱとして、卒業後の技術到達度を踏まえ、学内で到達できる技術を精選し、他看護学との関連性を考慮して内容を設定した。 「基礎看護学方法論Ⅷ」では、看護過程の考え方や展開方法について学び、各看護学の基本となる看護の思考過程について学ぶ内容とした。 「基礎看護学方法論Ⅸ」では、看護過程の事例をもとにシミュレーションを活用した演習を行う科目とした。看護の基本となる技術や日常生活援助技術などの技術を統合し、対象に合わせた援助方法を演習等で強化するとともに、対象の症状・徴候に合わせたフィジカルアセスメントについても学ぶ内容とした。演習を通して、臨床判断能力の基本を学び、看護実践力の強

	教育内容	科目名	考え方
			化に繋げることをねらいとしている。
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ 地域・在宅看護概論Ⅱ 地域・在宅看護方法論Ⅰ 地域・在宅看護方法論Ⅱ 地域・在宅看護方法論Ⅲ 地域・在宅看護方法論Ⅳ	地域・在宅看護論は、社会の変化に伴い、地域で必要とされる人材の育成に向け、各看護学の基盤となることから早期に学ぶ内容として基礎看護学の次に位置付けた。地域・在宅看護論においては、概論Ⅰ・Ⅱ、方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの科目とした。 「地域・在宅看護概論Ⅰ」では、基礎分野の「生活と暮らし」の内容を踏まえ、地域で生活をしている人々の関わりや地域での様々な生活体験を通して地域で生活をする対象を理解する内容とした。 「地域・在宅看護概論Ⅱ」では、地域で生活・暮らす人々を支えるための基盤となる概念を学ぶ、家族の特徴や生活者としての対象の特性を理解し、その人らしい生活や自立を支えていく必要性や社会資源について学び、療養者および家族を含めた支援を展開できる視点を深めていく内容とした。地域・在宅看護における看護の機能と役割について学ぶ内容とした。 「地域・在宅看護方法論Ⅰ」では、ケアマネジメントの必要性や多職種連携についての具体的な支援や専門職種連携の実際を学ぶ内容とした。 「地域・在宅看護方法論Ⅱ」では、療養者の健康状態の状況に応じた看護について学ぶ内容とした。 当事者の語りから、地域で療養する人々がどのように生活しているのか、また、どのような専門職種が連携し支援しているかを学ぶ内容とした。また、「人生最期の時」について事例を取り上げ、地域において、終末期にある療養者・その家族の看護について考え学んでいく。 「地域・在宅看護方法論Ⅲ」では、地域・在宅看護介入時期別特徴や援助技術の実際について学び、訪問時の基本技術についての演習を取り入れた内容とした。訪問看護の訪問者としての一般常識やマナー、人間関係形成のためのコミュニケーション技術、暮らしの場で行われる看護技術について学ぶ内容とした。また、療養者・家族の思いや自立性を大切にして対象に合った援助方法が求められる。そこで、人間関係づくりをふまえ、在宅におけるリスクマネジメントを含め、地域で暮らす・生活する人々を支え続けていくために必要な援助について学ぶ内容とした。 「地域・在宅看護方法論Ⅳ」では、地域・在宅看護の対象とその家族の思いを大切にしながら地域の中で支え続けていくための看護過程の展開・援助の工夫について学習する。これまで学習した制度や多職種連携について関連づけるために、事例を用いた看護過程を展開する内容とした。また、状況に合わせた看護技術の実際では、看護過程で計画立案した計画をもとに、対象とその家族の状況に合わせて、考え実践して行く内容とした。様々な状況の中で生活している対象とその

	教育内容	科目名	考え方
			家族を支え続けていくために必要な視点・技術・制度について学ぶ。ＩＣＴを活用した連携・調整方法についても体験する内容とした。ＩＣＴを活用した遠隔診療についても取り上げていく。
専門分野	成人看護学	成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ 成人看護学方法論Ⅱ 成人看護学方法論Ⅲ 成人看護学方法論Ⅳ 成人看護学方法論Ⅴ	成人看護学の看護の対象は、青年期から壮年期・向老期までの人々で、ライフサイクルのなかで最も長く心身ともに充実した時期である。また、職業生活、家庭生活、人間関係も複雑で多様な役割を担い、自ら自立（＝自律）していかなければならない存在である。成人看護学では、これらのライフサイクルの対象の特徴を理解し、さまざまな健康状態、機能障害の看護の方法と健康課題が生活に密接にかかわっていることを踏まえた健康回復に向けた看護の方法を学ぶ。 「成人看護学概論」では、成人看護の目的・成人看護の機能と役割を学び、成人期にある対象を生活者、成長・発達およびさまざまな健康状態の側面から理解する内容とした。 「成人看護学方法論Ⅰ」では、成人の健康生活を回復・維持・促進するための具体的な看護技術を学ぶ。成人の学習の重要性を理解し、学習を通じて対象に働きかける具体的な方法としてエンパワメントーエデュケーションの基本態度と方法を学ぶ内容とした。 「成人看護学方法論Ⅱ」では、ライフサイクルにおける成人期の特徴を踏まえ、疾病コントロールを必要とする対象のセルフケア行動形成への支援について理解すると共に、生命と生活を維持している機能に障害をもつ対象の特徴を理解し、機能障害に応じた看護の役割と援助方法について学ぶ内容とした。 「成人看護学方法論Ⅲ」では、ライフサイクルにおける成人期の特徴を踏まえ、生活行動制限のある対象のセルフケア再獲得に向け、ボディイメージの変化や障害をもちながら生活する対象の特徴を知り、必要な援助方法と看護の役割について学ぶ内容とした。 「成人看護学方法論Ⅳ」では、健康の急激な破綻から回復の状態にある対象の周手術期とその状況に応じた看護の特徴、術後合併症予防に必要な周手術期の看護技術を学ぶ内容とした。 「成人看護学方法論Ⅴ」では、がん治療で特徴的となる、治療完遂、患者の主体的な治療参加・治療継続のための管理、がんリハビリテーションの支援、チームアプローチの調整における看護の役割とその重要性について学ぶ内容とした。
	老年看護学	老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰ 老年看護学方法論	「老年看護学概論」では、老年期の発達段階の特徴と高齢者を取り巻く環境について学び、加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面から高齢者への理解を深める。また、高齢者の支援や、社会資源の活用について学

	教育内容	科目名	考え方
専門分野		Ⅱ	び、老年看護の目的や役割について理解する。 「老年看護学方法論Ⅰ」では、加齢による変化や、高齢者に特徴的な疾患や症状が、生活に及ぼす影響を捉え、生活機能の視点からＱＯＬの維持・向上へ向けた援助について学ぶ。 「老年看護学方法論Ⅱ」では、ＡＤＬに合わせた身体ケア技術を習得し、認知機能の障害に対する看護について学び、対象とその家族への支援を通して高齢者の尊厳について理解を深める。また、看護過程・臨床判断能力や多職連携カンファレンスなどの演習を通して実践へ向けた援助方法を学ぶ。
	小児看護学	小児看護学概論 小児看護学方法論Ⅰ 小児看護学方法論Ⅱ	「小児看護学概論」では、子どもと家族を一つの単位としてとらえ、対象である子どもの成長・発達の特徴や発達課題、家族を含む小児看護の特性を学ぶ。小児看護の機能と役割、子どもの権利を尊重し、子どもと家族の最善の利益を守る倫理とモデルを学び、子どもを取り巻く家族や社会環境を含めた視点で小児看護の対象を理解する。さらに、講義・演習を通して学んだ知識をもとに、保育所（園）の見学体験の実際を通して小児の対象理解を深める内容とした。また、小児看護の様々な場、状況に応じた看護、子どもと家族を取り巻く環境の現状から、子どもと家族を支える法律・施策について学ぶ。 「小児看護学方法論Ⅰ」では、小児各期の発達段階に応じた日常生活や子どもの成長・発達を促す援助について学ぶ。次に、本校の考える健康状態に応じて、特徴的な疾患の看護について学ぶ内容とした。 「小児看護学方法論Ⅱ」では、小児看護学概論・方法論Ⅰで学んだ知識を統合し応用する能力を養うため、小児看護に必要な看護技術、看護過程・臨床判断能力の演習を通して実践へ向けた援助方法を学ぶ。
	母性看護学	母性看護概論 母性看護学方法論Ⅰ 母性看護学方法論Ⅱ	「母性看護学概論」では、母性看護の基盤となる概念を理解し、近年の母性看護の対象をめぐる社会的な変化を広く捉え、母性看護の機能と役割を理解する内容とした。 「母性看護学方法論Ⅰ」では、生理的な変化を遂げている妊婦・産婦・褥婦及び新生児の看護は、健康の急激な破綻をきたさないために、臨床判断能力が求められる。そのため、健康の保持・増進・予防に努めるための援助方法を理解する内容とした。 「母性看護学方法論Ⅱ」では、母性看護を展開するために必要な看護過程の展開方法やヘルスアセスメントに必要な技術および、対象との援助関係形成のための技術や援助技術を理解し習得する内容とした。

	教育内容	科目名	考え方
専門分野	精神看護学	精神看護学概論 精神看護学方法論Ⅰ 精神看護学方法論Ⅱ	精神看護学は、広義で捉えると「すべての発達段階にある人間の心に関わる」また、狭義においては「精神疾患を抱えた患者に関わる」と位置づけられている。このことから精神科のみならず他の診療科や施設などにおいて、精神看護の考え方や方法がますます必要とされるようになってきた。さらに、看護において基本的な技術であるコミュニケーションの技術を活用し、対象理解を深め、円滑な人間関係を築くための学びを深める領域である。 「精神看護学概論」では、精神看護の基盤となる心についての概念と、精神保健福祉の現在、及び精神に障害がある人の暮らしについて学ぶ。 精神看護学では、すべての領域にある人々の心の健康について考え、対象理解を深める。家庭や学校、職場における人間関係の中で、心は影響し合い育まれることを学習する。また、心の健康の維持とライフサイクルにおける心の健康と発達について学び、現代社会の社会病理からみた心のあり方と、精神看護学の位置づけを学ぶ。 精神保健福祉の歴史的な変遷から、今日の制度の成り立ちと今後の精神医療について学び、入院中の患者の処遇及び精神保健福祉法と関連付けて、看護師としての倫理について学習する。 また、こころに病を抱えた人の治療環境と、障害と共に社会で生活するための支援について学ぶ。 精神看護学方法論Ⅰでは、こころに障害をもつ人に対する看護援助の実際について学ぶ。精神科の診療に伴う診察や検査の基本的な援助、治療に伴う看護について学ぶ。特に、幻覚妄想や興奮状態など精神症状の苦しさと、日常生活への影響を理解し、精神障がい者の抱える「生活のしづらさ」を改善するための生活技能訓練をはじめとする、社会療法や薬物療法などについて学習する。 「精神看護学方法論Ⅱ」では、事例を通して、精神に障害をもつ対象を統合的（身体的・精神的・社会的側面）に理解し、健康な側面に注目しながら看護実践に必要な看護過程の展開（援助方法）を理解する。精神症状や日常生活に問題がある患者とのシミュレーション学習を通して、コミュニケーション技術の基礎を学び、人間関係形成の方法援助を発展させるために、プロセスレコードを用いて自己洞察、自己理解、患者と看護師の相互作用について学ぶ内容とする。
	看護の統合と実践	看護マネジメント 国際看護と災害看護 事例研究 看護技術の統合演	看護の統合と実践では、基礎分野から専門分野において学習した知識、技術を統合し、臨床現場の実務に即した看護を実践できる能力を養う。また、看護の機能と役割の拡大に伴うチーム医療・看護ケアにおける看護師としての調整、看護マネジメントができる能力

	教育内容	科目名	考え方
専門分野		習 統合実習	を養う内容および看護基礎教育での看護技術の総合的評価を行う内容とした。 「看護マネジメント」では、看護におけるマネジメントの意義を理解し、マネジメントを「ケアマネジメント」「看護サービスのマネジメント」の２つの概念から捉え、役割と機能について理解する。また、看護マネジメントにおけるチーム医療や医療安全について理解する内容とした。 「国際看護と災害看護」では、国際社会において看護師として諸外国との協力のあり方及び県下において国際活動を行っている施設や国際活動に携わる人々を通して国際協力の現状を理解し、今後の活動の動機付けになる内容とした。また、我が国の災害対策、災害援助について現状を通して災害時の看護の特徴と基本的な援助について理解する内容とした。 「事例研究」では、基礎看護学概論Ⅱで学んだ研究の基礎をふまえ、自己の看護実践を振り返り、理論と統合させながら事例研究をまとめる内容とした。 「看護技術の統合演習」では、卒業時の看護技術の到達は患者の状態、その場に応じた状況判断ができることが重要である。また、統合実習の前段階として、臨床に近い状況での看護技術を学ぶ必要がある。複数患者への対応、患者、チームメンバー等の他者との調整、割り込み状況（予期しない患者の反応、突発的な事態、時間切迫など）への対処を含めた看護技術を学ぶ内容とした。
	臨地実習 基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護実践ステップアップ実習	「基礎看護学実習」は「基礎看護学実習Ⅰ」と「基礎看護学実習Ⅱ」の三段階で構成されている。どちらも1年次で行う実習である。 「基礎看護学実習Ⅰ」は、看護が行われている場や対象が過ごしている療養環境、看護の機能と役割の実際を知ることをねらいとしている。 「基礎看護学実習Ⅱ」は、基礎看護学実習Ⅰでの学びをもとに、対象への日常生活上の援助を実践する内容とした。また、対象との関わりを通して得た情報を活用して、看護過程の一連の流れを体験し、看護の基礎的能力を養うことをねらいとしている。 「看護実践ステップアップ実習」では、入院している対象の健康上の課題に焦点を当て、看護過程のステップを踏みながら看護を実践する内容とした。
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習 健康支援を知る実習	「地域・在宅看護論実習」では、地域で生活している対象とその家族を理解し、その人らしい生活や自立を支援するための基礎的能力を養う。対象とその家族に合わせた社会資源の活用方法や援助の実際を学ぶ。また、地域で生活する対象とその家族を支えるための多職種連携の必要性、具体的支援方法の実際を学ぶ。

	教育内容	科目名	考え方
			「健康支援を知る実習」では、地域で生活している人との交流を通して、地域での暮らしを理解するとともに人々の健康を保持・増進するための支援の在り方を看護の視点から学ぶ内容とした。
	成人看護学 老年看護学	成人・老年看護学実習Ⅰ 成人・老年看護学実習Ⅱ 成人・老年看護学実習Ⅲ	「成人・老年看護学実習Ⅰ」では、成人・老年期にある対象の特徴を捉え、健康上の課題を抱えている対象の看護実践に必要な基礎的能力を学ぶ。 「成人・老年看護学実習Ⅱ」では、慢性期・終末期の健康状態に応じた看護が実践できる能力を学ぶ内容とした。 「成人・老年看護学実習Ⅲ」では、急性期や周手術期の健康生活の急激な破綻から回復にある対象を理解し、機能回復及び社会復帰に向けての看護が実践できる能力を学ぶ
	小児看護学	小児看護学実習	「小児看護学実習」では、既習学習を基盤に、子どもを全人的にとらえ、子どもが本来持っている力が発揮できるように子どもと家族を支援していくために必要な基礎的能力を養うことをねらいとする。そのため、さまざまな健康状態にある子どもと家族への看護の実際を学ぶため、学習の場を広く設定し、それぞれの学生が成長・発達の過程にある子どもや家族と関わりを通し、小児看護の実際を学ぶ。
	母性看護学	母性看護学実習	「母性看護学実習」では、マタニティサイクルにある女性及び新生児の看護を中心としながら女性の健康支援を学習する内容とした。
	精神看護学	精神看護学実習	「精神看護学実習」では、精神保健医療福祉における看護の役割・機能および精神を障がいされた人と、その家族の理解を深め、健康の保持増進、回復への支援の方法について学ぶ。
	看護の統合と実践	統合実習	「統合実習」は、病院における看護管理の実際を知るとともに、チームの一員として看護を実施し、看護専門職としての役割を理解し、自覚と責任を養うために設定した。複数の患者を受け持ち、患者の状態を把握し、優先順位を考えた援助ができる内容とした。また、実習全体を通して看護専門職として自己の振り返りが表現できる内容とした。

カリキュラムデザイン

<table>
<tr><td rowspan="2">3年</td><td rowspan="2">基礎分野</td><td rowspan="2">専門基礎分野</td><td colspan="8">専門分野</td></tr>
<tr><td colspan="7">地域・在宅看護論
成人看護学
老年看護学
小児看護学
母性看護学
精神看護学</td><td>看護の統合と実践</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2年</td><td rowspan="2">基礎分野</td><td rowspan="2">専門基礎分野</td><td colspan="7">専門分野</td></tr>
<tr><td>基礎看護学</td><td>地域・在宅看護論</td><td>成人看護学</td><td>老年看護学</td><td>小児看護学</td><td>母性看護学</td><td>精神看護学</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1年</td><td rowspan="2">基礎分野</td><td colspan="2" rowspan="2">専門基礎分野</td><td colspan="5">専門分野</td></tr>
<tr><td>基礎看護学</td><td>地域・在宅看護論</td><td>成人看護学</td><td>老年看護学</td><td>小児看護学</td></tr>
</table>

カリキュラムデザインの考え方

本校は、態度・人間理解・支援する力・安全かつ個別性を踏まえた看護技術の提供・社会への動向への関心を基盤に実践力高める授業を展開する。
看護専門職として基礎的な内容から専門的・応用的な内容へと段階的に学修を進めるように配置した。
1年次は、専門知識を身につけるためのベースになる、看護に必要な対象理解、科学的思考や人体への構造、基礎的な看護などの学修深める科目を配置した。
2年次は、専門基礎知識の習得、臨床現場を想定した看護の専門的知識、対象に応じた応用力を深める科目を配置した。
3年次は、学内授業や臨床の看護を修得する実習中心の科目を設定した。学修した知識と技術を統合し看護に必要な個別的な看護の実践力を磨く科目を配置した。

教 育 課 程 進 度 表

2026年度　　看護学科

	教育内容	科　目	学則		1年次		2年次		3年次	
			単位	時間	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考	1	15	15					
		学びの基本	1	30	30					
		人間工学	1	15	15					
	人間と生活・社会の理解	生活と暮らし	1	15	15					
		健康と栄養	1	15	15					
		生涯発達心理学	1	30	30					
		倫理学	1	30	30					
		人間関係論	1	30	30					
		教育学	1	30	30					
		異文化の理解Ⅰ（英語）	1	30		30				
		選択必修　異文化の理解Ⅱ（中国語）	1	15					15	
		選択必修　異文化の理解Ⅱ（韓国語）								
		選択必修　異文化の理解Ⅱ（スペイン語）								
		健康とスポーツ	1	30				30		
		社会と家族	1	15			15			
		沖縄の文化	1	15					15	
		情報科学	1	30			30			
	小　計		15	345	240		75		30	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体のしくみとはたらきⅠ	1	30	30					
		人体のしくみとはたらきⅡ	1	30	30					
		人体のしくみとはたらきⅢ	1	30	30					
		生化学	1	30		30				
	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学総論	1	30		30				
		微生物学	1	30	30					
		病理学総論	1	30	30					
		治療総論	1	30		30				
		疾病治療学Ⅰ	1	30		30				
		疾病治療学Ⅱ	1	30		30				
		疾病治療学Ⅲ	1	30		30				
		疾病治療学Ⅳ	1	30			30			
		疾病治療学Ⅴ	1	15			15			
		疾病治療学Ⅵ	1	15				15		
		疾病治療学Ⅶ	1	15			15			
		臨床薬理学	1	15			15			
		臨床栄養学	1	15			15			
	健康支援と社会保障制度	健康支援論	1	30			30			
		保健医療論	1	15					15	
		公衆衛生学	1	30				30		
		社会福祉Ⅰ	1	15		15				
		社会福祉Ⅱ	1	30				30		
		看護と法律	1	15						15
	小　計		23	570	345		195		30	
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論Ⅰ	1	30	30					
		基礎看護学概論Ⅱ	1	30	30					
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	30					
		基礎看護学方法論Ⅱ	1	30	30					
		基礎看護学方法論Ⅲ	1	30	30					
		基礎看護学方法論Ⅳ	1	30	30					
		基礎看護学方法論Ⅴ	1	30		30				
		基礎看護学方法論Ⅵ	1	30		30				
		基礎看護学方法論Ⅶ	1	30		30				
		基礎看護学方法論Ⅷ	1	30		30				
		基礎看護学方法論Ⅸ	1	30			30			
	小　計		11	330	300		30		0	
	地域・在宅看護概論	地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15	15					
		地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30		30				
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	15			15			
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	15			15			
		地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	30			30			
		地域・在宅看護方法論Ⅳ	1	30				30		
	成人看護学	成人看護学概論	1	30		30				
		成人看護学方法論Ⅰ	1	15		15				
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30			30			
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30			30			
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30			30			
		成人看護学方法論Ⅴ	1	15			15			
	老年看護学	老年看護学概論	1	30		30				
		老年看護学方法論Ⅰ	1	30			30			
		老年看護学方法論Ⅱ	2	45			45			
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		30				
		小児看護学方法論Ⅰ	2	45			45			
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30			30			
	母性看護学	母性看護学概論	1	30			30			
		母性看護学方法論Ⅰ	2	45			45			
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30				30		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30			30			
		精神看護学方法論Ⅰ	2	45			45			
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30				30		
	看護の統合と実践	国際看護と災害看護	1	30					30	
		看護マネジメント	1	30					30	
		事例研究	1	15					15	
		看護技術の統合演習	1	15						15
	小　計		32	795	150		555		90	
	臨地実習　基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	45					
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90		90				
		看護実践ステップアップ実習	2	90				90		
	臨地実習　地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習	2	90					90	
		健康支援を知る実習	2	90			90			
	臨地実習　成人看護学・老年看護学	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90				90		
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90					90	
		成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90					90	
	臨地実習　小児看護学	小児看護学実習	2	90					90	
	臨地実習　母性看護学	母性看護学実習	2	90					90	
	臨地実習　精神看護学	精神看護学実習	2	90					90	
	臨地実習　看護の統合と実践	統合実習	2	90					90	
	小　計		23	1,035	135		270		630	
		合計	104	3,075	1170		1125		780	

教科外活動

目的

教科外活動を通して看護学生としての自覚及び協調性を養い、豊かな人間性を育む

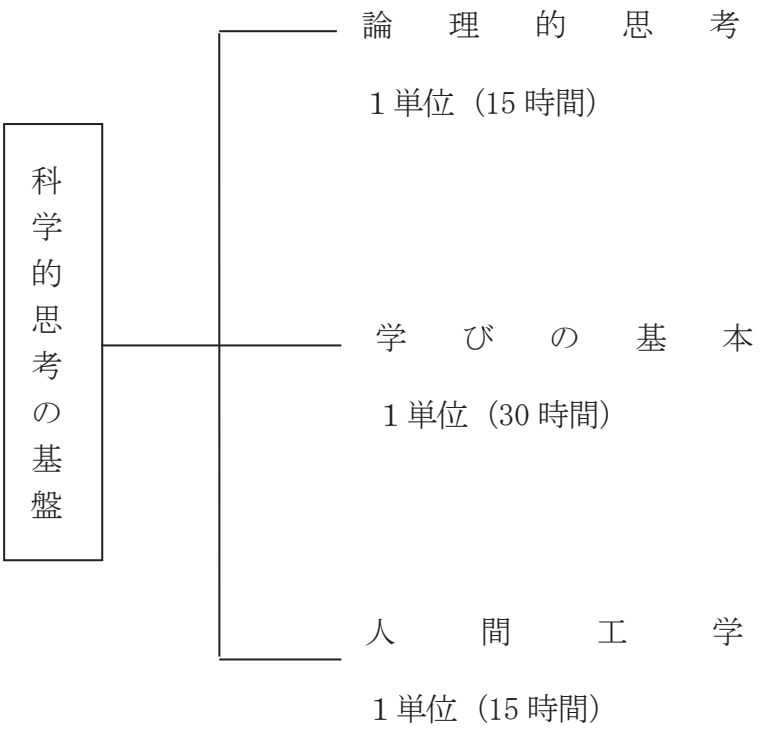
科　目	学　　年			ねらい
	1年	2年	3年	
入学式	2			看護学生としての自覚と誇りを持ち、これからの学校生活に向けて決意を新たにする。
新入生ガイダンス	10	2	2	新たな学校生活に適応するために、本校の教育理念、目的、目標を理解し、学則や諸規定、教育課程、学校生活について説明を受ける。
新入生歓迎会	6	6	6	学生間の親睦と連帯感を深める。
健康診断	2	2	2	各自の健康状態を把握し、健康の保持増進を図る。
防災訓練	2	2	2	防災に対する意識を高め、学校生活の安全確保を図る。
学校祭（3年に1回）	12	12	12	日頃の学習成果を広く地域の人々に紹介し、交流の場とする、また、学生間の交流と学生が主体的に学習する機会とする。
体育祭（3年に2回）	6	6	6	スポーツを通して、体力の向上とチームワークを高める。
宣誓式		10		看護の道への誇りと責任を自覚し、生涯を通して学習し続けていく決意と看護師にふさわしい態度を身につける。
卒業式			4	3 年間の学校生活を締めくくり専門職業人としての出発を自覚する。
特別講演・講義	10	8	6	幅広い知識や教養に身につけ、人間性を高める 社会人としてのキャリアを考え、看護師としてキャリア形成に生かす。
地域活動	6	6	6	地域で活動を通しコミュニケーション能力を養い、今後の看護実践に生かす。
協同学習の精神	2	2	2	１年間で取り組んだ協同学習の成果を発表し、協同学習の精神を培う。
ＨＲ	4	4	4	クラス運営を円滑にするため、意見交換の場とする。
合計時間	62	60	52	

教　育　内　容

基　礎　分　野

科学的思考の基盤

科 目 体 系



科　　目　　名　　論理的思考

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　１年次　前期

授　業　の　概　要　　客観的に物事を認識するための論理性は、すべての科学分野において重要である。論理的思考の形式と法則を学び、文章の読解を通じて論理的思考の基礎を養う内容である。

目　　標　　１．論理的思考及びその言語的表現について学ぶ。
２．思考の矛盾や妥当性を判断する能力を身につける。
３．事実を正しく解釈し言語的に表現することを身につける。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 2	1．論理学の概要	1）論理学の原理と概念 （1）人間の思考 （2）論理的思考 （3）論理的思考の方法 ①演繹的 ②帰納的 ③背理法 ④対偶 ⑤ド・モルガンの法則	講義	4	
3 ～ 4	2．論理的記述法	1）論文の構成と組み立て 2）論文の内容の基本 3）論文の読み方と自己表現	講義 演習	4	
5 ～ 7	3．論理的思考と自己表現	1）道筋を立てた表現の仕方 2）論理的発言の基礎 3）論理的に話すための用語	講義 演習	6	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　　その都度資料提示

参　考　文　献　　野矢茂樹：新版論理トレーニング，産業図書
野矢茂樹：論理トレーニング 101 題，産業図書
望月和彦：ディベートのすすめ，有斐閣
土田昭司：社会調査のためのデータ分析入門，有斐閣

評　価　方　法　　テスト、演習課題で評価

科　　目　　名　　学びの基本

単　位（時間数）　　１単位（30 時間）

履　修　年　次　　１年次　前期

授　業　の　概　要　　これから看護を学ぶための基本姿勢や協同の精神を取り入れた学習方法を学ぶ内容である。協同学習の理論や協同による論理的言語技術、協同に基づく探求学習の方法などを取り入れ主体的な学びができる。協同学習の技法は、これから学ぶ各看護学の学習方法の基本となる。

目　　標　　１．協同学習の理論と技法について体験する。
２．協同学習に基づく探究活動を通して仲間と学び主体的な学習の意義を実感する。
３．学習活動の基盤となる論理的思考及び言語技術を身につける。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 8	1．協同学習の理論と技法	1）協同学習への導入 2）学びの場作り 3）教育の目的と方法 4）協同学習の考え方 5）授業通信 6）ＬＴＤ話し合い学習法 7）分割方ＬＴＤの体験 8）ＬＴＤ授業モデル	講義 演習	16	
9 ～ 13	2．協同による論理的言語技術	1）ＬＴＤと対話 2）ＬＴＤとレポート 3）日本語作文技術 4）絵図の読み解き	講義	10	
14 15	3．協同に基づく探求学習	1）ＬＴＤ型ＰＢＬ	演習	4	

テ　キ　ス　ト　　安永悟：授業を活性化するＬＴＤ，医学書院，2019

参　考　文　献

評　価　方　法　　演習課題で評価

科　　目　　名　　人間工学

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　１年次　前期

授　業　の　概　要　　人間工学は、人間とそのまわりの環境をシステムとしてとらえ、これらの関係について解剖学、生理学、心理学などの領域から検討し、安全性、快適性、合理性を追求する学問である。本講義では人間を取り巻く生活環境、人間の動作の特徴を物理学的視点で学ぶ。

自然環境である光・音・振動などの性質を理解することは、よりよい生活環境の調整につながる。又、光・音・振動などの性質は多くの医療機器に活用されている。その原理を理解することは、検査や治療上の注意事項と関連できるようになり、誤作動による医療事故の防止にもつながる。また、人体の運動力学を学び、効果的なケアにつながる。

目　　標　　１．人間工学的な考え方が理解できる。
２．人間を取り巻く環境や日常生活動作が物理学とどのように結びついているか理解する。
３．人体の運動力学の基本を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．人間工学とは	1）人間工学とは 2）人間工学の変遷 3）看護に人間工学を活かす	講義	2	
2 ～ 4	2．人間を取り巻く生活環境と物理	1）振動、音 （1）音の性質と特徴 （2）振動の人体への影響 （3）音波と超音波 2）光 （1）明るさの測定 （2）光と色、レンズ 3）圧力 4）電子と磁気 5）原子と放射線	講義	6	
5 ～ 7	3．人間の形態的特徴と筋力的特徴	1）力とつりあい 2）動体力学 3）姿勢と動作	講義	6	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　　平田雅子：完全版ベッドサイドを科学する，学研，2020

参　考　文　献　　豊岡了：系統看護学講座　基礎分野　物理学，　医学書院，　第 7 版【電子版】

評　価　方　法　　テスト

人間と生活・社会の理解

科目体系

人間と生活・社会の理解

- 生活と暮らし　1単位（15時間）
- 健康と栄養　1単位（15時間）
- 生涯発達心理学　1単位（30時間）
- 倫理学　1単位（30時間）
- 人間関係論　1単位（30時間）
- 教育学　1単位（30時間）
- 異文化の理解Ⅰ　1単位（30時間）
- 異文化の理解Ⅱ（選択必修）　1単位（15時間）
- 健康とスポーツ　1単位（30時間）
- 社会と家族　1単位（15時間）
- 沖縄の文化　1単位（15時間）
- 情報科学　1単位（30時間）

科　　目　　名　　生活と暮らし

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　１年次　前期

授　業　の　概　要　　人間にとって生活と何か、暮らしとは何か理解し、生活を構成する要素、様々な生活環境を知る。看護を行う上で対象の生活を理解することは不可欠であり、生活の定義や捉え方を学ぶ内容である。暮らすとはどういうことか理解するとともに生活が健康に与える影響を知る。

目　　標　　１．生活者とはどのような存在かについて理解する。
２．生きるとは何か、暮らしの場の広がりやライフヒストリーなどを通して、人々の「生の営み」について理解を深める。
３．人々の生活圏、生活環境を理解し、生活が暮らすに与える影響を知る。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 2	1．人間の「生活」の理解	1）生活とは何か （1）4つの側面：生物学的、文化的、社会的、経済的 （2）生活を捉える視点：ＩＣＦの構成要素 （3）生活を構成する要素：生活時間、生活習慣 2）生活者としてのヒトの理解 ヒトとして生活の基本様式 3）ライフヒストリー	講義	4	
3 ～ 4	2．地域と文化の理解	1）地域の中での暮らしの理解 2）地域と文化のつながり 年中行事	講義	4	
5 ～ 6	3．地域の生活環境	1）生活を営む上での生活行動に関わる環境 2）生活環境と人との関わり	講義	4	
7	4．健康と生活	1）生活と疾患・障害の関わり	講義	2	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト

科　　目　　名　　健康と栄養

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　１年次　前期

授　業　の　概　要　　人間の生活における健康と栄養の関連性について理解し、発達段階に応じた食事の形態の基本を学ぶ。現在の栄養問題である生活習慣病や傷病者・高齢者などの低栄養障害の治療のため食品やその成分のみではなく、目の前の人間を見て健康・栄養状態を考える「人間栄養学」としての考えを学ぶ。医療における栄養の役割について理解する内容である。

目　　標　　１．人間の生活における健康と栄養の関連性について理解する。
２．栄養と栄養素の定義について理解する。
３．ライフサイクルにおける栄養とその形態を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．人間と食生活	1）食事と文化	講義	2	
2 ～ 3	2．健康と栄養	1）栄養の意義 2）身体に必要な栄養 3）食品中のエネルギー量 4）からだが必要とするエネルギー量 5）食生活・厚生労働省の指針	講義	4	
4	3．食品と食品群 栄養状態評価	1）日本食品成分表 2）各種食品群の分類と特徴 3）栄養アセスメントの意義・目的 4）身体計測・臨床検査	講義	2	
5 ～ 7	4．ライフサイクルにおける栄養と形態	1）乳幼児期の栄養 2）学童期の栄養 3）思春期・青年期の栄養 4）成人期の栄養 5）妊娠・授乳期の栄養 6）老年期の栄養	講義	6	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　　中村丁次：系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［3］栄養学，医学書院，第 14 版【電子版】

参　考　文　献

評　価　方　法

科　　目　　名　　生涯発達心理学

単　位（時間数）　　１単位（30 時間）

履　修　年　次　　１年次　前期

授　業　の　概　要　　本講義では、生涯発達心理学の基本概念を学ぶとともに、発達心理学と神経心理学の観点から、心と脳の発達の相互関係についても理解を深める。各発達段階における心理的成長と脳の変化を統合的に学び、看護の実践に役立つ知識を得ることを目的とする。

目　　標　　１．発達段階ごとの心と脳の発達の特徴を理解する。
２．認知・感情・社会性の発達を、心と脳の両面から説明できる。
３．子どもから成人期に至る発達障害および心と脳の病気について基礎的理解を得る。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1		1）オリエンテーション	講義	2	
2	1．心と脳の発達を理解するための基礎	1）生涯発達における発達心理学と神経心理学の基礎 （1）心の発達とは何か （2）脳と身体の発達 （3）社会の中でつくられる脳と心	講義	2	
3～7	2．成長と適応の時期：誕生から青年期まで	1）胎児期・乳児期の心と脳の発達 （1）胎児期・新生児期の身体・感覚、情動の発達 （2）胎児期・新生児期の脳の発達 （3）胎児期の経験が脳と心に及ぼす影響 2）乳児期の心と脳の発達 （1）愛着形成と社会的発達 （2）乳児期の脳の発達 （3）愛着と脳の発達の関係 3）幼児期の心と脳の発達 （1）幼児期の言語と認知発達及び自己制御の発達 （2）実行機能系の発達と言語に関わる脳の発達 （3）幼児期の言語発達と脳の可塑性 4）児童期の心と脳の発達 （1）認知・学習の発達と道徳性と社会性の発達 （2）児童期の脳の発達 （3）学習能力および道徳的判断と脳の発達との関係 5）思春期（青年期前期・中期）の心と脳の発達 （1）思春期の心理的特徴 （2）思春期の脳と行動の特徴	講義	10	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		（3）思春期の対人関係の発達と脳 6） 青年期の心と脳の発達 （1）自立と社会的関係の発達 （2）青年期後期の脳機能の特徴 （3）青年期後期における心の発達と動機づけ			
8 ～ 12	3．成熟と変化の時期：成人期から老年期まで	7） 成人期前期・中期の心と脳の発達 （1）成人期前期から中期にかけての心理的特徴 （2）成人期前期から中期の脳と学習の特徴 （3）成人期前期中期の性の多様性と支援の視点 8） 中年期(成人期後期)の心と脳の発達 （1）中年期の心の発達との特徴 （2）中年期の脳と身体の特徴 （3）中年期の愛着障害 9） 高齢者の認知機能と感情と脳機能の特徴 （1）高齢者の認知機能と脳機能 （2）高齢者の感情と脳との関係 （3）高齢者の社会性の発達と脳 10）高齢者の心と脳の健康 （1）高齢者の身体的・精神的健康の再考 （2）高齢者の健康を育むソーシャル・キャピタル （3）高齢期の自己理解と精神的成熟：発達心理学の視点から	講義	10	
13 ～ 14	4．発達多様性と支援：発達障害、・脳と心の病気	1） 生涯発達心理学と発達障害 （1）発達障害の心理学的理解と診断基準 （2）発達障害と脳の神経基盤 （3）成人期の発達障害と社会的適応 2） 心と脳の病気とその理解 （1）生涯発達と心の病気 （2）生涯発達と脳の病気 （3）心と脳の健康と共に生涯発達	講義	4	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト

参　考　文　献

評　価　方　法　　最終試験と WEB レポート等で総合的に評価

科　　目　　名　　倫理学

単　位（時間数）　　１単位（30 時間）

履　修　年　次　　１年次　前期

授　業　の　概　要　　人間とは何か、人間は如何に生きるべきか、人間・生命の尊厳とは何か、といった倫理的問題は古来より東西において様々なかたちで議論されてきたが、現代になると、急激な科学技術や生命科学の進歩によって、人類がかつて経験したことがなく、かつ、これまでの倫理観では対応の難しい様々な倫理的問題が浮上し、医療や看護の領域でも切実な問題となっている。

本講義では、そのような問題に対して、1. 倫理とは何か、2. 人間の行動と倫理、3. 倫理学の諸相、4. 現代における倫理問題Ⅰ、5. 現代における倫理問題Ⅱ、6. 倫理的意思決定という６つの観点から対処より良き問題解決策を共に見出してゆく。

目　　標

１．倫理に関する基本的な考え方や生き方について学び、これまでの自分自身の考え方、感じ方と比較しながら、より善い自己のあり方について考える。

２．さまざまな価値観の比較・検討や現代における医療と倫理問題を掘り下げ、患者をケアする看護師として重要な倫理的あり方・行為を身につける。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．倫理とは何か	イントロダクション（全体的説明） 1）倫理とは 2）規範とは 3）道徳とは	講義	6	
4	2．人間の行動と倫理	1）人間の存在の意味 2）人間にとっての倫理の意味	講義	2	
5 ～ 6	3．倫理学の諸相	1）アリストテレス（善） 2）ベンサム（功利主義） 3）カント（人間尊重の精神） 4）儒教の倫理観 （招魂再生と孝の理論） 5）仏教の倫理観 （諸行無常と諸法実相） 6）日本における倫理観 （祖先崇拝を中心に）	講義	6	
7 ～ 8	4．現代における倫理的問題Ⅰ（生命倫理）	1）生命倫理の定義と争点 人工妊娠中絶・安楽死と尊厳死・脳死と臓器移植	講義 演習	2 2	
9 ～ 13	5．現代生活における倫理的課題Ⅱ（ケア論）	1）ケア論 ケア論の成り立ち・定義・重要性 主なケアの定義・種類・役割と （1）緩和ケア・ホスピスケア・ターミナルケア （2）主なケアの定義・種類・役割と重要性	講義 演習	8 2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		2）スピリチュアルケア （1）スピリチュアルケアの歴史的成り立ちと定義・スピリチュアルペインスピリチュアルペイン （2）スピリチュアリティと文化的影響・スピリチュアルと宗教的関係 ・宗教的スピリチュアルと非宗教的スピリチュアル			
14	6．倫理的意思決定	1）倫理的問題へのアプローチ	講義 演習	2	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　　宮坂道夫ら：系統看護学講座　別巻　看護倫理，医学書院，第３版【電子版】

参　考　文　献　　小松光彦他：倫理学案内，慶応義塾大学出版会，2006
小坂国継他：倫理学概説，ミネルヴァ書房，2005
村上喜良:基礎から学ぶ　生命倫理学，勁草書房，2005
浜崎盛康、安次嶺勲他：ユタとスピリチュアルケア,ボーダーインク,2011

評　価　方　法　　テスト

科　　目　　名　　人間関係論

単　位（時間数）　　１単位（30 時間）

履　修　年　次　　１年次　前期

授　業　の　概　要　　人間関係の意義を理解し、人間関係発展のためのコミュニケーション技術とカウンセリングの基本・技法を学ぶ。

目　　標　　１．人間関係の意義を理解する。
２．人間関係発展のためのコミュニケーションの基本について理解する。
３．さまざまな生活場面での自己表現法としてアサーションスキルを身 につける。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 2 ～ 4	1．人間関係の基本的意義	1）人間関係的存在としての人間 2）社会化としての人間発達 3）社会化と個性化 4）社会的相互作用と社会的役割 （1）人間関係における社会的相互作用とは （2）社会的相互作用とその諸相 （3）社会的役割とは （4）役割関係における葛藤とその解決 5）人間関係の諸相 （1）職場の人間関係 （2）地域における人間関係	講義 講義	2 6	
5 ～ 9	2．コミュニケーションとは	1）コミュニケーションの基本概念 （1）マスコミュニケーション （2）パーソナルコミュニケーション 2）コミュニケーションの基本構造 （1）送り手・受け手 （2）希望・象徴・信号 3）言語的・非言語的コミュニケーション （1）言語表現と非言語表現 （2）非言語表現の種類と意味 4）コミュニケーションの障害 （1）コミュニケーションの歪みに関する問題 ①送り手の問題 ②受け手の問題 ③人間関係と距離 5）援助的コミュニケーション （1）カウンセリングの基本・技法 （2）面接技法 ①初対面の面接時の対応 ②傾聴する技法	講義	10	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
10	３．自己表現とアサーション	１）アサーションの基礎知識 （１）アサーションとは （２）アサーションの必要性 （３）自己と他者との関係性	講義	２	
11 ～ 14	４．アサーションの実際	１）アサーションの実際 （１）相手の立場を理解し共感しながら自分の主張も上手に自己表現していけるアサーティブな人間関係法を学ぶ。 （２）会話の場面を設定しロールプレイする。 （３）ロールプレイした内容を記述し、自己及び他者との関係性を振りかえる。	演習	８	（グループワーク）
15		テスト		２	

テ　キ　ス　ト　　石川ひろの：系統看護学講座 基礎分野 人間関係論，医学書院，第４版【電子版】

参　考　文　献　　服部祥子：人を育む人間関係論，医学書院，2003

評　価　方　法　　テスト、演習課題で評価

科　　目　　名　　教育学

単　位（時間数）　　１単位（30 時間）

履　修　年　次　　１年次　前期

授　業　の　概　要　　人間にとっての教育の意義を理解し、家庭・社会・学校における教育の特徴を学ぶ。
教育の原理・方法・評価方法、現代教育の諸問題を学び、健康教育や保健教育を具体的に提供する能力を養う。

目　　標　　１．教育の原理を基盤として、人間形成における教育の意義と機能について理解する。
２．教育の目的、方法、学習指導の基礎的知識を理解する。
３．教育的機能の意義を理解し、看護における指導の基礎的技術を身につける。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	１．人間にとっての教育の意味	１）人間の成長と教育 （１）教育の意義 （２）教育の機能	講義	2	
2 ～ 4	２．家族・社会の教育	１）家庭教育 ２）生涯教育と社会教育 ３）学校教育制度	講義	6	
5	３．現代教育の諸問題	１）問題とその背景（要因） （１）問題解決に対する取り組み	講義	2	
6 ～ 7	４．教育の目的と方法	１）教育目的と目標 ２）教育の方法の原則 ３）学習指導 （１）学習指導の意義・目標 （２）教育内容と教材 （３）学習指導の原理 ４）学習指導の形態 （１）個別指導 （２）集団指導 ５）指導技術とは	講義	4	
8	５．教育評価	１）教育評価の意義と目的 ２）教育評価の方法	講義	2	
9 ～ 10	６．指導技術	１）看護の教育機能 （１）看護における指導教育とは （２）指導技術の基本 （３）指導技術のプロセス	講義	4	
11 ～ 15	７．指導案作成	１）看護における指導場面での指導案作成 （１）対象：幼児の集団 青年期の集団 壮年期の集団 （２）身近な健康問題を捉えてグループワークで所定の用紙に指導案を作成し、提出する。	演習	10	（グループワーク）・担当講師と専任教諭のチームティ

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		例：虫歯の予防について たばこの害について 肥満について			ーチングとする。

テ　キ　ス　ト

参　考　文　献　　多鹿　秀継：発達と学習の心理　学文社
：人間と教育，民主教育研究所

評　価　方　法　　演習課題で評価

科　　目　　名　　異文化の理解Ⅰ（英語）

単　位（時間数）　　１単位（30 時間）

履　修　年　次　　１年次　後期

授　業　の　概　要　　専門的学習へ導くための科目と捉え、看護ケアの場面での英会話や、看護英語の文献の読解を学ぶ。また、国際化豊かな地域性を生かし、在国外国人との交流しやすい環境にあるため、言語のみでなく外国文化の理解につなげる内容である。

目　　標　　１．日常の診療及び看護における基礎的な英会話を習得する。
２．医療・看護に関する外国文献･資料を読解する基礎的能力を身につける。
３．外国の異文化を理解し、外国人の対象を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 4	1．基礎英語 2．外来における日常英会話	1）外来における英会話 （1）初診時の会話 （2）外来における個人情報の収集 （3）診療申込みの記入 （4）症状の訴え方、人体名称 （5）問診（症状のきき方） （6）病歴聴取と疾患名 （7）外来診察室での会話	講義	8	
5 ～ 10	3．病棟における日常英会話	1）病棟における英会話 （1）バイタルサイン測定 （2）検査の説明Ⅰ （3）検査の説明Ⅱ （4）手術の説明と準備 （5）術後処置 （6）動作を伴うベッド周辺の会話 2）実習室でのグループ発表	講義 演習	12	（グループワーク）
11 ～ 14	4．医療関連長文	1）医療関連長文 2）海外での妊娠・出産・育児体験談 3）看護長文(症例研究) 4）海外の看護・医療事情＆専門用語	講義	8	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　　黛　道子、宮津　多美子、Philip Hinder 他： Caring for People, センゲージラーニング株式会社

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト、演習課題で評価する。

科　　目　　名　　選択必修科目

異文化の理解Ⅱ（中国語）

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　３年次　前期

授　業　の　概　要　　台湾・中国・香港の医療システムや診療文化を認識することからその地域の文化的感受性を構築する。さらに基礎的に中国語による看護現場の基本的なコミュニケーションができる内容とする。

目　　標　　１．日常の診療及び看護における基礎的な会話を習得する。
２．中華系の文化を知り看護場面で活かす。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．概説 2．医療体制	1）中華系の定義 2）各国の同異点 3）台湾・中国の医師養成制度 4）台湾・中国の看護師養成制度	講義	2	
2	2．医療体制	1）台湾・中国・香港の医療機関構成 2）台湾・中国・香港の医療費用仕組み	講義	2	
3	3．医療文化	1）出産の診療文化 2）老後のケア文化 3）病気の診療文化 4）死亡の対応文化	講義	2	
4	4．沖縄の課題 5．看護基礎会話	1）医療機関の整備 2）人材の整え 3）在住外国人と訪日外国人の診療サポート 4）日常会話・挨拶	講義	2	
5 ～ 7	5．看護基礎会話	1）外来の問診・処置 2）緊急室の問診・処置 3）検査の説明・案内 4）病棟 5）復習	講義	6	ロールプレイ
8		会話寸劇、テスト		1	

テ　キ　ス　ト

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト、演習課題で評価

科　　目　　名　　選択必修科目

異文化の理解Ⅱ（韓国語）

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　３年次　前期

授　業　の　概　要　　外国の医療システムや診療文化を認識することからその地域の文化的感受性を構築する。さらに基礎的に韓国語による看護現場の基本的なコミュニケーションができる内容とする。

目　　標　　１．日常の診療及び看護における基礎的な会話を習得する。
２．韓国の文化を知り看護場面で活かす。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．韓国の医療体制	1）韓国の特徴 2）韓国の医療体制 （1）看護師の養成制度 （2）医療機関のしくみ	講義	2	
2	2．韓国の文化	1）韓国の文化の理解 （1）生活習慣 （2）外国文化の違い （3）在沖外国人の特徴 2）病気診療の関する文化	講義	2	
3 ～ 7	3．韓国語の基礎 4．日常会話	1）韓国語の基礎知識 2）日常会話（挨拶、自己紹介） 3）診療場面での韓国語	講義 演習	10	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　　未定

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト、演習課題で評価

科　　目　　名　　選択必修科目

異文化の理解Ⅱ（スペイン語）

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　３年次　前期

授　業　の　概　要　　様々な国の人と交流することで、文化を触れて身近に感じることができる内容とする。また、積極的にコミュニケーションをとることにつながる。

目　　標　　１．日常の診療及び看護における基礎的な会話を習得する。
２．他国の文化を知り看護場面で活かす。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．スペイン語圏の医療体制	1）スペイン語圏の特徴 2）スペイン語圏の医療体制 （1）看護師の養成制度 （2）医療機関のしくみ	講義	2	
2	2．スペイン語圏の文化	1）スペイン語圏の文化の理解 （1）生活習慣 （2）外国文化の違い （3）在沖外国人の特徴 3）病気診療の関する文化	講義	2	
3 ～ 7	3．スペイン語の基礎 4．日常会話	1）スペイン語の基礎知識 2）日常会話（挨拶、自己紹介） 3）診療場面でのスペイン語	講義 演習	10	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト、演習課題で評価

科　　目　　名　　健康とスポーツ

単　位（時間数）　　１単位（30 時間）

履　修　年　次　　２年次　後期

授　業　の　概　要　　心と体のバランスは健康を考える上で重要である。運動は、心のバランスを保つ上でも必要である。また、運動による筋力アップは、転倒予防、生活習慣病の予防にもつながる。生活の中でとりいれられる運動を実践することは、自らの健康維持にも役立ち、看護を実践する上での指標となる。生活の中での運動に焦点を当て、学習する。

目　　標　　１．スポーツの持つ健康への意義と実践を交えながら理解する。
２．健康な生活を送るうえで必要な身体運動のメカニズムについて理解を深める。
３．運動習慣を身につける。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 2	1．健康と運動	1）運動の目的 2）健康管理と運動 3）発達段階・性別・経験にあわせた運動の必要性	講義	4	
3	2．運動の種類と効果	1）有酸素運動 2）柔軟性と障害予防 3）ダイエットとシェイプアップ	講義	2	
4 ～ 5	3．体力測定とその評価	1）自己の体力測定とその評価	実技	4	
6 ～ 10	4．健康の維持・増進	1）バレーボール 2）バドミントン・(卓球) 3）健康体操	実技	10	
11 ～ 14	5．心の健康	1）リラクゼーション 2）瞑想法（マインドフルネスなど） 3）その他	実技	8	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト、実技で評価

科　　目　　名　　社会と家族

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　２年次　前期

授　業　の　概　要　　社会の構造や家族の形態・機能を学ぶ。患者や患者を取り巻く家族を理解し、家族を含めた看護を考える視点を学ぶ。

目　　標　　１．社会的存在としての人間を理解する。
２．社会の構造・機能や変化を通して、個人・家族・集団の関係を多角的に学ぶ。
３．家族の機能について理解する。
４．よりよい社会の形成や生活の向上を考えて看護が展開できる能力を身につける。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．人間と社会の関係	1）人間と社会の関係 （1）社会とは （2）人間と社会の関係 2）社会の成り立ち （1）個人と社会 （2）集団と社会 3）地域社会における生活とその変化 （1）地域の変化と再形成 （2）地域社会と生活周期 （3）社会全体の都市化	講義	6	
4 ～ 5	2．家族の機能と役割	1）家族とは 2）家族の歴史的発達 3）家族の機能と役割 4）現代家族の諸問題	講義	4	
6 ～ 7	3．家族を理解するための理論	1）家族発達理論 2）家族システム理論 3）家族ストレス対処論	講義	4	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　　講義でその都度資料提示

参　考　文　献　　鈴木和子：家族看護学，日本看護協会出版会
米林喜男：社会学，メヂカルフレンド社

評　価　方　法　　テスト

科　目　名	沖縄の文化
単　位（時間数）	１単位（15 時間）
履　修　年　次	３年次　後期
授　業　の　概　要	さまざまな民族の文化や社会を知ることによって、自らの文化や社会、さらに人間について学ぶ。異文化理解の枠組み、制度化された人間関係、儀礼や信仰のありようを学ぶ。
目　標	さまざまな民族の社会・文化を学び、自らの文化を考え、自己と他者の理解を深める。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 2	1．人間と文化	1）文化人類学の目的と方法 2）文化とは何か （1）自文化と異文化 （2）文化の概念	講義	4	
3 ～ 4	2．文化人類学の流れとフィールドワーク	1）文化人類学の流れと異文化理解 2）フィールドワーク	講義 演習	4	
5	3．人と人とのつながり	1）人と人とのつながり （1）親と子・家族とは （2）親族関係と親族の組織化	講義	2	
6	4．人生と時間	1）儀礼の諸相 （1）聖と俗 （2）通過儀礼	講義	2	
7	5．信仰と世界観	1）宗教の専門家たち 2）シャーマニズムの世界 3）沖縄の文化と生活 （1）信仰・儀礼 （2）健康観 （3）死生観	講義	2	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト	波平エリ子：トートーメーの民俗学講座－沖縄の門中と位牌祭祀，ボーダーインク
参　考　文　献	波平恵美子：系統看護学講座　基礎分野　文化人類学，医学書院，第４版【電子版】
評　価　方　法	テスト

科　　目　　名　　情報科学

単　位（時間数）　　１単位（30 時間）

履　修　年　次　　２年次　前期

授　業　の　概　要　　「情報」と「コミュニケーション」は、専門職である看護師にとって情報通信技術はその専門性を発揮するために必要不可欠なものである。また、情報社会において看護師は、ＩＣＴを活用した情報収集するための能力を身につけ患者の情報を安全に活用し、情報をもとに関わりを持つ必要がある。講義では情報とは何か、看護に関連づけて学ぶとともに情報リテラシーを学ぶ内容とする。さらに、看護の専門性を発揮するための看護研究に必要なデータ収集や統計的手法も学ぶ。

目　　標　　１．情報科学の基礎を学び、人と情報社会との関係・看護との関連について理解する。
２．情報の収集・蓄積・分析の能力を身につけ、情報の整理と活用の基礎を学ぶ。
３．一般的な統計の概念、統計の方法について理解する。
４．社会現象、衛生の動向を客観的に捉え、統計の客観的推定解釈ができる。
５．看護研究に必要な統計的手法を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	講義形態	時間	備考
1 ～ 3	1．情報と情報化社会	1）情報とは、情報化による社会の変化 ＡＩ利活用の動向 2）情報のリテラシーと倫理 3）コンピューターとネットワークの発展	講義	6	
4 ～ 10	2．保健医療における情報	4）個人情報の保護、セキュリティ 5）学術情報検索の意義 6）学術情報の検索と利用 7）インフォデミックとファクトチェック 8）チーム医療とチーム活動（目標の管理） 9）チーム医療とチーム活動（情報の伝達） 10）インフォームドコンセントと倫理	講義	14	
11 ～ 15		11）エビデンスを活用した保健医療（医療政策など）、ビッグデータの活用 12）看護における情報システムの活用例：ICT を活用した看護、遠隔看護など 13）ヘルスプロモーションと情報 14）情報リテラシー：ガイドライン、文献デビュー（エビデンスピラミッド、研究の種類、用語の理解） 情報の重要性を判断できる能力を身につける		10	

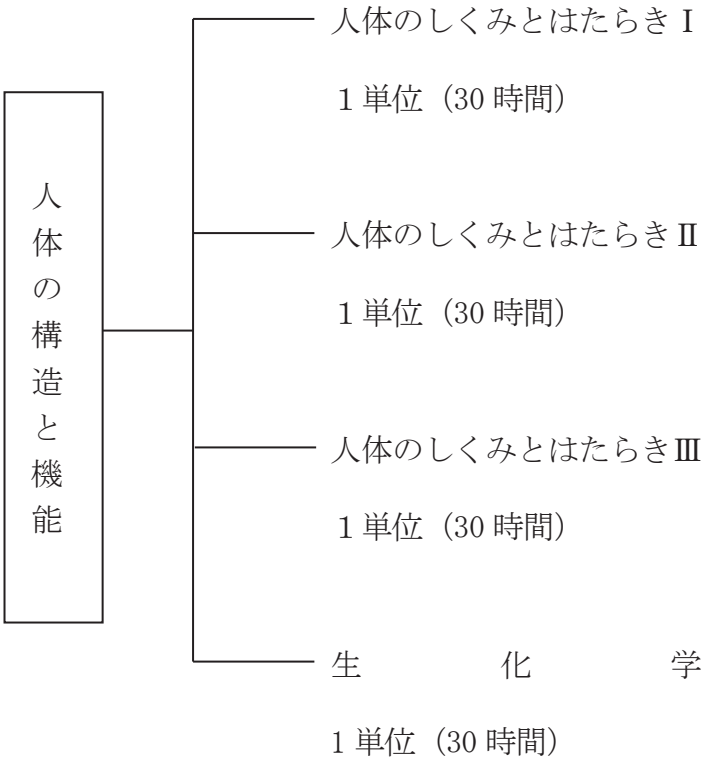
回	単　元	学　習　内　容	講義形態	時間	備考
		15）統計学の基礎（データの代表性、推定、検定の考え方など）			

テ　キ　ス　ト	中山和弘：系統看護学講座 別巻 看護情報学，医学書院，第４版【電子版】
参　考　文　献	宮川祥子：情報科学, ヌーベルヒロカワ 国民衛生の動向，厚生労働統計協会
評　価　方　法	演習課題で評価

専門基礎分野

人体の構造と機能

科 目 体 系



科　　目　　名　　人体のしくみとはたらきⅠ

単　位（時間数）　　１単位（30 時間）

履　修　年　次　　１年次　前期

授　業　の　概　要　　疾病治療学との関連で、基本的な解剖学的用語や身体の構成を学び、人体のしくみとはたらきを学ぶ意義や看護の土台となる基礎知識を学ぶ内容とした。また、ヒトの生活行動に焦点をあて「食べる」「トイレに行く＝排尿」の２つの生活行動の内容を機能別に捉えて学ぶ。消化器、尿の生成、子孫を残すしくみ＝生殖器に関するしくみとはたらきに人体の発生をあわせて学ぶ内容とした。

目　　標

１．個体としてのヒトの構成を理解する。
２．生活行動である「食べる」に関連する消化と吸収のしくみとはたらきについて理解する。
３．生活行動である「トイレにいく＝排尿」に関連する尿の生成のしくみとはたらきについて理解する。
４．「子孫を残すしくみ＝生殖器」に関するしくみとはたらきと人体の発生もあわせて理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．人体のしくみとはたらきを学ぶ意義 2．人体のしくみに関する基礎知識	1）人体のしくみとはたらきを学ぶ意義 2）形から見た人体 （1）解剖学用語（方向と位置を示す用語、面と断面、人体の部位を示す用語、腔所、器官） 3）素材からみた人体 （1）細胞と組織 4）機能からみた人体 （1）体液とホメオスタシス	講義	6	
4 ～ 6	3．消化と吸収のしくみとはたらき	1）口・咽頭・食道 2）胃・小腸・大腸 3）膵臓・肝臓・胆嚢 4）腹膜	講義	6	
7 ～ 8		1）演習：食事・栄養摂取のしくみ・メカニズムの基礎知識 （1）食欲のメカニズム （2）咀嚼・嚥下のメカニズム （3）消化・吸収のメカニズム	演習	4	
9 ～ 11	4．尿の生成のしくみとはたらき	1）腎臓 2）排尿路 3）体液の調節	講義	6	
12 ～ 14	5．子孫を残すしくみとはたらき	1）生殖器 2）受精と胎児の発生 3）成長と老化	講義	6	
15		テスト		2	

テキスト	坂井建雄 : 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能［１］解剖生理学，医学書院，第 12 版【電子版】
参考文献	菱沼典子 : 看護形態機能学 生活行動からみるからだ，日本看護協会出版会，第４版，2017 林正健二 : ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学, メディカ出版, 第４版，2016
評価方法	テスト

科　目　名	人体のしくみとはたらきⅡ
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次　前期
授　業　の　概　要	ヒトの生活行動に焦点をあてた人体のしくみとはたらきのうち「息をする」を学ぶ内容とした。また、恒常性維持のための物質の流通に関連するしくみとはたらきとして、流通の媒体である血液、生体防御を学ぶ。さらに、流通の原動力である循環のしくみとはたらきについて学ぶ内容とした。
目　標	１．生活行動である「息をする」に関連する呼吸のしくみとはたらきについてする。 ２．恒常性維持のための物質流通の媒体である血液、生体防御に関連するしくみとはたらきについて理解する。 ３．恒常性を維持するための物質流通の流通路である血管、循環のしくみとはたらきについて理解する。 ４．生体防御のしくみとはたらきについて理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	１．呼吸のしくみとはたらき	１）呼吸器のしくみ ２）呼吸器のはたらき	講義	6	
4 ～ 5		１）呼吸の換気のしくみ （１）呼吸量の測定（肺活量、１秒率） （２）換気障害	演習	4	
6 ～ 7	２．血液のしくみとはたらき	１）血液の組成と機能 ２）血液の成分（血球） ３）血液凝固 ４）血液型	講義	4	
8 ～ 11	３．循環のしくみとはたらき	１）循環器系のしくみとはたらき （１）心臓の構造 （２）血管と循環（胎児循環を含む） （３）リンパ系	講義	8	
12 ～ 14	４．生体防御のしくみとはたらき	１）生体防御とは ２）生体の防御機構 （１）非特異的防御機構（皮膚・粘膜） （２）特異的防御機構（免疫） ３）生体防御の関連臓器 （１）リンパ節 （２）胸腺 （３）脾臓	講義	6	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト	坂井建雄：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能［１］解剖生理学，医学書院，第12版【電子版】
参　考　文　献	菱沼典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ，日本看護協会出版会，第４版，2017 林正健二：ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学，第４版，メディカ出版，2016
評　価　方　法	テスト

科　目　名	人体のしくみとはたらきⅢ
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次　後期
授　業　の　概　要	「人体のしくみとはたらきⅢ」では、恒常性維持のための調節機構に関連する人体のしくみとはたらきとして、内部の環境を整える、情報を判断し伝達する、身体を支え動かす、外部から情報を取り入れるしくみとはたらきについて学ぶ内容とした。
目　標	１．内部の環境を整える内分泌とホルモンのしくみとはたらきについて理解する。 ２．情報を判断し、伝達に関連する神経系のしくみとはたらきについて理解する。 ３．身体を支え動かすことに関連する骨格系や筋系のしくみとはたらきについて理解する。 ４．ヒトの社会生活を営むうえで欠かせない外部から情報を取り入れるしくみとはたらきについて理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 4	1．内部の環境を整えるしくみとはたらき	1）内分泌とホルモン （1）内分泌系とは （2）ホルモン分泌の調節（フィードバック機構） 2）全身の内分泌腺と内分泌細胞 （1）視床下部 - 下垂体系 （2）甲状腺と副甲状腺 （3）膵臓 （4）副腎 （5）性腺 （6）その他（内分泌器官以外のホルモン分泌器官） 3）ホルモンによる調節 （1）糖代謝 （2）カルシウム代謝 （3）ストレスとホルモン （4）乳房の発達と乳汁分泌 （5）高血圧とホルモン	講義	8	
5 ～ 8	2．情報を判断し伝達するしくみとはたらき	1）神経系の構造と機能 （1）神経細胞と支持細胞 （2）ニューロン （3）シナプス 2）中枢神経 （1）脳の構造と機能 3）末梢神経 （1）脳神経と脊髄神経 （2）体性神経と自律神経 4）生体のリズム	講義	8	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
9 ～ 10	３．身体を支え動かすしくみとはたらき	１）骨格系 （１）骨と骨格 （２）頭蓋 （３）体幹の骨格 （４）体肢の骨格 （５）関節 ２）筋系 （１）筋の種類 （２）筋の機能 （３）運動と骨格筋 （４）骨格筋	講義	4	
11		動くことや移動することのメカニズム １）日常生活の基本的な動き ２）随意運動と反射的な運動 ３）ボディメカニズム	演習	2	
12 ～ 14	４．感覚器のしくみとはたらき	１）視覚 （１）目（眼球）の構造 （２）視覚 ２）聴覚 （１）耳の構造 （２）聴覚 （３）平衡覚 ３）味覚と嗅覚 ４）痛み（疼痛） （１）体性感覚 （２）内臓感覚	講義	6	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　　坂井建雄：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能［１］解剖生理学，医学書院，第12版【電子版】

参　考　文　献　　菱沼典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ，日本看護協会出版会，第４版，2017

林正健二：ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学，メディカ出版，第４版，2016

評　価　方　法　　テスト

科　目　名	生化学
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次　後期
授　業　の　概　要	生体物質の基本的知識とその物質代謝を基にして、病気や病態を捉える科目である。様々な生体機能の中で、正常を維持するためにどの物質が重要な役割を果たしているのか、正常から異常へと変化する際にどの経路が関連しているのか学ぶ。また、物質の代謝物を数値化されたものは、臨床に広く応用されている生化学検査であり、その検査の意味をも理解することにつながり、看護ケアをする上での科学的判断の根拠につながる科目である。
目　標	１．生体を構成する物質とその代謝に関連する酵素の働きを理解する。 ２．三大栄養素（糖質・脂質、タンパク質）の代謝のメカニズムを理解する。 ３．遺伝情報を担う物質や遺伝の基礎知識について理解する。

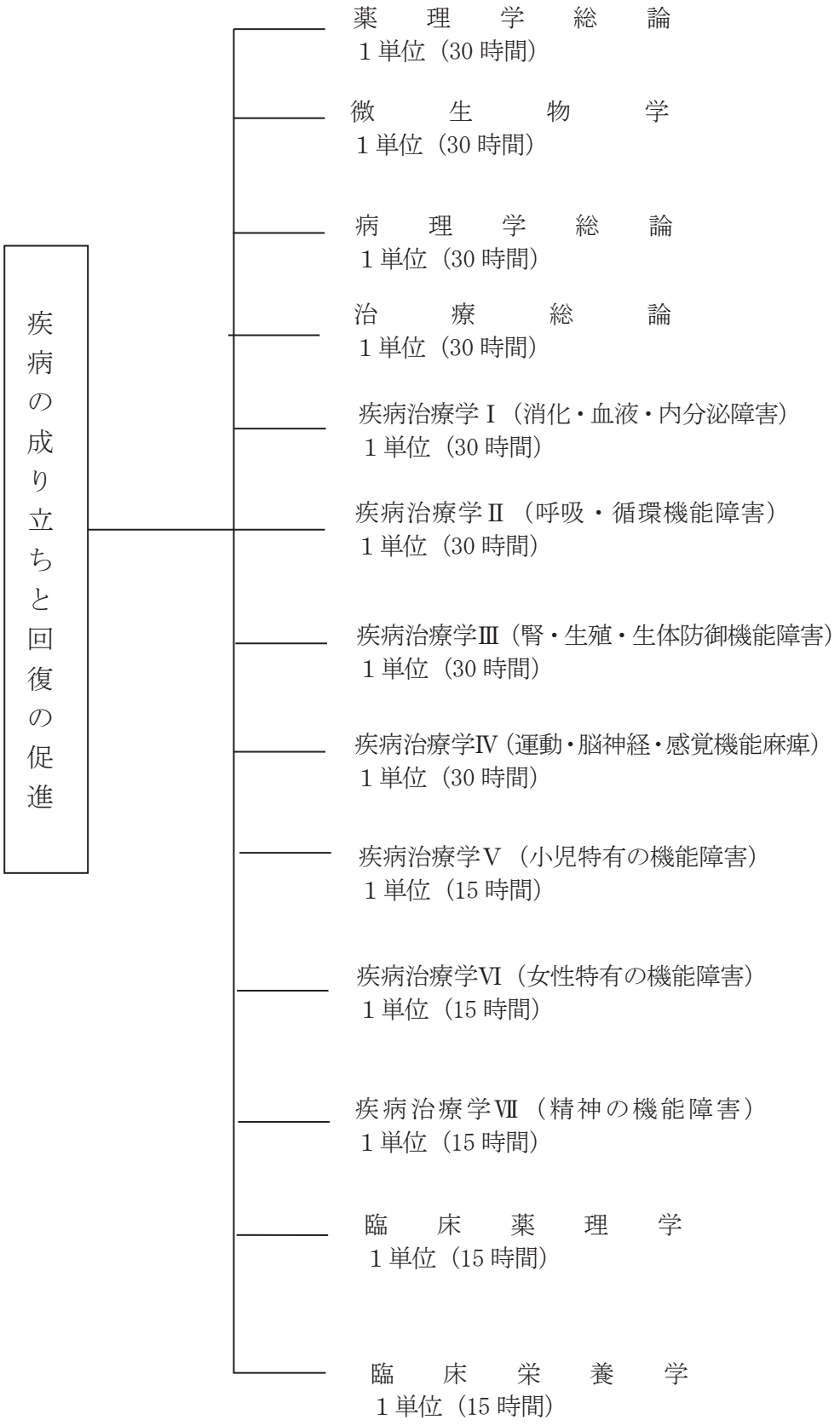
授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	１．代謝と酵素	１）代謝の基礎知識 ２）酵素の基礎知識	講義	6	
4 ～ 5	２．糖質代謝	１）糖質とは ２）糖質の種類と機能 ３）糖質代謝の過程	講義	4	
6 ～ 7	３．脂質代謝	１）脂質とは ２）脂質の種類と機能 ３）脂質代謝の過程	講義	4	
8 ～ 9	４．タンパク質代謝	１）タンパク質とは ２）タンパク質の種類と機能 ３）タンパク質代謝の過程	講義	4	
10 ～ 12	５．遺伝情報を担う物質	１）遺伝の基礎知識 ２）核酸の種類と機能 ３）核酸の代謝	講義	6	
13 ～ 14	６．ビタミンとホルモン	１）ビタミンの種類と機能 ２）ホルモンの種類と機能	講義	4	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト	畠山鎮次：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能［２］ 生化学，医学書院，第 14 版【電子版】 中村丁次：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能［３］ 栄養学，医学書院，第 14 版【電子版】
参　考　文　献	
評　価　方　法	テスト

疾病の成り立ちと回復の促進

科 目 体 系



科　　目　　名　　薬理学総論

単　位（時間数）　　1単位（30時間）

履　修　年　次　　1年次　後期

授　業　の　概　要　　薬は病気によって身体機能が正常より亢進、あるいは低下した状態のときに正常な状態に近づけるようにはたらく化学物質である。このように薬の基本的性質を理解し、主な薬剤の特徴として病気の回復促進につながる援助の根拠となるような学習内容とした。また、医薬品に関する法律について薬剤に関する基本を学ぶ内容とした。

目　　標　　1．薬理学の基礎知識を理解する。
2．健康障害に対する薬物療法の作用機序、人体への影響について理解する。
3．医薬品に関する法律について理解する。

授　業　内　容

回	単元名	学習内容	授業形態	時間	備考
1～8	1．薬理学の基礎知識	1）薬物とは（医薬品・医薬部外品） 2）薬物（医薬品）の分類 3）医薬品の名前 4）薬が作用するしくみ（薬力学） 5）体内における薬の働き（薬物動態学） 6）相互作用 7）体内での動きに影響を与えるもの（腎機能、肝機能、食事） 8）薬効に影響する因子（年齢、性、妊娠、遺伝子） 9）好ましくない副作用（薬物有害反応）	講義	16	
9～13	2．主な薬剤とその特徴	1）各薬剤の基礎事項（作用のしくみ） 2）特殊な薬物の取り扱い	講義	10	
14	3．医薬品に関する法律	1）医薬品に関する法律 （1）劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬他 2）新薬の開発	講義	2	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　　吉岡充弘：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進［3］薬理学，医学書院，第16版【電子版】

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト

科　目　名	微生物学
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次　前期
授　業　の　概　要	高分子有機化合物を他の生物に再利用可能な小さな分子に分解したり、人間に有益をもたらす食物を作り出したり、人間や動植物に病気を引き起こしたりという多様な面がある。微生物学を学ぶことにより、微生物がどこにいて、どのようにしてヒトに感染し病気を起こすのか、それを治療し予防するにはどうしたらよいかなどを学ぶ内容とする。
目　標	１．健康を脅かす微生物の基礎知識を理解する。 ２．感染とその生体防御機構、感染症の検査と治療について理解する。 ３．主な病原微生物と病原微生物の検出について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 2	1．微生物学の基礎知識	1）微生物学を学ぶ意味 2）微生物の性質と特徴 3）微生物と環境、微生物とヒト 4）微生物学の歩み	講義	4	
3 ～ 5	2．細菌	1）細菌の性質（細菌総論） （1）細菌の構造と機能 （2）細菌の生育環境・増殖 （3）細菌の遺伝・変異 （4）細菌の病原性 （5）常在細菌叢	講義	6	
6	3．真菌	1）真菌の性質 （1）真菌の構造 （2）真菌の増殖、栄養と培養 2）真菌の分類	講義	2	
7	4．原虫	1）原虫の性質 （1）原虫の構造 2）原虫の分類	講義	2	
8 ～ 10	5．ウイルス	1）ウイルスの性質 （1）ウイルスの構造と機能 （2）ウイルスの増殖 （3）ウイルスの遺伝・変異 （4）ウイルスの病原性 2）ウイルスの分類	講義	6	
11	6．感染と感染症	1）感染とは 2）感染の成立から発症・治癒まで 3）予防と感染防御	講義	2	
12	7．免疫の基本的なしくみ	1）自然免疫 2）獲得免疫 3）粘膜免疫	講義	2	
13	8．滅菌と消毒	1）滅菌・消毒とは 2）滅菌法	講義	2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		３）濾過除菌 ４）消毒と消毒薬			
14	９．病原体の検出法	１）細菌学的検査法 ２）ウイルス学的検査法 ３）真菌学的検査 ４）原虫学的検査 ５）その他の検査	講義	２	
15		テスト		２	

テ　キ　ス　ト　　吉田眞一：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進［４］微生物学，医学書院，第 14 版【電子版】

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト

科　目　名	病理学総論
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次 前期
授　業　の　概　要	病理学は、病気の原因を追究し、病気になった患者の身体に生じている変化がどのようなものであるかを学ぶ。患者の病気の診断・検診及び病気の予防にも生かされる。看護にとって根拠に基づいた的確な看護を行うためには、人間の構造と機能を理解したうえで、病気の原因あるいは経過についても正確な知識を養っておかなければならない。また、病理学を知ることは、日常行っている看護活動の根拠となりうる。また、疾病の発生傾向や発生要因などについても理解することは、予防的視点から看護に取り組むことにつながる。
目　標	１．疾病の原因や身体に生じる変化・メカニズムを理解する。 ２．炎症・循環障害・腫瘍などの発生原因や進行過程から、診断や治療について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	１．病気の原因 ２．疾病の分類	１）看護で病理を学ぶ意義 ２）病気の原因 （1）内因：素因 遺伝・染色体異常 内分泌障害・免疫 （2）外因：栄養障害 物理的・化学的 生物学的因子 （3）医原病と公害病 ３）疾病の分類	講義	2	
2 ～ 3	３．細胞・組織の損傷と修復、炎症	１）細胞・組織の損傷とその原因 ２）細胞の適応現象 ３）細胞の死 ４）細胞と組織の変性 ５）炎症に関与する細胞と炎症メディエーター ６）局所の炎症 ７）組織の修復と創傷治癒	講義	4	
4 ～ 5	４．炎症の分類と治療	１）炎症とは （1）炎症の原因 （2）炎症の症状 ２）炎症基本病変 ３）急性炎症のメカニズム ４）急性炎症の種類 ５）炎症の経過に影響する因子 ６）慢性炎症と肉芽腫性病変 ７）炎症の全身への影響	講義	4	
6	５．免疫と免疫不全	１）獲得免疫と自然免疫 ２）能動免疫と受動免疫	講義	2	

回	単　元	学　習　内　容	講義形態	時間	備考
7 ～ 8	6．アレルギーと自己免疫疾患 7．移植と再生医療	1）アレルギー 2）自己免疫疾患 3）移植と拒絶反応 4）臓器移植	講義	4	
9 ～ 10	8．感染の成立と感染症の発病 9．循環障害	1）病原体と感染源 2）生体の防御反応 3）感染経路 4）循環系の概要 5）浮腫 6）充血とうっ血 7）出血と止血 8）血栓症 9）塞栓症 10）虚血と梗塞 11）側副循環による障害 12）高血圧症 13）播種性血管内凝固症候群 14）ショックと循環不全	講義	4	
11	10．代謝障害	1）脂質代謝障害 2）タンパク質代謝障害 3）糖質代謝 4）そのほかの代謝障害	講義	2	
12	11．老化と死 12．先天異常と遺伝性疾患	1）個体の老化 2）老化のメカニズムと細胞・組織・臓器の変化 3）遺伝の生物学 4）先天異常	講義	2	
13	13．腫瘍	1）腫瘍の定義と分類 2）悪性腫瘍の広がりと影響 3）腫瘍発生のメカニズム	講義	2	
14	14．生活習慣と環境因子による生体の障害	1）生活習慣による生体の障害 2）放射線による生体の障害 3）中毒	講義	2	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　　大橋健一：系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進［1］病理学，医学書院，第6版【電子版】
田中越郎：系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進［2］病態生理学，医学書院，第3版【電子版】

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト

科　目　名	治療総論
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次　後期
授　業　の　概　要	主に外科的治療に関する共通の特徴として、放射線療法、手術療法や麻酔法、疼痛管理などの内容とした。また、手術後のリハビリテーションや障害をもつ対象のリハビリテーションも含めた。さらに生体の危機にある状態への対応として救急医療についても学習し、看護援助の基礎知識とする内容とした。
目　標	１．放射線による診断と治療について理解する。 ２．さまざまな健康障害を治療するときに共通する麻酔とペインコントロール、外科的治療の基礎について理解する。 ３．リハビリテーションの概念とその看護の主な概要を理解する。 ４．救急医療の概念と救急処置法の原則について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．放射線による診断と治療	1）放射線とは 2）画像診断の役割 （1）X線診断 （2）CT （3）MRI （4）超音波検査 （5）核医学診断 3）放射線治療の原理 4）放射線治療の基礎 5）放射線治療の特徴と目的	講義	2	
2 ～ 5	2．外科的治療	1）手術侵襲と生体反応 2）術後管理 （1）体液管理 （2）栄養管理 3）手術後の疼痛管理 （1）術後疼痛のメカニズム （2）術後疼痛が生体に及ぼす影響 （3）術後鎮痛法の適応と利点・欠点 4）術後合併症 （1）術後合併症の分類と予防 ①手術操作そのものに起因する合併症 ②手術侵襲に起因する合併症 ③術後管理に関連する合併症 5）熱傷と治療 6）創傷治癒 （1）創傷治癒過程 （2）創傷の治癒形式 （3）治癒に影響する因子 （4）創傷管理法	講義	8	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
6 ～ 7	３．麻酔	１）麻酔の役割 ２）麻酔科による術前管理 ３）麻酔の種類と概要 （１）全身麻酔 ①前投薬と全身麻酔 ②麻酔の導入 ③気道確保法 ④麻酔中麻酔後の合併症 ⑤術中の管理 ⑥全身麻酔からの覚醒 ⑦術後管理 （２）伝達麻酔の種類と特徴	講義	4	
8 ～ 9	４．ペインコントロール	１）痛みのメカニズム （１）痛みとは （２）痛みの分類 ①生体痛と内臓痛 ②誘因による痛みの分類 ③急性痛と慢性痛 ２）疼痛の発生機序 ３）癌性疼痛の成り立ち ４）癌性疼痛のコントロール （１）WHOによる癌性疼痛治療法 ① WHO３段階治療ラダー ② WHO癌疼痛治療法の原則 ③オピオイドについて （２）癌性疼痛に対する神経ブロックの適応 （３）硬膜外鎮痛について （４）癌性疼痛に用いる基本薬	講義	4	
10 ～ 12	５．リハビリテーション	１）リハビリテーションの定義と概要 （１）障害者の定義と制度 （２）疾患・障害・生活機能の分類 ・国際生活機能分類（ＩＣＦ） （３）リハビリテーション看護の方法 ２）運動器系の障害とリハビリテーション看護 （１）骨折のリハビリテーションプログラム ３）中枢神経系の障害とリハビリテーション （１）脳血管障害のリハビリテーション （２）脊髄損傷のリハビリテーション ４）呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション （１）慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション （２）虚血性心疾患のリハビリテーシ	講義 演習	6	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		ョン			
13 ～ 14	６.救急医療の概論と実際	１）救急医療とは ２）救急医療の現状 （１）初期・２次・３次救急医療 （２）救命救急センター （３）広域救急医療情報 ３）救命救急士制度 ４）救急診断の重要性（院内・院外）情報収集 （１）診断の優先順位 （２）診断の手順と判断 身体所見・病歴・検査所見 ５）救急医療の実際	講義	4	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　　池上徹・高橋則子：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論，医学書院，第 12 版【電子版】
香春知永：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学［４］臨床看護総論, 医学書院，第８版【電子版】
尾尻博也：系統看護学講座 別巻　臨床放射線医学，医学書院，第 10 版【電子版】
原三紀子：系統看護学講座 別巻　リハビリテーション看護，医学書院，第７版【電子版】
救急医療：その都度資料提示

参　考　文　献　　北村聖：臨床病態学，ヌーヴェルヒロカワ

評　価　方　法　　テスト

科　目　名	疾病治療学Ⅰ（消化・血液・内分泌機能障害）
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次　後期
授　業　の　概　要	さまざまな臨床の分野での代表的な疾病の原因、症状、病態生理、診断、治療の特徴を学ぶ。看護をおこなう上で不可欠な疾患の基礎的な知識を理解し、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるようにする。
目　標	１．消化吸収機能障害の診断過程と治療について理解する。 ２．血液・造血器機能障害の診断過程と治療について理解する。 ３．内分泌・代謝機能障害の診断過程と治療について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	１．歯科・口腔疾患の診断過程と治療	１）歯科・口腔疾患 （１）う蝕・歯髄疾患 （２）歯周組織の疾患 （３）口腔内腫瘍（舌癌） （４）顎関節の疾患	講義	2	
2 ～ 6	２．消化吸収機能障害の診断過程と治療	１）肝臓・胆嚢疾患 （１）ウイルス性肝炎、肝炎 ①症状：黄疸 ②検査：肝機能検査、ウイルスマーカー ③治療：インターフェロン療法他 （２）肝硬変 ①症状：門脈圧亢進（腹水・側副路の形成・腹部臓器の鬱血・肝性脳症） ②治療：腹水の治療、食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法、肝性脳症の治療他 （３）肝がん （４）胆管炎 ２）胃・十二指腸疾患 （１）胃・十二指腸潰瘍 （２）胃癌 ３）膵臓の疾患 （１）膵炎 （２）膵臓癌 ４）腸および腹膜疾患 （１）大腸癌 （２）腹膜炎	講義	10	
7 ～ 9	３．血液・造血器機能障害の診断過程と治療	１）赤血球系の異常 （１）鉄欠乏性貧血 （２）再生不良性貧血 ２）白血球系の異常	講義	6	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		3）造血器腫瘍 （1）白血病 （2）悪性リンパ腫 （3）成人T細胞白血病リンパ腫 3）出血性疾患 （1）播種性血管内凝固症候群			
10 ～ 14	4．内分泌・代謝機能障害の診断過程と治療	1）内分泌機能障害 （1）甲状腺疾患 ①バセドウ病・甲状腺クリーゼ ②橋本病 （2）副腎疾患 ①クッシング症候群 2）代謝機能障害 （1）糖尿病（診断過程、治療以外に合併症含める） ①糖尿病の慢性合併症 ②糖尿病の急性合併症 （2）脂質異常症 （3）尿酸代謝異常症	講義 講義	4 6	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　　飯野京子：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［4］血液・造血器, 医学書院, 第16版【電子版】
南川雅子：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［5］消化器, 医学書院, 第16版【電子版】
吉岡成人：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［6］内分泌・代謝, 医学書院, 第16版【電子版】
井桁洋子：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[15] 歯・口腔, 医学書院, 第15版【電子版】

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト

科　目　名	疾病治療学Ⅱ（呼吸・循環器機能障害）
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次　後期
授　業　の　概　要	さまざまな臨床の分野での代表的な疾病の原因、症状、病態生理、診断、治療の特徴を学ぶ。看護をおこなう上で不可欠な疾患の基礎的な知識を理解し、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるようにする。
目　標	１．呼吸器機能障害の診断過程と治療について理解する。 ２．循環器機能障害の診断過程と治療について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 7	１．呼吸器機能障害の診断過程と治療	１）呼吸不全（内科的治療） （１）急性呼吸窮迫症候群 ①人工呼吸療法 ２）気道疾患 （１）気管支喘息 （２）性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ） ①在宅酸素療法 ３）間質性肺疾患 （１）間質性肺炎 （２）サルコイドーシス	講義	10	
		４）肺腫瘍（外科的治療） （１）肺癌 ①外科的治療 ②胸腔ドレナージ ５）胸膜疾患 （１）気胸	講義	4	
8 ～ 14	２．循環器機能障害の診断過程と治療	１）虚血性心疾患（内科的治療） （１）狭心症 （２）急性心筋梗塞 ２）心不全 （１）左心不全 （２）右心不全 ３）血圧異常 （１）高血圧 ４）不整脈 （１）ペースメーカー （２）電気的除細動 （３）カテーテルアブレーション	講義	10	
		５）弁膜症（外科的治療） （１）弁置換術 （２）経カテーテル大動脈弁置換術（ＴＡＶＩ） ６）動脈系疾患（動脈硬化症、大動脈瘤、大動脈解離、ＡＳＯ）	講義	4	

15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト	川村雅文：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［２］ 呼吸器, 医学書院, 第16版【電子版】 吉田俊子：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［３］ 循環器, 医学書院, 第16版【電子版】
参　考　文　献	
評　価　方　法	テスト

科　目　名	疾病治療学Ⅲ（腎・生殖・生体防御機能障害）
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次　後期
授　業　の　概　要	さまざまな臨床の分野での代表的な疾病の原因、症状、病態生理、診断、治療の特徴を学ぶ。看護をおこなう上で不可欠な疾患の基礎的な知識を理解し、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるようにする。
目　標	１．排泄・腎機能障害の診断過程と治療について理解する。 ２．生殖機能障害の診断過程と治療について理解する。 ３．生体防御機障害の診断過程と治療について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 6	1．排泄・腎機能障害の診断過程と治療（泌尿器系含む）	1）腎不全とＡＫＩ・ＣＫＤ （1）急性腎不全 （2）慢性腎不全 ①透析 ②腎移植 2）前立腺肥大 3）膀胱腫瘍 4）神経因性膀胱	講義	12	
7 ～ 8	2．生殖機能障害の診断過程と治療	1）乳癌（男性乳がん含む）	講義	4	
9 ～ 14	3．生体防御機能障害の診断過程と治療	1）アレルギー （1）免疫のしくみとアレルギー （2）アレルギー性疾患 2）膠原病 （1）ＳＬＥ （2）関節リウマチ 3）感染症 （1）上気道感染症 ①かぜ症候群 ②インフルエンザ （1）下気道感染症 ①肺炎 ②肺結核 （2）心血管系感染症 ①感染性心内膜炎 （4）消化管感染症 ①食中毒など （5）尿路感染症 （6）ＨＩＶ・エイズ	講義	12	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト	大東貴志：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［８］ 腎・泌尿器, 医学書院, 第 16 版【電子版】 鈴木直：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［９］ 女性生殖器, 医学書院, 第 16 版【電子版】 泉川公一：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［11］アレルギー 膠原病 感染症, 医学書院, 第 16 版【電子版】
参　考　文　献	
評　価　方　法	テスト

科　目　名	疾病治療学Ⅳ（運動・脳神経・感覚機能障害）
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	２年次　前期
授　業　の　概　要	さまざまな臨床の分野での代表的な疾病の原因、症状、病態生理、診断、治療の特徴を学ぶ。看護をおこなう上で不可欠な疾患の基礎的な知識を理解し、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるようにする。
目　標	１．運動機能障害の診断過程と治療について理解する。 ２．脳・神経機能障害の診断過程と治療について理解する。 ３．生殖器系疾患の診断過程と治療について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．運動機能障害の診断過程と治療	1）骨折 （1）大腿骨近位部骨折 （2）その他の骨折 2）脱臼 （1）肩関節脱臼 （2）その他の脱臼 3）神経の損傷 （1）脊髄損傷 4）筋・腱・靭帯の損傷 5）脊椎の疾患 （1）椎間板ヘルニア （2）腰部脊柱管狭窄症 6）骨腫瘍 （1）良性骨腫瘍 （2）悪性骨腫瘍	講義	6	
4 ～ 8	2．脳・神経機能障害の診断過程と治療	1）脳疾患 （1）脳血管障害 ①くも膜下出血 ②脳内出血 ③脳梗塞 （2）脳腫瘍 2）脊髄疾患 3）末梢神経障害 4）脱髄・変性疾患 （1）パーキンソン病 （2）筋萎縮性側索硬化症 5）脳・神経系感染症 6）認知症	講義	10	
9 ～ 14	3．感覚機能障害の診断過程と治療	1）皮膚疾患 （1）アトピー性皮膚炎 （2）脂漏性皮膚炎 （3）蕁麻疹 （4）皮膚感染症 ①白癬	講義	12	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		②疥癬 ③単純ヘルペス （5）皮膚癌 2）眼疾患 （1）屈折・調節の異常 （2）結膜の疾患 （3）角膜の疾患 （4）水晶体の疾患 ①白内障 （5）網膜の疾患 ①糖尿病性網膜症 （6）緑内障 3）耳鼻咽喉疾患 （1）耳疾患 ①外耳炎 ②中耳炎 ③突発性難聴 ④メニエール病 （2）鼻疾患 ①アレルギー性鼻炎 ②副鼻腔炎 （3）咽頭疾患 ①扁桃炎 ②咽頭がん			
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　　田中栄：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器，医学書院，第16版【電子版】
井出隆文：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経，医学書院，第16版【電子版】
多田弥生：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚，医学書院，第16版【電子版】
大鹿哲郎：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13] 眼，医学書院，第15版【電子版】
小島博己：看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉，医学書院，第15版【電子版】

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト

科　　目　　名　　疾病治療学Ⅴ　（小児特有の機能障害）

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　２年次　前期

授　業　の　概　要　　小児に特有の代表的な疾病の原因、症状、病態生理、診断、治療の特徴を学ぶ。看護をおこなう上で不可欠な疾患の基礎的な知識を理解し、小児の成長発達段階を踏まえ、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるような内容とした。

目　　標　　小児に特有な疾患の診断過程と治療について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．出生前の疾患	1）染色体異常 （1）常染色体異常 （2）性染色体異常	講義	2	
2	2．　先天奇形	1）先天性心疾患 2）直腸肛門奇形（鎖肛）	講義	2	
3 ～ 6	3．子どもに多い疾患	1）川崎病 2）気管支炎・肺炎 3）気管支喘息 4）食物アレルギー 5）無菌性髄膜炎 6）脳性麻痺 7）重症筋無力症 8）筋ジストロフィー 9）てんかん 10）口腔疾患（唇裂、口蓋裂） 11）肥厚性幽門狭窄症 12）腸重積症 13）ヒルシュスプルング病 14）ネフローゼ症候群 15）主な感染症 （1）ウイルス感染症 （2）細菌感染症 （3）真菌感染症	講義	8	
7	4．未熟児・新生児の疾患	1）新生児の異常 2）低出生体重児の疾患 3）未熟児の疾患 4）成熟異常 5）乳幼児突然死症候群	講義	2	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　　丸光惠：系統看護学講座 専門分野 小児看護学［２］ 小児臨床看護各論，医学書院，第 15 版【電子版】
森恵美：系統看護学講座 専門分野 母性看護学［２］ 母性看護学各論，医学書院，第 14 版【電子版】

参　考　文　献

評　価　方　法　テスト

科　　目　　名	疾病治療学Ⅵ（女性特有の機能障害）
単　位（時間数）	１単位（15 時間）
履　修　年　次	２年次　後期
授　業　の　概　要	母性看護学の対象である女性の特徴を捉え、内分泌環境変化の時期である女性の健康障害と検査、治療について学ぶ。
目　　標	１．女性の特徴と診断について理解する。 ２．女性ライフサイクルにおける健康上の課題について理解する。 ３．女性生殖器系疾患の診断過程と治療について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 4	１．妊娠期の異常	１）ハイリスク妊娠 ２）妊娠悪阻 ３）妊娠高血圧症候群 ４）血液型不適合妊娠 ５）妊娠性糖尿病 ６）多胎妊娠 ７）流産・早産・切迫早産 ８）前置胎盤 ９）常位胎盤早期剥離	講義	8	
	２．分娩期の異常	１）胎児ジストレス ２）帝王切開術 ３）弛緩出血 ４）軟産道の損傷	講義		
	３．産褥期の異常	１）子宮復古不全 ２）貧血 ３）乳腺炎 ４）産褥熱 ５）マタニティーブルー ６）痔核	講義		
5	４．不妊症の診断過程と治療	１）不妊症 （１）不妊症の原因と検査・治療	講義	2	
6 ～ 7	５．女性生殖器系疾患の診断過程と治療	１）月経異常・月経随伴症状 （１）無月経 （２）月経困難症 ２）性感染症 （１）梅毒 （２）淋疾 （３）尖圭コンジローマ （４）クラミジア感染症 ３）子宮内膜症 ４）子宮がん （１）概要・病期・病態生理 （２）診断過程 （３）治療	講義	4	
8	テスト			1	

テ　キ　ス　ト	森恵美 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学［２］母性看護各論，医学書院，第 14 版【電子版】 鈴木直 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学［９］女性生殖器，医学書院，第 16 版【電子版】
参　考　文　献	
評　価　方　法	テスト

科　　目　　名　　疾病治療学Ⅶ（精神の機能障害）

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　２年次　前期

授　業　の　概　要　　主な精神疾患の精神症状の現れ方の特徴と疾病の原因、診断、治療など、看護をおこなう上で不可欠な基礎的な知識について学び、健康障害を抱える対象の看護の展開に有機的に結びつけられるよう学ぶ。

目　　標　　１．精神疾患の診断過程と治療について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 6	1．精神疾患の理解 2．主な疾患の診断過程	1）器質性精神障害 （1）認知症 2）症状精神病 3）統合失調症 4）気分障害 （1）双極性障害 （2）うつ病 5）神経症性障害、ストレス関連障害 （1）パニック障害 （2）ＰＴＳＤ （3）適応障害 6）てんかん 7）生理的障害、身体的要因に関連した精神障害または行動症候群 （1）摂食障害 （2）不眠症 （3）ナルコレプシー （4）睡眠時無呼吸症候群 8）アディクション 9）小児・精神期の精神・心身医学的疾患 （1）パーソナリティ障害 （2）発達障害	講義	12	
7	3．主な治療法	1）主な精神障害の治療 （1）薬物療法 （2）電気ショック療法 （3）社会復帰療法 （4）精神療法 （5）行動療法 （6）活動療法 （7）環境療法	講義	2	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　　武井麻子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学［1］精神看護の基礎，医学書院，第６版【電子版】
岩崎弥生ら：新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看

護，メヂカルフレンド社，第６版【電子版】

参　考　文　献　川野雅資：精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学，ヌーヴェルヒロカワ

評　価　方　法　テスト

科　　目　　名　　臨床薬理学

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　２年次　前期

授　業　の　概　要　　薬理学総論の内容を踏まえ、薬物療法の基礎知識、対症療法薬・主要疾患の臨床薬理学、薬物療法の基本と看護師の役割について学ぶ。また、薬物療法時に必要な看護師の臨床判断するための基礎的な知識について学ぶ。

目　　標　　１．薬物治療の基礎知識を理解する。
２．主な対症療法薬や主要疾患の薬物療法の基本を理解する。
３．臨床における薬物療法の看護師の役割を理解する。

授　業　内　容

回	単　元　名	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．薬物治療の基礎	1）薬物療法の基礎 （1）医薬品の取り扱い （2）薬物治療の実際	講義	2	
2 ～ 4	2．対症療法や主要疾患の臨床薬理学	1）対症療法薬の臨床薬理学 （1）解熱鎮痛剤 （2）制吐剤 （3）便秘・下痢治療薬 （4）鎮咳・去痰薬 （5）鎮静剤 （6）睡眠薬 2）主要疾患の臨床薬理学 （1）高血圧症 （2）急性冠症候群 （3）心不全 （4）慢性閉塞性肺疾患 （5）慢性腎臓病 （6）認知症	講義	6	
5 ～ 7	3．薬物療法における看護師の役割	1）ハイリスク薬投与患者の管理 2）循環動態にかかわる持続点滴中の薬剤の投与と調整 2）栄養および水分管理にかかわる薬剤と投与と調整 3）精神および神経症状にかかわる薬剤と投与と調整 4）術後ならびに呼吸管理にかかわる薬剤と投与と調整 5）看護業務に必要な薬の知識（処　方箋の読み方、保管方法、薬の単位など	講義	6	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　　井上智子・窪田哲朗：系統看護学講座 別巻 臨床薬理学，医学書院，第２版【電子版】

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト

科　　目　　名　　臨床栄養学

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　２年次　前期

授　業　の　概　要　　科目「健康と栄養」の学習内容を踏まえ、傷病者の様々な病態や栄養状態等に応じた総合的な栄養管理について学ぶ。また、栄養管理はチーム医療を基盤にして行われるため、病院における栄養管理の概要と各種疾患患者の食事療法の実際を学ぶ。栄養管理について理解することで食事療法における臨床判断能力が身につけられるように栄養のアセスメントについて学ぶ。

目　　標

１．栄養ケア・マネジメントの意義とその構造について理解する。
２．栄養サポートチームにおける看護師の役割を理解する。
３．栄養アセスメントの意義とその方法について理解する。
４．様々な病態や栄養状態に応じた栄養管理、食事療法の実際を理解する。

授　業　内　容

回	単　元　名	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．栄養ケア・マネジメント	1）チームアプローチと栄養ケア・マネジメント 2）栄養スクリーニング 3）栄養アセスメント 4）栄養ケア計画 5）栄養ケア計画の実施とモニタリング 6）栄養ケア・マネジメントの評価 7）医療保険制度・介護保険制度と食事	講義	6	
4 ～ 5	2．栄養状態の評価・判定	1）栄養アセスメントの意義 2）栄養アセスメントの方法 3）栄養状態の総合評価	講義	4	
6 ～ 7	3．臨床栄養	1）チームで取り組み栄養管理 2）病院食 3）栄養補給法 4）がんの食事療法	講義	4	
8		テスト		1	

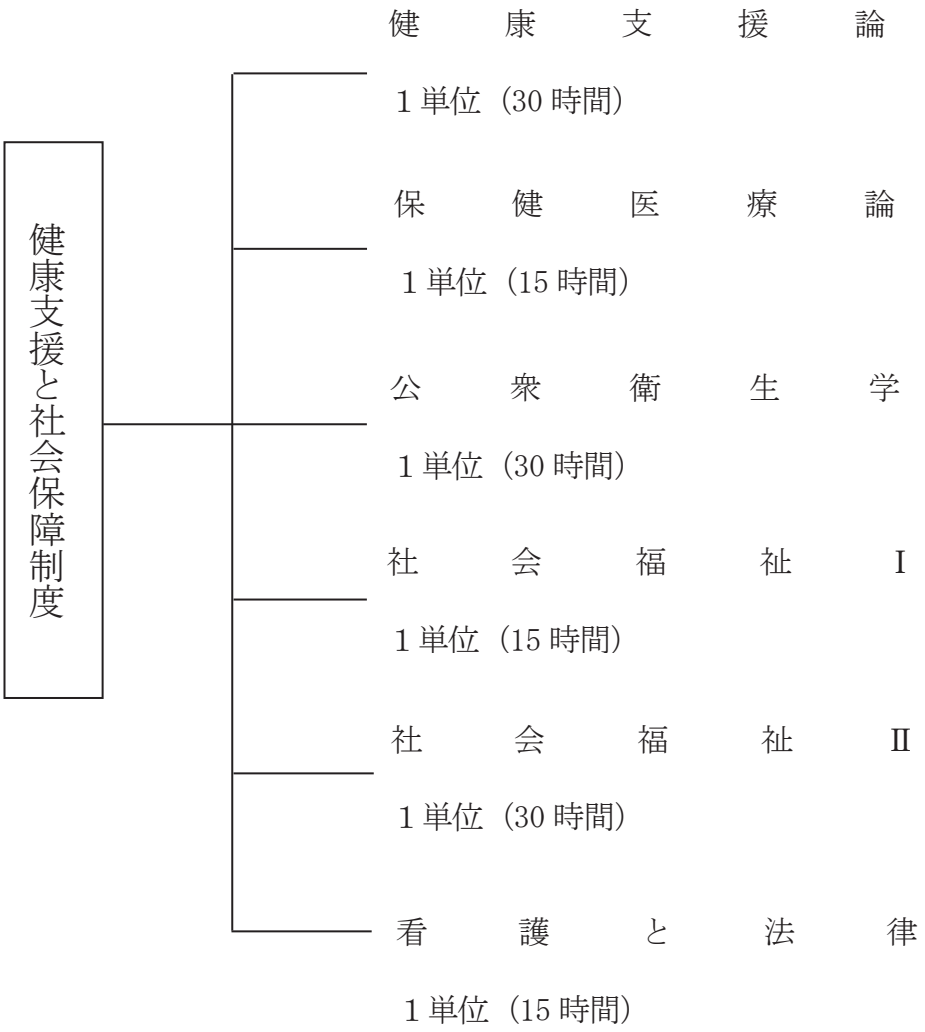
テ　キ　ス　ト　　中村丁次：系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学，医学書院，第 14 版【電子版】

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト

健康支援と社会保障制度

科 目 体 系



科　目　名	健康支援論
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	２年次　前期～後期
授　業　の　概　要	時代の変化に応じて健康の概念や人々の健康に対する捉え方が変化している。ヘルスプロモーションの概念を取り入れた健康教育が重要な位置を占めている。そこで現在の健康教育のあり方やその考えを学ぶ。
目　標	１．人々の健康保持増進するための健康教育の目的や方法について理解する。 ２．自分自身の健康に関心を持ち、健康教育の技法を身につける。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 4	１．健康の指標	１）健康政策 ２）健康に影響する因子 ３）健康教育 （1）健康教育の目的 （2）健康教育とヘルスプロモーションとの関係 ４）健康教育と行動変容 （1）保健行動の意味 （2）保健行動の変容 （3）健康行動に影響する因子 ５）健康教育の内容 （1）健康教育の対象とその選択 （2）健康教育の方法 （3）健康教育の計画立案 （4）健康教育の評価	講義	8	
5 ～ 14	２．健康教育の実際	１）健康問題を設定 （1）テーマ：生活習慣病予防のための健康づくりを考える。 （2）身近な生活習慣を捉え、グループで健康問題を設定 例：健康とスポーツ習慣の関係 健康のための運動 日常生活と健康 ２）健康指標となるものを活用して目標を設定 「健康日本２１の目標：身体活動・活動の目標」 ３）計画立案 ４）健康行動を実行 ５）健康教育の評価	講義 演習	2 18	（グループワーク）
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト	松本千明：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎，医歯薬出版，第２版，2024

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト、演習課題で評価

科　目　名	保健医療論
単　位（時間数）	１単位（15 時間）
履　修　年　次	３年次　前期
授　業　の　概　要	医療のあり方が大きく変貌しつつある今日、医療の変遷を知らずにこの変貌した時代や看護の目ざす目標を明確にすることは難しい。医療の変遷を知り、現在の保健医療システム・サービスの現状と課題ついて学ぶ内容とする。
目　標	1. 医療の変遷、現代の保健医療システムの仕組みを学び、健康の保持・増進のための現状と課題を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．生活と保健医療	1）私たちの生活と保健医療 2）保健医療がめざすもの （1）人々の生活の質・生命の質の向（安心・安全な生活） （2）人々の健康維持・回復	講義	2	
2 ～ 4	2．わが国の保健医療	1）わが国の医療制度改革の経緯 （1）医療制度改革の変遷の概要 （2）現在の医療制度改革の全体像 ①医療保険制度 診療報酬体系の見直しなど ②医療提供体制 医療計画制度の見直し ③生活習慣病対策 健康増進計画の見直し ④介護保険制度 医療と介護の機能分担と連携強化 2）わが国の保健医療の現状と課題 （1）医療費の抑制 ①包括医療の導入 ②クリティカルパスの導入 （2）医療の機能分化 ①かかりつけ医（家庭医と病診連携） ②医薬分業 （3）救急医療の充実 ①救急医療体制の整備 （4）患者中心の医療 ①インフォームドコンセント ②カルテ開示請求 ③病院機能評価等 （5）病院のＩＴ化とＥＢＮ ①電子カルテ （6）保健医療従事者の育成 ①卒後研修制度	講義	6	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		②看護の大学教育化 専門看護師、認定看護師の誕生			
5 ～ 6	3．わが国の医療と経済 4．保健医療と倫理	1）診療報酬の仕組み （1）診療報酬とは （2）診療報酬のしくみ 2）保健医療と倫理 （1）医療倫理とは ①世界医師：ジュネーブ宣言 ②ニュールンベルク網領 ③ヘルシンキ宣言 ④アメリカ病院協会「患者の権利章典」とわが国の医療法との関連 （2）リスボン宣言 3）インフォームドコンセントとＱＯＬ	講義	4	
7	5．沖縄の保健医療の現状	1）沖縄県の保健医療計画と今後の課題 （1）長寿崩壊の危機 （2）生活習慣病予防 （3）住民の食生活などの見直し （4）医療従事者の確保・離島医療	講義	2	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　　福田素生：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度［3］社会保障・社会福祉，医学書院，第26版【電子版】
小泉俊三：系統看護学講座 別巻 総合医療論，　医学書院，第4版【電子版】

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト

科　目　名	公衆衛生学
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	２年次　後期
授　業　の　概　要	公衆衛生の目的は、生活者のさまざまな健康について学び、健康で活力ある福祉社会を作り上げることにある。公衆衛生の活動において、個々の疾病予防に対する自然環境へのアプローチとともに社会や経済、文化・風俗、習慣など人間の行動や生活習慣に着目する社会的環境へのアプローチを学ぶ。
目　標	１．国民の健康に関する状況と生活環境を学び、人々が健康を享受するために望ましい制度や組織活動を理解するとともに医療専門職の役割を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	１．健康と公衆衛生	１）健康と公衆衛生 （1）公衆衛生のあゆみ	講義	2	
2 ～ 3	２．疫学と健康	１）健康に関する指標 （1）保健統計の基本的な考え方 （2）人口の動向 （3）人口の動向把握と必要な指標 ２）疫学調査 （1）疾病の多発とその原因 （2）疾病予防対策 （3）疾病予防と疫学調査法 ３）保健行政	講義	4	
4 ～ 5	３．環境と公衆衛生	１）人間と生活環境 ２）健康問題と環境	講義	4	
6 ～ 14	４．公衆衛生の活動	１）公衆衛生の対象と活動 （1）保健所・保健センターにおける活動 （2）母子保健 （3）地域保健 （4）学童期の健康管理 （5）生活習慣病予防 （6）感染症とその予防 （7）職場の健康保健 （8）難病対策	講義	18	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト	神馬征峰：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度［２］公衆衛生，医学書院【電子版】 国民衛生の動向，厚生労働統計協会
参　考　文　献	公衆衛生マニュアル 2025：南山堂
評　価　方　法	テスト

科　　目　　名　　社会福祉Ⅰ

単　位（時間数）　　１単位（15 時間）

履　修　年　次　　１年次　後期

授　業　の　概　要　　国民の最低限生活を保障する社会保障制度、社会的な援護を要する者への支援を行う社会福祉制度がある。社会保障、社会福祉制度は、高齢化の急速な進行と年金制度の成熟化、介護保険制度の創設などにより、誰もが必ずかかわりをもつ普遍的な制度として意識されるようになった。生活者の健康を保障する社会の制度を理解し、看護を提供する上で社会資源を活用する能力の基礎知識を学ぶ。

目　　標　　１．社会保障制度と社会福祉の基本的な考え方を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．社会保障制度と社会福祉の概要	1）社会保障の定義と概念 2）社会保障の体系 （1）社会保険 （2）公的扶助 （3）社会福祉 （4）公衆衛生および医療 3）社会保障の内容 （1）所得保障 （2）医療保障 （3）社会福祉サービス	講義	2	
2 ～ 3	2．社会福祉の法制度の概要	1）社会福祉の法制度 （1）社会福祉の法制度の歴史的展開 （2）社会福祉サービスの内容と社会福祉の仕組み （3）社会福祉法と福祉６法 ①生活保護法 ②児童福祉法 ③身体障害者福祉法 ④知的障害者福祉法 ⑤老人福祉法 ⑥母子及び寡婦福祉法 2）社会福祉の組織と実施体制 3）社会福祉の従事者と担い手	講義	4	
4	3．現代社会の変化と動向	1）現代社会の変化 2）社会保障・社会福祉の動向	講義	2	
5 ～ 7	4．医療保障	1）医療保障制度の沿革 2）医療保障制度の構造と体系 （1）医療保障制度の類型 （2）我が国の医療保障制度の特徴 3）健康保険と国民健康保険 4）高齢者医療制度 5）保険診療の仕組み 6）公費負担医療	講義	6	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト	福田素生:系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度［3］ 社会保障・社会福祉，医学書院，第26版【電子版】
参　考　文　献	社会福祉の動向編集委員：福祉の動向，中央法規 国民衛生の動向，厚生労働統計協会
評　価　方　法	テスト

科　　目　　名　　社会福祉Ⅱ

単　位（時間数）　　１単位（30 時間）

履　修　年　次　　２年次　後期

授　業　の　概　要　　国民の最低限生活を保障する社会保障制度、社会的な援護を要する者への支援を行う社会福祉制度がある。社会保障、社会福祉制度は、高齢化の急速な進行と年金制度の成熟化、介護保険制度の創設などにより、誰もが必ずかかわりをもつ普遍的な制度として意識されるようになった。生活者の健康を保障する社会の制度を理解し、看護を提供する上で社会資源を活用する能力の基礎知識を学ぶ。

目　　標　　１．保健、医療、福祉の連携の意義、社会資源の活用方法を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．介護保障	1）介護保険制度の創設背景と介護保障の歴史 2）介護保険制度の概要 （1）制度の基本理念 （2）保険者・被保険者 （3）要介護・要支援の認定と保険給付 ①給付の種類 ②介護給付 ③居宅サービス ④施設サービス ⑤予防給付 ⑥被保険者の自己負担 （4）保険給付の手続きとサービス開始の流れ 3）介護保険制度の課題と展望	講義	6	
4 ～ 5	2．所得保障	1）年金保険制度 2）社会手当 （1）児童手当 （2）児童扶養手当 ①特別児童扶養手当 （3）障害者手当 3）労働保険制度 （1）雇用保険制度 （2）労働者災害補償制度	講義	4	
6 ～ 7	3．公的扶助	1）貧困・低所得問題と公的扶助制度 2）生活保護制度 （1）生活保護法の目的・原理・原則 （2）生活保護の種類 （3）生活保護における権利・義務関係 （4）保護の決定と実施 （5）生活保護の現状と課題	講義	4	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		3）低所得対策 4）公的扶助の近年の動向			
8 ～ 12	4．社会福祉の分野とサービス	1）高齢者福祉 （1）高齢者の生活問題 （2）老人福祉の沿革 （3）老人福祉施策 （4）老人保健施策 （5）老人保健福祉施策 2）障害者福祉 （1）障害者福祉の発展の経過 （2）障害者福祉の最近の動向 （3）障害者の定義と実態 （4）障害者福祉施策 （5）障害者の就労補償 （6）障害者の福祉の独自の課題 （7）障害者自立支援法 （8）障害者自立支援法の課題 3）児童福祉 （1）少子高齢社会と児童福祉 （2）児童福祉とは （3）児童福祉の施策の現状 4）母子及び寡婦福祉法 5）現代における母子家庭、父子家庭の課題	講義	10	
13	9．社会福祉実践と医療・看護	1）社会福祉援助とは 2）社会福祉援助の検討課題 3）連携の重要性 4）社会福祉実践と医療・看護との連携 5）連携の場面とその方法	講義	2	
14	10．保健医療福祉と看護の接点	1）保健医療福祉にかかわる考え方の変化 2）保健医療福祉行政 （1）保健医療・福祉行政の特徴 （2）保健福祉計画 （3）社会福祉の民間活動	講義	2	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　　福田素生：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度［3］社会保障・社会福祉，医学書院，第26版【電子版】

参　考　文　献　　社会福祉の動向編集委員：福祉の動向，中央法規
国民衛生の動向，厚生労働統計協会

評　価　方　法　　テスト

科　目　名	看護と法律
単　位（時間数）	１単位（15 時間）
履　修　年　次	３年次　後期
授　業　の　概　要	医療に関連する法の基礎知識、看護職に必要な法規を学び、専門職業人として法的責任を自覚した行動が取れるための基礎知識を学ぶ。
目　標	１．看護に関連する法規を理解し、法的責任を理解する。 ２．社会生活と法のつながりを理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 6	１．法規の概念と医事法規	１）法の種類 ２）厚生労働省の任務 ３）保健師助産師看護師法 ４）医師法 ５）医療法 ６）労働関連法規 （1）労働基準法 （2）労働安全衛生法 （3）その他の労働関係法規	講義	12	
7	２．医療過誤	１）看護実践で生じる法的問題と責任	講義	2	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト	森山幹夫：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度［4］看護関係法令，医学書院，第 57 版【電子版】
参　考　文　献	国民衛生の動向，厚生労働統計協会
評　価　方　法	テスト

専　門　分　野

基礎看護学

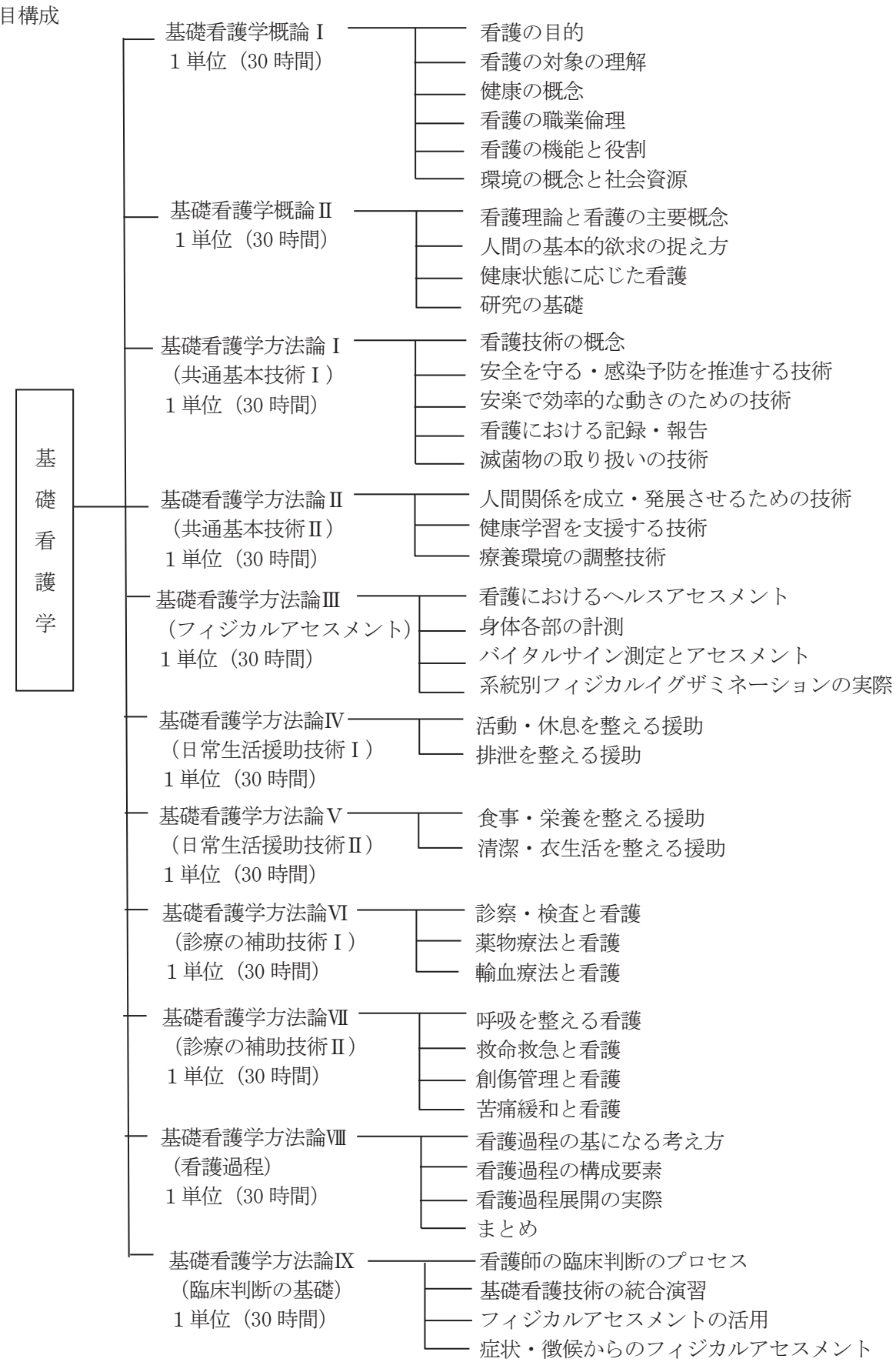
目　的

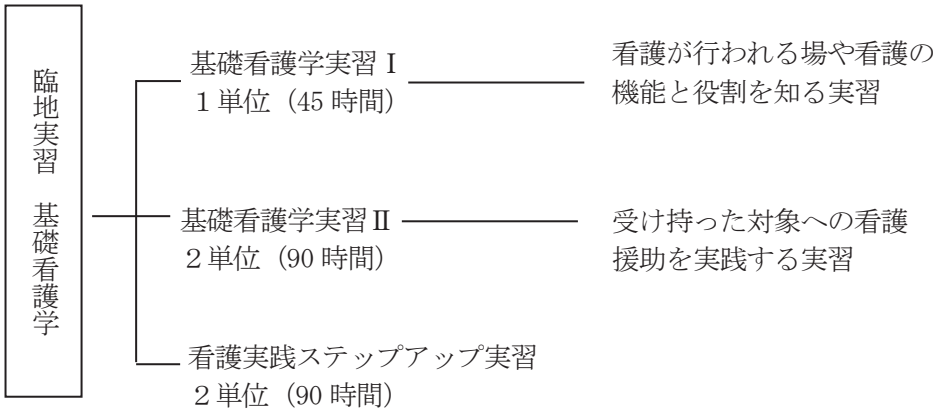
看護の基本となる概念や保健医療福祉活動における看護の役割を理解し、看護を実践する基礎となる知識・技術・態度を養う。

目　標

1．看護の対象である人々を共感的に理解し、援助関係を築く基本的態度を身につける。
2．看護の対象であるあらゆる健康状態の人々とその家族を生活者の視点で理解する。
3．人々の健康上の課題に対応するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。
4．保健医療福祉チームにおける看護の役割や多職種との協働の意義を理解する。
5．基礎看護学と他専門分野との関連性を理解し、看護に必要な主体的学習姿勢を身につける。

科目構成


基礎看護学
基礎看護学概論Ⅰ
1単位（30時間）
看護の目的
看護の対象の理解
健康の概念
看護の職業倫理
看護の機能と役割
環境の概念と社会資源
基礎看護学概論Ⅱ
1単位（30時間）
看護理論と看護の主要概念
人間の基本的欲求の捉え方
健康状態に応じた看護
研究の基礎
基礎看護学方法論Ⅰ
（共通基本技術Ⅰ）
1単位（30時間）
看護技術の概念
安全を守る・感染予防を推進する技術
安楽で効率的な動きのための技術
看護における記録・報告
滅菌物の取り扱いの技術
基礎看護学方法論Ⅱ
（共通基本技術Ⅱ）
1単位（30時間）
人間関係を成立・発展させるための技術
健康学習を支援する技術
療養環境の調整技術
基礎看護学方法論Ⅲ
（フィジカルアセスメント）
1単位（30時間）
看護におけるヘルスアセスメント
身体各部の計測
バイタルサイン測定とアセスメント
系統別フィジカルイグザミネーションの実際
基礎看護学方法論Ⅳ
（日常生活援助技術Ⅰ）
1単位（30時間）
活動・休息を整える援助
排泄を整える援助
基礎看護学方法論Ⅴ
（日常生活援助技術Ⅱ）
1単位（30時間）
食事・栄養を整える援助
清潔・衣生活を整える援助
基礎看護学方法論Ⅵ
（診療の補助技術Ⅰ）
1単位（30時間）
診察・検査と看護
薬物療法と看護
輸血療法と看護
基礎看護学方法論Ⅶ
（診療の補助技術Ⅱ）
1単位（30時間）
呼吸を整える看護
救命救急と看護
創傷管理と看護
苦痛緩和と看護
基礎看護学方法論Ⅷ
（看護過程）
1単位（30時間）
看護過程の基になる考え方
看護過程の構成要素
看護過程展開の実際
まとめ
基礎看護学方法論Ⅸ
（臨床判断の基礎）
1単位（30時間）
看護師の臨床判断のプロセス
基礎看護技術の統合演習
フィジカルアセスメントの活用
症状・徴候からのフィジカルアセスメント


臨地実習　基礎看護学
基礎看護学実習Ⅰ
１単位（45 時間）
看護が行われる場や看護の
機能と役割を知る実習
基礎看護学実習Ⅱ
２単位（90 時間）
受け持った対象への看護
援助を実践する実習
看護実践ステップアップ実習
２単位（90 時間）

科　　目　　名　基礎看護学概論Ⅰ

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　１年次　前期

授　業　の　概　要　看護学概論は、すべての看護学の基盤となる科目であることを前提に、看護とは何かを考える科目である。授業では「看護とは」を軸にし、対象である「生活者としての人間」、対象を取り巻く「環境」、看護実践の目的である「人間の健康」を概念的に学ぶとともに、「看護の機能と役割」についての理解を深める。また、「看護倫理」を学び、看護師としての行動の基盤となる「倫理観」や自己の「看護観」を培う。

目　　標
１．看護の基本となる概念について理解する。
２．看護の対象である人間のさまざまな見方を知り、対象を統合体として捉える意味を理解する。
３．健康の概念について理解する。
４．看護提供システムを通して、保健医療福祉チームにおける看護職者の役割を理解する。
５．講義・演習を通して自己の看護観を培う。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備　考
1 ～ 3	1．看護の目的	1）看護を学ぶに当たって 2）看護師という職業の魅力 3）看護の定義 4）看護の本質 （1）看護の歴史と看護教育制度 （2）看護を支える理論 ① ヘンダーソン ② オレム ③ ナイチンゲール 5）看護の動向と展望 （1）今の看護の現状 （2）今後に向かって 地域包括ケアについて	講義 演習 講義 講義	2 2 2	
4 ～ 6	2．看護の対象の理解	1）統合体としての人間 （1）人間の「こころ」と「からだ」 ① ホメオスタシスという体の反応 ② ストレスについて ③ 患者心理の理解 （2）生涯成長・発達し続ける存在としての人間 ① 身体的発育の特徴 ② 心理・社会的側面における発達 ・人間の発達段階と課題 ・ライフサイクルから見た人間の発達 （3）ニーズをもつ存在としての人間 2）生活者としての人間 （1）生活と暮らし （2）ライフステージ	講義 講義	2 2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備　考
		（3）看護の対象としての家族、集団、地域 （4）家族のライフステージ 3） 生活者の理解 「看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う」	演習	2	
7 ～ 8	3．健康の概念	1） 健康のとらえ方 （1）WHOの健康概念 （2）ＩＣＦ（国際生活機能分類）でのとらえ方 2） 健康と生活 3） 健康に影響を与えている生活要因 （1）自身の 1 週間の生活を記録する（タイムスタディ） （2）タイムスタディから健康に影響を与えている要因を探る 4） 健康と生活に関する統計 （1）人々の生活と健康を示す統計の種類 （2）ライフコースと日本人の平均像 （3）健康指標の変化 5） 健康政策の変遷	講義 講義 演習	2 2	
9	4．環境の概念と社会資源	1） 個を取り巻く環境 （1）外部環境 （2）地域、生活・暮らし 2） 社会資源の分類 （1）フォーマルサポート （2）インフォーマルサポート 3） 看護をめぐる制度と政策 （1）法律：保健師助産師看護師法、医療法、健康保険法、介護保険法 1） 施策：健康日本 21、国民皆保険制度、診療報酬	講義	2	
10 ～ 12	5．看護の職業倫理	2） 倫理とは （1）倫理・道徳・法 3） 専門職としての倫理 （1）職業倫理の重要性 （2）専門職と倫理（看護職の専門職性） 4） 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 （1）患者の権利とインフォームドコンセント （2）患者の意思決定支援と守秘義務、個人情報保護 （3）現代医療の様々な倫理的問題 5） 医療専門職の倫理規定 （1）世界医師会・日本医師会の取り	講義	2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備　考
		組み （2）国際看護協会の取り組み （3）我が国の看護倫理への取り組み 6）看護実践における倫理問題への取り組み （1）倫理原則とケアの倫理 （2）倫理的ジレンマ 7）倫理問題にかかる意思決定のプロセス 8）看護者の倫理綱領について（事例検討） 倫理について考える	講義 演習	2 2	
13 ～ 14	5．看護の機能と役割	1）看護の機能と役割の理解 （1）看護の機能と役割とは （2）看護ケアについて （3）看護の機能と役割の拡大 2）職業としての看護 （1）法的な規定 （2）各看護職と就業状況 3）看護職者のキャリアアップ （1）現任教育 （2）継続教育 4）私の目指す看護師像 5）看護の提供のしくみ （1）サービスとしての看護 （2）看護サービス提供の場 6）保健医療福祉の連携と看護の役割 （1）保健、医療、福祉の概念 （2）保健医療福祉サービスの提供の場 （3）保健医療福祉チームと看護 ① 保健医療福祉チームの必要性 ② チームの中における看護者の役割	講義 演習 講義	2 2	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　茂野香おる：系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［1］看護学概論，医学書院，第18版【電子版】
フローレンス・ナイチンゲール著，湯槙ます他訳：看護覚え書，現代社，第7版，2020

参　考　文　献　筒井真優美：看護理論－看護理論21の理解と実践への応用，南江堂，第3版，2019
宮脇美保子：新体系看護学全書　専門分野Ⅰ　基礎看護学①　看護学概論，メヂカルフレンド社，第5版，2021

評　価　方　法　テスト（筆記）、レポート

科　　目　　名　基礎看護学概論Ⅱ

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　１年次　前期～後期

授　業　の　概　要　先人の看護理論についての変遷や理論の特徴を学び、さまざまな視点から看護に対する考え方を理解する内容とした。また、人間の基本的欲求の捉え方はこれから学習する方法論につながる内容とした。研究の基礎では、根拠に基づいた看護実践（EBP）を行うための基礎や統合分野の科目「事例研究」の基礎となるように学ぶ。研究の基礎を学ぶことで、探究心を養うことを目的としている。また、疾病の経過ではなく、対象の生活の変化に焦点を当てた健康状態の捉え方や対象の特徴、看護についても学ぶ内容とした。

目　　標
１．看護理論を学ぶ意義やさまざまな理論について理解する。
２．看護の主要概念を理解し、本校の概念枠組みとその捉え方について理解する。
３．対象の健康状態の特徴を学び、看護の役割について理解する。
４．看護実践の根拠として論文を読む意義を理解する。
５．自己の課題（疑問）に基づいた文献検索の方法を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 2	1．看護理論と看護の主要概念	1）看護理論を学ぶ意義 2）看護理論とは 3）看護理論の分類と変遷 4）さまざまな看護理論 5）主要概念 （1）人間、健康、環境、看護	講義	4	
3 ～ 11	2．人間の基本的欲求の捉え方	1）本校における枠組みとその捉え方 （1）生命徴候：呼吸・循環・体温・意識状態 （2）食事・栄養・代謝 （3）排泄 （4）活動・休息 （5）清潔・衣生活 （6）認知・知覚 （7）性・生殖 （8）環境 （9）学習・健康管理 (10)自己概念・価値・信念 (11)役割・関係・社会保障	講義 演習	18	
12	3．健康状態に応じた看護	1）疾病の経過 2）対象の生活の変化に焦点を当てた健康状態の捉え方 （1）健康の保持・増進、疾病予防の状態 （2）健康の急激な破綻から回復の状態 （3）健康の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態 （4）障がいのある状態とリハビリテ	講義	2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		ーションを行う状態 （5）人生最期のとき 3） さまざまな健康状態にある対象の特徴と看護のポイント			
13 ～ 15	4．研究の基礎	1） 実践科学としての看護 （1）理論、研究、実践 （2）科学的根拠に基づく実践（EBP） （3）研究の成果と看護実践 2） ＥＢＰのプロセス 3） 論文の構成・内容 4） 文献（論文）の読み方 5） 文献検索の方法と入手方法 （1）文献とその種類 （2）文献検索の方法 （3）文献の入手方法 （4）文献検索の実際 6） 論文を読む	講義	6	情報科学や英語との関連 統合分野の事例研究と関連して学ぶ

テ　キ　ス　ト　茂野香おる：系統看護学講座 専門分野　基礎看護学［1］ 看護学概論，医学書院，第18版【電子版】
香春知永：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［4］臨床看護総論，医学書院，第8版【電子版】
坂下玲子：系統看護学講座 別巻 看護研究，医学書院，第2版【電子版】
ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯槇ます他訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，第4版，2020
フローレンス・ナイチンゲール著，湯槇ます他訳：看護覚え書，現代社第7版，2020

参　考　文　献　筒井真優美：看護理論－看護理論２１の理解と実践への応用，南江堂，第3版，2019
宮脇美保子：新体系看護学全書 専門分野 基礎看護学① 看護学概論，メヂカルフレンド社，第5版，2021
川村佐和子：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（4） 看護研究，メディカ出版，第4版，2023

評　価　方　法　レポート

科　　目　　名　基礎看護学方法論Ⅰ（共通基本技術Ⅰ）

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　１年次　前期

授　業　の　概　要　すべての看護の基盤となる技術を学ぶ科目とした。

すべての看護技術は、対象の生命の尊厳・人権を守り、最大限の安楽を提供し、自立を促すものである。さらに現代ではその人らしさ（個別性）を重視する視点も重要となる。そのため、看護援助の基本となる技術の考え方や基本原則、医療事故防止のための医療安全、安楽で効率的な動きについて学ぶ内容とした。

また、看護記録の目的と意義を理解し、看護における観察・記録・報告の必要性を学ぶとともに、情報管理や情報の取り扱い方法についても学ぶ。

さらに診療に伴う技術の根本になる技術として、感染予防策につながる滅菌物の取り扱いの基礎的知識と技術について学ぶ内容とした。

目　　標
１．看護技術の概念を学び､原則に基づいた看護技術の方法を理解する。
２．看護における安全・感染予防の技術を習得する。
３．安楽で効率的な動きのための技術の基本を理解する。
４．看護における記録・報告の必要性を理解する。
５．滅菌物の取り扱いの基礎知識を学び、基本的な技術を習得する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備　考
1 ～ 2	1．看護技術の概念	1）看護技術とは 2）看護技術の範囲 「療養上の世話」「診療の補助」 3）これから学ぶ看護技術 4）看護技術の特徴 5）看護技術を適切に実践するための要素 6）看護技術の基本原則 （1）安全・安楽・自立・個別性 7）看護技術の発展と修得のために演習時の心得・演習オリエンテーション	講義	4	
3 ～ 7	2．安全を守る・感染予防を推進する技術	1）医療・看護における安全の意義 2）安全管理の基礎知識 （1）安全を脅かす要因 （2）ヒューマンエラーとは （3）ヒューマンエラー防止対策 （4）リスクマネジメントとセーフマネジメント （5）医療事故と医療過誤 （6）インシデント・アクシデント 3）看護事故の構造と防止の視点 4）組織としての事故防止対策 （1）ヒヤリ・ハット事例の収集分析と事故防止対策 （2）インシデントレポート・アクシ	講義 演習	6 4	看護マネジメントとの関連 カテーテル関連、針刺し防止などは診療の補助技術で

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備　考
		デントレポート 5）安全管理における学生個々の責務 6）感染予防の意義 7）感染予防の基礎知識 （1）感染の成立の条件 （2）感染予防策の基本的な考え方 （3）院内感染の防止 （4）感染予防における看護師の責務と役割 8）標準予防策（スタンダードープリコーション） （1）標準予防策の基礎知識 （2）対策の実際：手指衛生、個人防護用具の着用 9）感染経路別予防策 （1）感染経路別予防策の基礎知識 （2）接触予防策 （3）飛沫予防策 （4）空気予防策 10）感染性廃棄物の取り扱い （1）感染性廃棄物の基礎知識 （2）対策の実際			学ぶ
8	3．安楽で効率的な動きのための技術	1）看護における安楽の意義 2）ボディメカニクスの基本 （1）ボディメカニクスとは （2）姿勢と動作 （3）重心と安定性 （4）作業姿勢 （5）力学の応用 ①力学とは　②運動の法則 ③仕事　④合力と分力 ⑤力のモーメント ⑥てこの原理　⑦摩擦力 （6）患者のボディメカニクス	講義	2	人間工学と関連
9 ～ 10	4．看護における記録・報告	1）記録・報告の目的と意義 2）看護記録の法的位置づけ 3）看護記録の構成 4）看護記録の記載基準 記載・管理における留意点 5）看護記録の取り扱い 6）報告のタイミング・方法（S-BAR） 7）電子カルテの操作方法 8）電子カルテの取り扱い	講義 演習	2 2	
11 ～ 13	5．滅菌物の取扱いの技術	1）洗浄・消毒・滅菌 （1）洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 2）無菌操作 （1）無菌操作の基礎知識 （2）援助の実際	講義 演習	2 4	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備　考
		① 滅菌手袋の着脱 ② 無菌操作			
14 15		技術テスト（無菌操作） 筆記テスト		2 2	

テ　キ　ス　ト　茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［２］ 基礎看護技術Ⅰ，医学書院，第19版【電子版】
任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［３］基礎看護技術Ⅱ，医学書院，第19版【電子版】
竹尾惠子：看護技術プラクティス，学研，第４版，2020

参　考　文　献　志自岐康子：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（３） 基礎看護技術，メディカ出版，第１版，2022
深井喜代子：新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社，第６版，2021
深井喜代子：新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社，第５版，2021
坪井良子，松田たみ子：基礎看護学 考える基礎看護技術Ⅰ 看護技術の基本，ヌーヴェルヒロカワ，第３版，2005
大滝周：感染管理ベーシックブック，メヂカルフレンド社，第１版，2020年

評　価　方　法　テスト（筆記・技術）、レポート

科　　目　　名　基礎看護学方法論Ⅱ（共通基本技術Ⅱ）

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　１年次　前期～後期

授　業　の　概　要　すべての看護の基盤となる技術を学ぶ科目とした。
人間関係を成立・発展させるための技術として、コミュニケーション技術の意義や基礎知識を学び、コミュニケーションの重要性についての理解を深める。また、看護における学習支援や安全で快適な療養環境を整える意義・方法を学び、習得できる内容にした。

目　　標
１．人間関係成立・発展させるための技術の基本を理解する。
２．健康学習を支援する技術を理解する。
３．安全・安楽な療養環境を調整する技術を習得する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 4	1．人間関係を成立・発展させるための技術	1）コミュニケーションの意義と目的 （1）コミュニケーションとは 2）看護・医療におけるコミュニケーション （1）看護・医療におけるコミュニケーションの目的 （2）看護・医療におけるコミュニケーションの特徴 （3）看護・医療におけるコミュニケーションの重要性 （4）患者−看護師関係の構築・発展のプロセス ① 関係確立の段階 ② 関係発展の段階 ③ 関係終結の段階 3）効果的なコミュニケーションの実際 （1）傾聴の技術 （2）情報収集の技術 （3）アサーティブネス 4）対人関係の振り返り （1）プロセスレコード （2）リフレクション 5）プロセスレコードの検討	講義 演習	4 4	人間関係論と関連
5 ～ 9	2．健康学習を支援する技術	1）看護における学習支援の意義 （1）看護における学習支援とは （2）教育・指導と学習支援 （3）学習支援における看護師の役割 2）学習に関わる諸理論・学習支援の基本となる考え方 3）さまざまな場で行われる学習支援 4）看護における学習支援の技術 （1）学習ニードのアセスメント （2）個人を対象とした学習支援	講義 演習	2 8	教育学と関連

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		（3）集団を対象とした学習支援 （4）指導方法と指導用具 5）学習支援の実際 （1）指導案の作成 （2）指導の実際 （3）指導の評価			
10 ～ 14	3．療養環境の調整技術	1）生活環境を整える意義 2）援助の基礎知識 （1）療養生活と環境 病室と病床の環境 （2）療養環境のアセスメントの視点 3）療養環境の調整における看護の役割 4）援助の実際 （1）病室の環境測定 （2）ベッド周囲の環境整備 （3）ベッドメーキング	講義 演習	4 6	
15		筆記テスト		2	

テ　キ　ス　ト　茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［2］ 基礎看護技術Ⅰ，医学書院，第19版【電子版】
任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［3］ 基礎看護技術Ⅱ，医学書院，第19版【電子版】
竹尾惠子：看護技術プラクティス，学研，第4版，2020

参　考　文　献　志自岐康子：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3）基礎看護技術，メディカ出版，2022
深井喜代子：新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社，第6版，2021
深井喜代子：新体系看護学全書　専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社，第5版，2021
坪井良子，松田たみ子：基礎看護学 考える基礎看護技術Ⅰ 看護技術の基本，ヌーヴェルヒロカワ，第3版，2005

評　価　方　法　テスト（筆記）、レポート

科　　目　　名　基礎看護学方法論Ⅲ（フィジカルアセスメント）

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　１年次　前期～後期

授　業　の　概　要　看護職者が独自の判断を必要とする場面が増え、看護の役割として対象の身体状況全体を客観的、系統的に観察する能力が求められている。対象の健康上の課題を生活の視点で捉える必要性を理解し、観察のための具体的方法の基礎知識を学ぶ。看護師の「目」「手」「耳」を使って診察の技法を活用してみる。また、身体の状態をとらえるのに最も基本的で、かつ最も重要なバイタルサインを学ぶ。

身体各部の計測の意義を理解し、正しい測定方法の基礎知識を学ぶ。

目　　標

１．ヘルスアセスメントの意義と目的について理解する。
２．看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的、診察技法について理解する。
３．身体各部の計測の目的・意義・方法を理解する。
４．生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法を習得する。
５．フィジカルイグザミネーションの方法を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	１．看護におけるヘルスアセスメント	１）ヘルスアセスメントの意義 （1）ヘルスアセスメントとは （2）ヘルスアセスメントにおける観察 （3）観察の重要性 ２）フィジカルアセスメントの意義 フィジカルアセスメントとは ３）フィジカルアセスメントに必要な技術 問診、視診、触診、打診、聴診	講義	2	
2	２.身体各部の計測	１）身体計測の目的 ２）計測のポイント （1）身長 （2）体重 （3）胸囲 （4）腹囲 （5）皮下脂肪厚など	講義	2	
3 ～ 8	３．バイタルサインの測定とアセスメント	１）バイタルサイン測定の意義 （1）バイタルサインとは （2）バイタルサイン測定の目的 ２）バイタルサインの測定方法 （1）バイタルサインの変動因子と個体差 （2）測定方法 ① 体温測定：体温計の種類と測定部位、体温の観察 ② 呼吸測定 ③ 脈拍測定	講義 演習	4 8	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		④ 血圧測定：血圧の正常値、血圧計の種類と扱い方、触診法、聴診法 ⑤ 意識レベル：意識障害の原因と分類、意識レベルの把握の仕方 ３）バイタルサイン測定の実際			
9		技術テスト（バイタルサイン測定）		2	
10 ～ 14	３．系統別フィジカルイグザミネーションの実際	１）呼吸器系 ２）循環器系 ３）腹部・消化器系 ４）感覚系・中枢神経系・運動系	演習	10	
15		筆記テスト		2	

テ　キ　ス　ト　茂野香おる：系統看護学講座　専門分野 基礎看護学［２］基礎看護技術Ⅰ，医学書院医学書院，第 19 版【電子版】
熊谷たまき：看護がみえる vol.3，MEDIC MEDIA，第１版，2019
竹尾惠子：看護技術プラクティス，学研，第４版，2020

参　考　文　献　志自岐康子：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（３）基礎看護技術，メディカ出版，2022
松尾ミヨ子，城生弘美，習田明裕：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（２）ヘルスアセスメント，メディカ出版，第５版，2018
深井喜代子：新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社，第６版，2021
坪井良子，松田たみ子：基礎看護学 考える基礎看護技術Ⅰ 看護技術の基本，ヌーヴェルヒロカワ，第３版，2005

評　価　方　法　テスト（筆記・技術）、レポート

科　目　名	基礎看護学方法論Ⅳ（日常生活援助技術Ⅰ）
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次　前期～後期
授　業　の　概　要	対象の日常生活行動に対する理解を深め、健康上の課題を有する対象の日常生活を整えるために必要な援助技術を科学的根拠に基づいて学ぶ。また、対象のニードや生活行動に焦点をあて、専門基礎分野の「人体のしくみとはたらき」と関連させながら援助方法を学ぶ。この科目では、活動と休息、排泄を整える援助について学ぶ内容とした。
目　標	１．活動と休息の意義を理解し、対象の活動と休息を整える援助技術を習得する。 ２．排泄の意義を理解し、対象の排泄を整える援助技術を習得する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 6	1．活動・休息を整える援助	1）活動・運動の意義 2）活動のアセスメント （1）活動の内容（動作の観察） （2）姿勢・体位の観察 （3）日常生活動作（ＡＤＬ）と手段的日常生活動作（ＩＡＤＬ） （4）関節可動域 （5）アセスメントの視点 （6）主な健康上の課題 3）移動の援助 （1）移動とは （2）体位変換 （3）歩行の援助 （4）移乗・移送（車椅子・ストレッチャー） 4）安楽な体位の保持 （1）基本的な体位 （2）体位と身体への影響 （3）同一体位による弊害、廃用症候群 （4）安楽に体位を保持する方法 5）睡眠・休息の意義 6）睡眠・休息の基礎知識 （1）睡眠・休息の種類 （2）睡眠制御のメカニズム 7）睡眠・休息のアセスメント 8）睡眠障害の種類と要因 9）睡眠・休息の援助 10）援助の実際 （1）体位変換・安楽な体位の保持 （2）車椅子・ストレッチャーの移乗・移送	講義 演習	4 8	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
7		技術テスト（体位変換、臥床患者のリネン交換）		2	
8 ～ 13	2．排泄を整える援助	1）排泄の意義 2）排泄のしくみ・メカニズム 3）排泄のアセスメント 4）排泄の援助 （1）床上排泄の援助（便器・尿器） （2）おむつによる排泄援助（おむつ交換・おむつの当て方） （3）陰部洗浄	講義 演習	4 8	
14		技術テスト（陰部洗浄・おむつの当て方）		2	
15		筆記テスト		2	

テ　キ　ス　ト　任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［3］ 基礎看護技術Ⅱ，医学書院，第19版【電子版】
竹尾惠子：看護技術プラクティス，学研，第4版，2020

参　考　文　献　志自岐康子：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3）基礎看護技術，メディカ出版，2022
深井喜代子：新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社，第5版，2021
坪井良子，松田たみ子：基礎看護学 考える基礎看護技術Ⅰ 看護技術の基本，ヌーヴェルヒロカワ，第3版，2005

評　価　方　法　テスト（筆記・技術）、レポート

科　目　名	基礎看護学方法論Ⅴ（日常生活援助技術Ⅱ）
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次　前期～後期
授　業　の　概　要	対象の日常生活行動に対する理解を深め、健康上の課題を有する対象の日常生活を整えるために必要な援助技術を科学的根拠に基づいて学ぶ。また、対象のニードや生活行動に焦点をあて、専門基礎分野の「人体のしくみとはたらき」と関連させながら援助方法を学ぶ。この科目では、食事・栄養、清潔・衣生活を整える援助について学ぶ内容とした。
目　標	１．食事の意義を理解し、対象の食事・栄養を整える援助技術が実施できる。 ２．清潔・衣生活の意義を理解し、対象の清潔・衣生活を整える援助技術を習得する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．食事・栄養を整える援助	1）食事・栄養の意義 2）食事・栄養摂取のしくみ・メカニズム （1）食欲のメカニズム （2）嚥下のメカニズム （3）消化・吸収のメカニズム （4）医療施設で提供される食事 3）食事・栄養のアセスメント （1）栄養状態 （2）食事の摂取内容 （3）水分摂取と排泄（水分出納） （4）食事の質、食習慣 （5）食事動作（摂食行動） （6）食事を妨げる要因（嚥下機能、消化機能） 4）医療施設で提供される食事 5）食事摂取の介助 （1）食事介助における看護師の役割 （2）援助方法の選択 （3）食欲不振への援助 （4）さまざまな対象への援助 ① 咀嚼・嚥下障害のある患者への援助（誤嚥予防） ② 視覚障害、体位・体動制限のある患者への援助 ③ 上肢の運動障害のある患者への援助 （5）自助具の活用 （6）食後の援助（口腔ケア） 6）援助の実際 （1）食事介助 （2）口腔ケア	講義 演習	4 2	嚥下訓練・経管栄養法は老年看護学で学ぶ 中心静脈栄養法は、成人看護学で学ぶ

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
4 ～ 12	2．清潔・衣生活を整える援助	1） 清潔の意義（生理的・心理的・社会的意義） 2） 皮膚・粘膜のしくみとメカニズム 3） 清潔援助の対象とアセスメントのポイント 4） 清潔援助の方法 （1）入浴・シャワー浴 （2）全身清拭 （3）洗髪 （4）手浴・足浴 （5）整容（洗面、爪切り・髭剃りなど） （6） 眼・耳・鼻の清潔 5） 衣生活の意義 6） 衣生活のアセスメント 7） 病衣の選び方と病衣・寝衣の交換 8） 清潔援助の実際 （1）部分浴 （2）洗髪 （3）全身清拭・寝衣交換	講義 演習	2 16	
13 ～ 14 15		技術テスト（全身清拭・臥床患者の寝衣交換） 筆記テスト		4 2	

テ　キ　ス　ト　任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［3］ 基礎看護技術Ⅱ，医学書院，第19版【電子版】
竹尾惠子：看護技術プラクティス，学研，第4版，2020

参　考　文　献　志自岐康子：ナーシング・グラフィ 基礎看護学（3） 基礎看護技術，メディカ出版，2022
深井喜代子：新体系看護学全書　専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社，第5版，2021
坪井良子，松田たみ子：基礎看護学 考える基礎看護技術Ⅰ 看護技術の基本，ヌーヴェルヒロカワ，第3版，2005

評　価　方　法　テスト（筆記・技術）、レポート

科　目　名	基礎看護学方法論Ⅵ（診療に伴う技術Ⅰ）
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次　後期
授　業　の　概　要	臨床の場で活用する頻度が高く、健康上の課題を有する対象に共通している検査や、治療・処置時の援助技術である薬物療法、輸血療法に伴う基礎的技術を安全・安楽かつ的確に実施できるよう学ぶ。
目　標	１．診察・検査・処置における看護の役割を理解し、モデルを用いた静脈血採血が実施できる。 ２．薬物療法における看護の役割を理解し、モデルを用いた注射法が実施できる。 ３．輸血療法の目的や安全に実施するための方法について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 5	１．診察・検査と看護	１）診察のプロセス （１）診察、検査、診断、治療・処置 （２）検査の意義 （３）検査の分類 ２）診察・検査における看護の役割 ３）主な検査・処置と介助法 （１）静脈内採血 （２）侵襲的処置の介助技術 ① 穿刺の介助と援助 ・胸腔穿刺　・腹腔穿刺 ・腰椎穿刺　・骨髄穿刺 ② 洗浄の介助と援助 ・胃洗浄 ・膀胱洗浄 ４）援助の実際 （１）静脈内採血	講義 演習	4 6	
6 ～ 13	２．薬物療法と看護	１）薬物療法における看護の役割 （１）与薬とは （２）安全で確実な与薬のための知識・技術・態度 （３）薬の管理 ２）与薬経路の種類と身体への影響 ３）薬物療法時の援助方法 （１）与薬法 ①経口与薬　②点眼　③点鼻 ④経皮的与薬　⑤直腸内与薬 ⑥注射 ・筋肉内注射 ・点滴静脈内注射 ・皮下・皮内注射 ４）援助の実際 （１）経皮的与薬 （２）直腸内与薬（座薬） （３）皮下・筋肉内注射	講義 演習	4 12	薬理学 臨床薬理学との関連

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		（4）点滴静脈内注射			
14	3．輸血療法と看護	1）輸血療法における看護の役割 （1）安全で適正な輸血のための知識 （2）輸血療法の目的 2）輸血製剤の種類と保管方法 3）輸血療法の方法 （1）輸血の管理 （2）実施時の観察	講義	2	
15		筆記テスト		2	

テ　キ　ス　ト　任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［3］ 基礎看護技術Ⅱ，医学書院，第19版【電子版】
香春知永：系統看護学講座　専門分野 基礎看護学［4］臨床看護総論，医学書院，第8版【電子版】
竹尾惠子：看護技術プラクティス，学研，第4版，2020

参　考　文　献　志自岐康子：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3）基礎看護技術，メディカ出版，2022
深井喜代子：新体系看護学全書　専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社，第5版，2021
坪井良子，松田たみ子：基礎看護学　考える基礎看護技術Ⅱ 看護技術の基本，ヌーヴェルヒロカワ，第2版，2002

評　価　方　法　テスト（筆記）、レポート

科　目　名	基礎看護学方法論Ⅶ（診療に伴う技術Ⅱ）
単　位（時間数）	１単位（30 時間）
履　修　年　次	１年次　後期
授　業　の　概　要	呼吸を整えるための酸素療法や吸入療法及び吸引療法、救命救急処置、創傷処置、苦痛緩和への援助に伴う基礎的技術を安全・安楽かつ的確に実施できるよう学ぶ。
目　標	１．呼吸を整えるための看護の役割を理解し、援助技術を習得する。 ２．救命救急における看護の役割を理解し、救命救急処置の基本的技術が実施できる。 ３．創傷管理における基礎知識を理解し、基本的技術が実施できる。 ４．苦痛緩和における基礎知識を理解し、温罨法の援助技術が実施できる。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 6	１．呼吸を整える看護	１）酸素吸入療法と看護 （１）酸素吸入療法における看護の役割 （２）酸素吸入療法の基礎的知識 ① 酸素療法の目的 ② 酸素について ③ 酸素吸入に使われる器具の基礎知識 ④ 器具の特徴 （３）酸素吸入時のアセスメントと援助方法 ２）薬物噴霧療法（ネブライザー）と看護 （１）薬物噴霧療法における看護の役割 （２）薬物噴霧療法の基礎知識 ① 吸入療法とは ② 吸入療法の目的 ③ ネブライザーの構造と原理 （３）薬物噴霧時のアセスメントと援助方法 ３）吸引療法と看護 （１）吸引における看護の役割 （２）吸引の基礎知識 ① 吸引とは ② 吸引の目的 （３）吸引時のアセスメントと援助方法 ４）援助の実際 （１）酸素・ネブライザー吸入 （２）酸素ボンベの操作 （３）一時吸引（口腔・鼻腔内、気管内吸引）	講義 演習	4 8	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
7		技術テスト（口腔・鼻腔内吸引）		2	
8 ～ 10	2．救命救急と看護	1）救命救急時における看護の役割 2）救命救急処置の基礎知識（ＢＬＳ） 3）心肺蘇生法 4）止血法	講義 演習	2 4	
11 ～ 12	3．創傷管理と看護	1）創傷管理における看護の役割 2）創傷管理の基礎知識 （1）創傷とは （2）創傷の治癒過程とメカニズム 3）創傷処置 （1）創洗浄と創保護 （2）創傷の観察 （3）包帯法 4）援助の実際 （1）創洗浄と創保護 （2）包帯法	講義 演習	2 2	
13 ～ 14	4．苦痛緩和と看護	1）苦痛緩和における看護の役割 2）人間にとっての痛みの概念 3）痛みのメカニズム 4）痛みのアセスメント 5）痛みの基本的な治療と看護 6）苦痛緩和のための罨法の技術 7）援助の実際 （1）罨法（温罨法、冷罨法）	講義 演習	2 2	
15		筆記テスト		2	

テ　キ　ス　ト　任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［３］ 基礎看護技術Ⅱ，医学書院，第 19 版【電子版】
香春知永：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［４］ 臨床看護総論，医学書院，第８版【電子版】
竹尾惠子：看護技術プラクティス，学研，第４版，2020

参　考　文　献　深井喜代子：新体系看護学全書　専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社，第５版，2021
坪井良子，松田たみ子：基礎看護学 考える基礎看護技術Ⅱ 看護技術の基本，ヌーベルヒロカワ，第２版，2002
宮脇美保子：新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論，メヂカルフレンド社，第３版，2019

評　価　方　法　テスト（筆記・技術）、レポート

科　　目　　名　基礎看護学方法論Ⅷ（看護過程）

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　１年次　後期

授　業　の　概　要　看護実践とは看護を必要とする対象の看護問題やその原因を明らかにし、それに対して看護師がどのような援助を行っていくかを具体的目標とともに表明したうえで、その目標や援助の計画に沿って看護技術を駆使し実践を行い、評価し、さらに次の実践へとつなげていく螺旋階段のような営みである。看護過程は、看護を実践するための手段や考え方のことであり、看護を系統的かつ科学的に行うための問題解決過程である。本講義では看護過程の基礎知識や展開方法について学習する。

目　　標　１．看護過程の概念を理解する。
２．事例を通して看護過程の展開技術の基本を習得する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備　考
1	１．看護過程の基になる考え方	１）看護過程を使う意義 ２）看護過程の基礎知識 （1）看護過程とは （2）看護過程の構成要素 （3）５つの構成要素の関係性 ① 連続的なプロセス ② 循環的なプロセス ３）看護過程の基盤となる考え方 （1）問題解決過程 （2）クリティカルシンキング （3）看護過程と看護理論の関係	講義	2	
2 ～ 5	２．看護過程の構成要素	１）アセスメント （1）情報の分類・整理 （2）情報の解釈・分析 （3）全体像 ２）看護問題の明確化 （1）看護問題の抽出 （2）優先順位の決定 ３）看護計画の立案 （1）目標の表現：長期目標、短期目標 （2）具体策 ① 観察計画（ＯＰ） ② 直接ケア計画（ＴＰ） ③ 教育計画（ＥＰ）、指導案 ４）実施 ５）評価	講義	8	論理的思考、基礎看護学概論Ⅱとの関連
6 ～ 14	３．看護過程展開の実際	１）ペーパーペイシェント（電子カルテ）での事例展開 （1）アセスメント （2）全体像 （3）看護問題の明確化 （4）看護計画の立案 （5）実施後の記録（ＳＯＡＰＩＥ）	演習	18	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備　考
15		筆記テスト		2	

テ　キ　ス　ト　茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［２］ 基礎看護技術Ⅰ，医学書院，第 19 版【電子版】
香春知永：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［４］ 臨床看護総論，医学書院，第８版【電子版】
高木永子：看護過程に沿った対症看護，学研，第５版，2020

参　考　文　献　深井喜代子：新体系看護学全書　専門分野Ⅰ 基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社，第５版，2021
宮脇美保子：新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論，メヂカルフレンド社，第３版，2019

評　価　方　法　テスト（筆記）、レポート

科　　目　　名　基礎看護学方法論Ⅸ（臨床判断の基礎）

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　２年次　前期

授　業　の　概　要　看護師の活動の場が拡大していく中で、看護職者が独自の判断を必要とする場面が増え、看護師には対象の身体状況を客観的・系統的に観察する能力が求められている。対象に合った援助を行うためには、対象を統合体として捉えることは欠かせない。本科目では、看護の基本となる技術や日常生活援助技術などの技術を統合し、対象に合わせた援助方法を学ぶ内容とした。また、人体のしくみとはたらき・病理学総論・疾病治療学で学んだ知識と関連させ、看護におけるフィジカルアセスメントを学ぶ。その中で、フィジカルイグザミネーションを用いて、対象の健康状態のアセスメントを体験的に学ぶ。演習を通して、臨床判断能力の基本を学び、看護実践力の強化につなげる。

目　　標
１．看護における臨床判断を学ぶ意義を理解する。
２．身体状況や症状・徴候にあわせたフィジカルイグザミネーションが実施できる。
３．フィジカルイグザミネーションで得た情報からアセスメントできる。
４．対象に合わせた日常生活援助が実施できる。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備　考
1 ～ 2	1．看護師の臨床判断のプロセス	1）臨床判断を学ぶ意義 2）臨床判断力とは 3）臨床判断のプロセス 気づき・解釈・反応・省察 4）臨床判断の学び	講義	4	
3 ～ 6	2．看護技術の統合演習	1）オリエンテーション （1）演習のねらい （2）演習の進め方、留意点 （3）事例紹介 （4）評価方法 2）援助の実際（シミュレーション） （1）バイタルサイン測定 （2）日常生活援助技術 （3）内服薬の投与	演習	8	
7 ～ 8		技術テスト（対象に合わせた日常生活援助の実施）		4	
9 ～ 10	3．フィジカルアセスメントの活用	1）フィジカルイグザミネーションを活用した対象の全身状態の把握 （1）フィジカルイグザミネーションとアセスメント （2）ＳＢＡＲ	演習	4	
11		技術テスト（フィジカルイグザミネーション）		2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備　考
12 ～ 15	４．症状・徴候からのフィジカルアセスメント	１）胸が痛い ２）お腹が痛い ３）息が苦しい ４）むくみがある	演習	８	

テ　キ　ス　ト　茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学［２］ 基礎看護技術Ⅰ，医学書院，第19版【電子版】
熊谷たまき：看護がみえる vol.3，MEDIC MEDIA，第１版，2019

参　考　文　献　宮脇美保子：新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論，メヂカルフレンド社，第３版，2019

評　価　方　法　テスト（技術）、レポート、参加態度

地域・在宅看護論

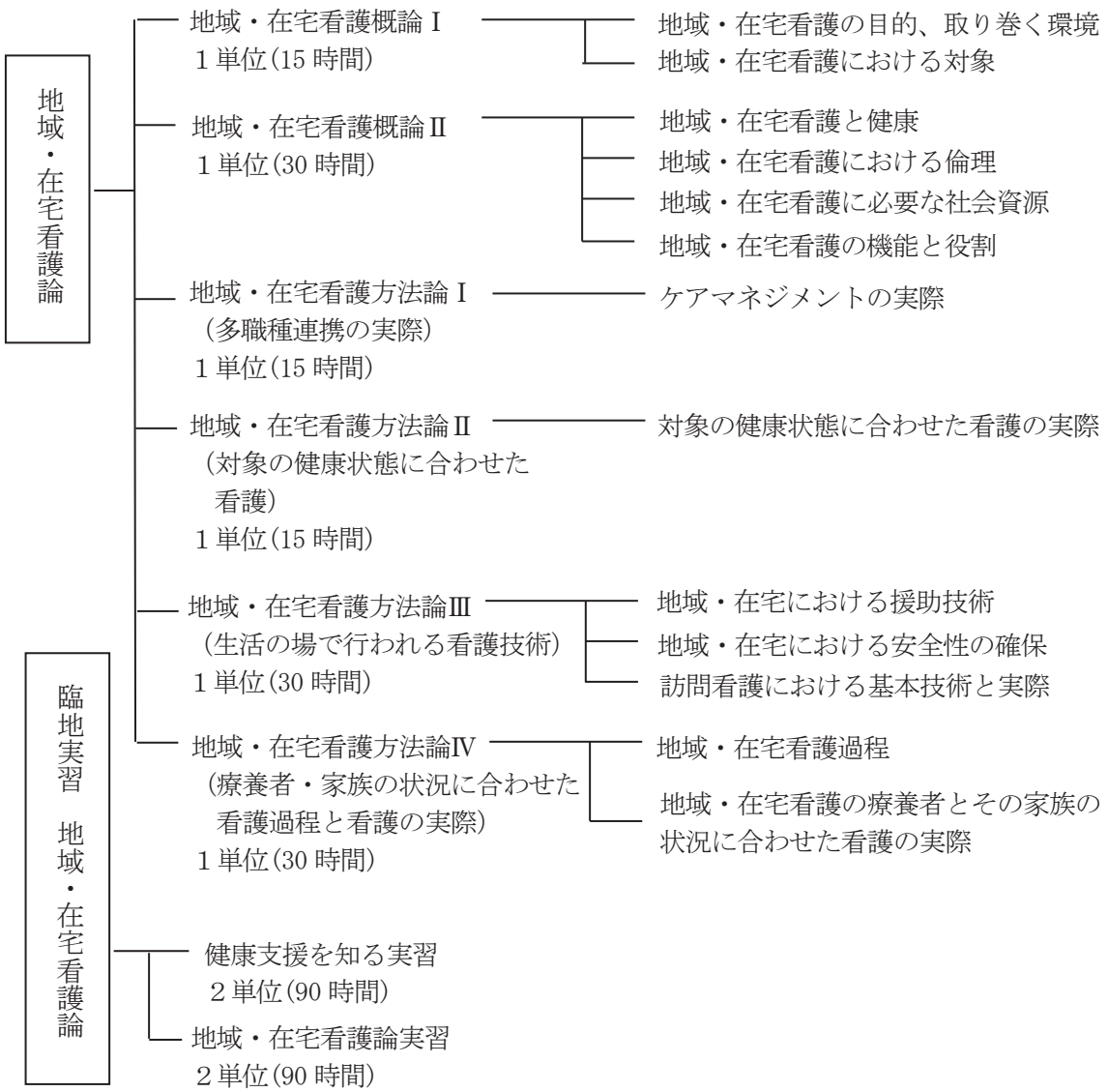
目　的

地域・在宅で生活する人々とその家族の特徴を理解し、その人らしい生活や自立を支えていくために必要な知識・技術・態度を養う。

目　標

1．地域・在宅で生活する人々と家族の価値観、自立性、独自性を尊重した人間関係形成の基礎的態度を養う。
2．地域・在宅看護の対象者とその家族を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる。
3．様々な環境の中で生活している対象者とその家族を支え続けていくために、地域・在宅看護の特徴を踏まえてアセスメントし科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4．地域・在宅看護の実際を通して保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、多職種との連携や協働の方法を学ぶ。
5．一人ひとりの生活・価値観・生き方を尊重し関わる中で、共に成長発達することを学ぶ。

科目構成



科　　目　　名　地域・在宅看護概論Ⅰ

単　位（時間数）　１単位（15時間）

履　修　年　次　１年次　前期

講　義　の　概　要　地域で生活・暮らす人々を支えるための基盤となる概念を学ぶ。地域で生活をしている人々の関わりや地域での様々な生活体験を通して地域で生活をする人々とその家族を理解し学ぶ内容とした。

目　　標　１．地域・在宅看護の目的を理解する。
２．地域・在宅看護における環境を理解する。
３．地域・在宅看護における生活者としての対象を理解する。
４．地域・在宅看護における家族の特徴について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．地域・在宅看護の目的、対象を取り巻く環境	1）地域・在宅看護の対象を取り巻く環境 （1）地域・在宅看護をめぐる社会的背景（沖縄県と全国） ①人口構造の変化 ②家族形態・世帯の変化 ③産業の変化など （2）地域・在宅看護の歴史的変遷と現状 ①保健師による家庭訪問時代 ②訪問看護制度の歩み 2）暮らしと地域 ①地域の定義 ②人々の暮らす地域の多様性 ・地域住民・文化の多様性 3）暮らしと地域を理解するための考え方 （1）システム理論 （2）地域包括ケアシステムと地域共生社会 4）地域・在宅看護とは （1）地域・在宅看護の目的 （2）暮らしを支える看護とは 5）地域・在宅看護が提供される多様な場 6）地域・在宅看護の今後の発展	講義	6	
4 ～ 7	2．地域・在宅看護における対象	1）地域における生活者としての対象 2）ライフサイクルからみた対象 （地域で暮らす全ての人々） 3）法的制度からみた対象 4）地域・在宅看護における家族 （1）家族とは （2）家族の変遷 （3）家族の機能と役割	講義 演習	8	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		（4）家族を理解する基礎理論 ①家族発達理論 ②家族システム理論 ③家族ストレス対処理論			
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　川原加代子ら：系統看護学講座　地域・在宅看護概論Ⅰ　地域・在宅看護の基盤，医学書院，第6版，【電子版】
小田清一ら：国民衛生の動向・厚生の指標，厚生労働統計協会，増刊・第71巻第9号 通巻第1111号, 2024

参　考　文　献　石田千絵ら　：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア，メディカ出版，第8版，2025
河野あゆみら：新体系看護学全書 在宅看護論，メヂカルフレンド社，第5版，2025
石垣和子ら:在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして，南江堂，第2版，2017
杉本正子ら：在宅看護論 実践をことばに，ヌーヴェルヒロカワ，第6版，2019
渡辺裕子：家族看護を基盤とした 在宅看護論　Ⅰ概論編，日本看護協会出版会

評　価　方　法　テスト、レポート

科　　目　　名　地域・在宅看護概論Ⅱ

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　１年次　後期

講　義　の　概　要　地域・在宅看護における対象の健康に与える環境について理解し、健康を捉える視点を理解する。その人らしい生活や自立を支えていく必要性や倫理について学ぶ。また、地域で暮らし続けるためのケアマネジメントについて理解し、地域・在宅看護に必要な社会資源について学ぶ内容とした。地域・在宅看護における看護の機能と役割についても考え学ぶ内容とした。

目　　標　１．地域・在宅看護における対象の健康を理解する。
２．地域・在宅看護における倫理について理解する。
３．地域で暮らし続けるためのケアマネジメント・制度について理解する。
４．地域・在宅看護における看護の機能と役割について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 4	1．地域・在宅看護と健康	1）地域・在宅の生活環境が対象の健康に与える影響 （1）文化的環境 （2）社会的環境 （3）自然環境 2）健康状態 （1）健康の保持・増進、疾病予防の状態 （2）健康の急激な破綻から回復の状態 （3）健康の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態 （4）障がいのある状態とリハビリテーション （5）人生の最期のとき	講義	8	
5 ～ 6	2．地域・在宅看護と倫理	1）看護の倫理 2）権利保障 （1）個人の尊厳 （2）自己決定への支援 （3）権利擁護	講義	4	
7 ～ 11	3．地域・在宅看護と社会資源	1）地域で暮らし続けることを支援するためのケアマネジメント （1）ケアマネジメントとは （2）マネジメントのケアプロセス 2）地域で暮らす人々を支える法と制度と施策 （1）高齢者を支える社会資源 （2）障害者を支える社会資源 （3）難病者を支える社会資源 （4）子どもを支える社会資源 3）訪問看護の現状としくみ	講義	10	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
12 ～ 14	４．地域・在宅看護の機能と役割	１）自立支援 ２）多職種連携・協働 ３）地域包括ケアシステム・地域共生社会 ４）地域の一員としての看護の役割	講義	6	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　川原加代子ら：系統看護学講座　地域・在宅看護概論Ⅰ　地域・在宅看護の基盤，医学書院，第６版，【電子版】

参　考　文　献　木下由美子：新版在宅看護論，医歯薬出版株式会社
石田千絵ら　：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア，メディカ出版，第８版，2025
河野あゆみら：新体系看護学全書 在宅看護論，メヂカルフレンド社，第５版，2025
石垣和子ら:在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして，南江堂，第２版，2017
杉本正子ら：在宅看護論 実践をことばに，ヌーヴェルヒロカワ，第６版，2019

評　価　方　法　テスト、レポート

科　　目　　名　地域・在宅看護方法論Ⅰ（多職種連携の実際）

単　位（時間数）　１単位（15 時間）

履　修　年　次　２年次　前期

講　義　の　概　要　ケアマネジメントの必要性や多職種連携についての具体的な支援や専門職種連携の実際を学ぶ内容とした。

目　　標　１．地域・在宅看護における多職種連携の必要性を理解する。
２．地域・在宅看護における多職種連携・協働の具体的支援方法を学ぶ。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 7	1．ケアマネジメントの実際	1）公的機関、訪問看護ステーションが行う訪問看護活動 （1）在宅ケアにおける多職種の連携・協働の必要性 （2）多職種連携での看護師の役割 （3）在宅ケアにおける保健医療福祉チームの連携方法と実際 ①認定訪問看護師 ②保健師 2）多職種連携についての具体的支援と実際 （1）多職種連携の実際Ⅰ ①サービス担当者会議の開催 （2）多職種連携の実際Ⅱ ①事例検討会 ②ケアマネジメント	講義 講義 演習 演習	2 2 4 6	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　川原加代子ら：系統看護学講座　地域・在宅看護概論Ⅱ　地域・在宅看護の実践，医学書院，第６版，【電子版】

参　考　文　献　木下由美子：新版在宅看護論，医歯薬出版株式会社
石田千絵ら　：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア，メディカ出版，第８版，2025
河野あゆみら：新体系看護学全書 在宅看護論，メヂカルフレンド社，第５版，2025
杉本正子ら：在宅看護論 実践をことばに，ヌーヴェルヒロカワ，第６版，2019
介護支援専門員テキスト編集委員会：［十訂］介護支援専門員基本テキスト上下全２巻，長寿社会開発センター，2024

評　価　方　法　テスト、レポート

科　　目　　名　地域・在宅看護方法論Ⅱ（対象の健康状態に合わせた看護）

単　位（時間数）　１単位（15 時間）

履　修　年　次　２年次　前期

講　義　の　概　要　対象の健康状態の状態に合わせた看護について学ぶ内容とした。
実際に地域で生活している当事者の語りから、地域で療養する人々がどのように生活しているのか、また、どのような専門職種が連携し支えているかを学ぶ内容とした。
「人生最期の時」については事例を取り上げ、終末期にある地域・在宅看護の対象者とその家族の看護について考え学んでいく。

目　　標　１．地域・在宅看護の対象の健康状態に合わせた看護について学ぶ。
２．当事者の語りから、地域・在宅で生活している対象の思い、実際について学ぶ。
３．地域・在宅看護における終末期看護について学ぶ。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 7	1．対象の健康状態に合わせた看護の実際	1）健康の保持・増進、疾病予防の状態 (1) 地域で暮らす対象の健康の保持増進、疾病予防と看護 (2) 地域で暮らす人の看護 2）健康の急激な破綻から回復の状態 (1) 在宅で急激な破綻を迎えるとき 3）健康の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態 (1) 難病を持ち地域で暮らす対象と看護 (2) 当事者の語りから ・脳性麻痺とともに地域で暮らす 4）障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態 ・当事者の語りから 5）在宅で迎える人生の最期のとき （1）本人の望む人生最期への看護 （2）対象を看取る家族への看護 （3）地域・在宅での看取りへの看護のプロセス ＊地域で療養しながら生活している当事者の語りから実際を学ぶ内容を取り入れる。	講義 講義 講義 講義 講義	2 2 4 2 4	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　川原加代子ら：系統看護学講座　地域・在宅看護概論Ⅱ　地域・在宅看護の実践，医学書院，第６版，【電子版】

参　考　文　献　木下由美子：新版在宅看護論，医歯薬出版株式会社
石田千絵ら　：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支

えるケア，メディカ出版，第８版，2025
石田千絵ら　：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術，メディカ出版，第３版，2025
河野あゆみら：新体系看護学全書 在宅看護論，メヂカルフレンド社，第５版，2025
石垣和子ら:在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして，南江堂，第２版，2017
杉本正子ら：在宅看護論 実践をことばに，ヌーヴェルヒロカワ，第６版，2019

評　価　方　法　テスト、レポート

科　　目　　名　地域・在宅看護方法論Ⅲ（生活の場で行われる看護技術）

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　２年次　前期～後期

講　義　の　概　要　地域・在宅看護の実際について学ぶ。訪問時の基本技術についての演習を取り入れた内容とした。訪問看護の訪問者としての一般常識やマナー、人間関係形成のためのコミュニケーション技術、生活の場で行われる看護技術について考え学ぶ内容とした。在宅におけるリスクマネジメントを含め、地域で生活する療養者を支え続けていくために必要な援助について講義・演習を通して学んでいく。演習の中ではＩＣＴを活用した、報告・記録についても学ぶ内容とした。

目　　標　１．地域・在宅看護におけるコミュニケーション技術について学ぶ。
２．地域・在宅看護の対象への援助技術について学ぶ。
３．地域・在宅看護におけるリスクマネジメントについて学ぶ。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1～9	1．地域・在宅における援助技術	1）地域・在宅看護での看護を展開するとは （1）在宅におけるコミュニケーションとは 2）地域・在宅看護介入時期別の特徴 （1）在宅療養準備期（退院前） （2）在宅療養移行期 （3）在宅療養安定期 （4）急性増悪期 （5）終末（看取り）期	講義 演習	2	
		3）呼吸することへの援助 （1）呼吸に関するアセスメント （2）援助の実際 ①療養者の健康状態に合わせた呼吸の工夫	講義	2	
		②在宅酸素療法 ③在宅人工呼吸法	講義	2	
		4）食べることへの援助 （1）食事・嚥下に関するアセスメント （2）援助の実際 ①療養者の健康状態に合わせた食の工夫 ②在宅経管栄養法（胃瘻、腸瘻） ③在宅中心静脈栄養法	講義	2	
		5）服薬管理 （1）服薬管理の実際 ①療養者の健康状況・生活状況に合わせた服薬管理の工夫	講義	2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		6）排泄への援助 （1）排泄に関するアセスメント （2）援助の実際 ①療養者の健康状態に合わせた排泄の工夫 ②排便コントロール（摘便）浣腸・摘便 7）清潔・衣への援助 （1）清潔に関するアセスメント （2）援助の実際 ①療養者の健康状態に合わせた清潔の工夫 ②在宅での褥瘡ケア ③フットケア 8）運動・休息・安楽への援助 （1）運動・休息・安楽に関するアセスメント （2）援助の実際 ①療養者の健康状態に合わせた運動・休息・安楽の工夫 ②移動の援助（移動補助具） 9）環境調整への援助 （1）環境調整に関するアセスメント （2）援助の実際 ①療養者の健康状態に合わせた環境調整の工夫 ②住環境	講義 演習 講義 演習 講義 演習	4 2 2	
10	2．地域・在宅における安全性の確保	1）地域・在宅におけるリスクマネジメント （1）地域・在宅におけるリスクとは ①医療上のリスク ②生活上のリスク （2）地域・在宅における災害対策	講義	2	
11 ～ 14	3．訪問看護における基本技術と実際	1）訪問看護の目的 2）訪問看護の準備 3）訪問時のコミュニケーション 4）事例を通しての演習 5）訪問看護における報告・記録（ＩＣＴ活用）	講義 演習	4 4	
15		テスト、レポート		2	

テ　キ　ス　ト　川原加代子ら：系統看護学講座　地域・在宅看護概論Ⅱ　地域・在宅看護の実践，医学書院，第6版，【電子版】

参　考　文　献　臺石田千絵ら　：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア，メディカ出版，第8版，2025
石田千絵ら：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術，メディカ出版，第3版，2025

河野あゆみら：新体系看護学全書 在宅看護論， メヂカルフレンド社，第5版，2025
杉本正子ら：在宅看護論 実践をことばに，ヌーヴェルヒロカワ，第6版，2019

評　価　方　法　テスト、レポート

科　　目　　名　地域・在宅看護方法論Ⅳ

（療養者・家族の状況に合わせた看護過程と看護の実際）

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　２年次　後期

講　義　の　概　要　地域･在宅で生活する療養者とその家族の思いを大切にしながら地域の中で支え続けていくための看護過程の展開・援助の工夫について学習する。これまで学習した制度や多職種連携について関連づけるために、制度からみた対象の事例を設定し看護過程を展開する内容とした。また、状況に合わせた看護技術の実際では、看護過程で計画立案した計画をもとに、療養者とその家族の状況に合わせて、実践する内容とする。様々な状況の中で生活している療養者とその家族を支え続けていくために必要な看護技術を学ぶ。
ＩＣＴを活用した連携・調整方法についても体験する内容とした。

目　　標　１．地域・在宅看護における看護過程の特徴を理解する。
２．地域・在宅看護における療養者とその家族の健康上・生活上のニーズを踏まえ総合的にアセスメントし看護計画を立案する。
３．療養者とその家族の状況を踏まえて立案した看護計画をもとに在宅療養を支えていく看護の実際を習得する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 7	1．地域・在宅看護過程	1）地域・在宅看護過程展開方法 （1）看護過程の特徴 （2）情報収集の視点 （2）情報収集の視点 ①介護力 ③緊急時の対応 （3）アセスメント ①情報取集と解釈分析 ②全体像（情報の関連統合） （4）看護問題の抽出 （5）看護計画立案 （6）実施 （7）評価 （8）記録、報告	講義	2	
		2）事例における看護過程 （1）在宅で生活する要介護高齢者 ・慢性閉塞性肺疾患（COPD） （2）在宅で生活する障害者 ・脊髄損傷 （3）在宅で生活する難病者 ・筋委縮性側索硬化症（ALS）	演習	12	
8		テスト	テスト	1	
9	2．地域･在宅で生活する療養者とその家族の状況に合	1）事例における看護過程の実践 （1）演習方法について ・オリエンテーション	演習	1	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
10 ～ 15	わせた看護の実際	1）事例における看護過程の実践 （1）在宅で生活する要介護高齢者 ・慢性閉塞性肺疾患（COPD） （2）在宅で生活する障害者 ・脊髄損傷 （3）在宅で生活する難病者 ・筋委縮性側索硬化症（ALS） 2）事例における多職種連携 （1）ＩＣＴを活用した連携・調整 3）発表	講義 演習	4 4 4	
16		まとめ	講義	2	

テ　キ　ス　ト　川原加代子ら：系統看護学講座　地域・在宅看護概論Ⅰ　地域・在宅看護の基盤，医学書院，第6版，【電子版】
川原加代子ら：系統看護学講座　地域・在宅看護概論Ⅱ　地域・在宅看護の実践，医学書院，第6版，【電子版】

参　考　文　献　石田千絵ら ：ナーシンググラフィカ 地域･在宅看護論① 地域療養を支えるケア，メディカ出版，第8版，2025
石田千絵ら ：ナーシンググラフィカ 地域･在宅看護論② 地域療養を支える技術，メディカ出版，第3版，2025
正野逸子ら：関連図で理解する在宅看護過程，メヂカルフレンド社，第2版，2021
河野あゆみら：新体系看護学全書 在宅看護論，メヂカルフレンド社，第5版，2025
杉本正子ら：在宅看護論 実践をことばに，ヌーヴェルヒロカワ，第6版，2019

評　価　方　法　テスト、レポート

成人看護学

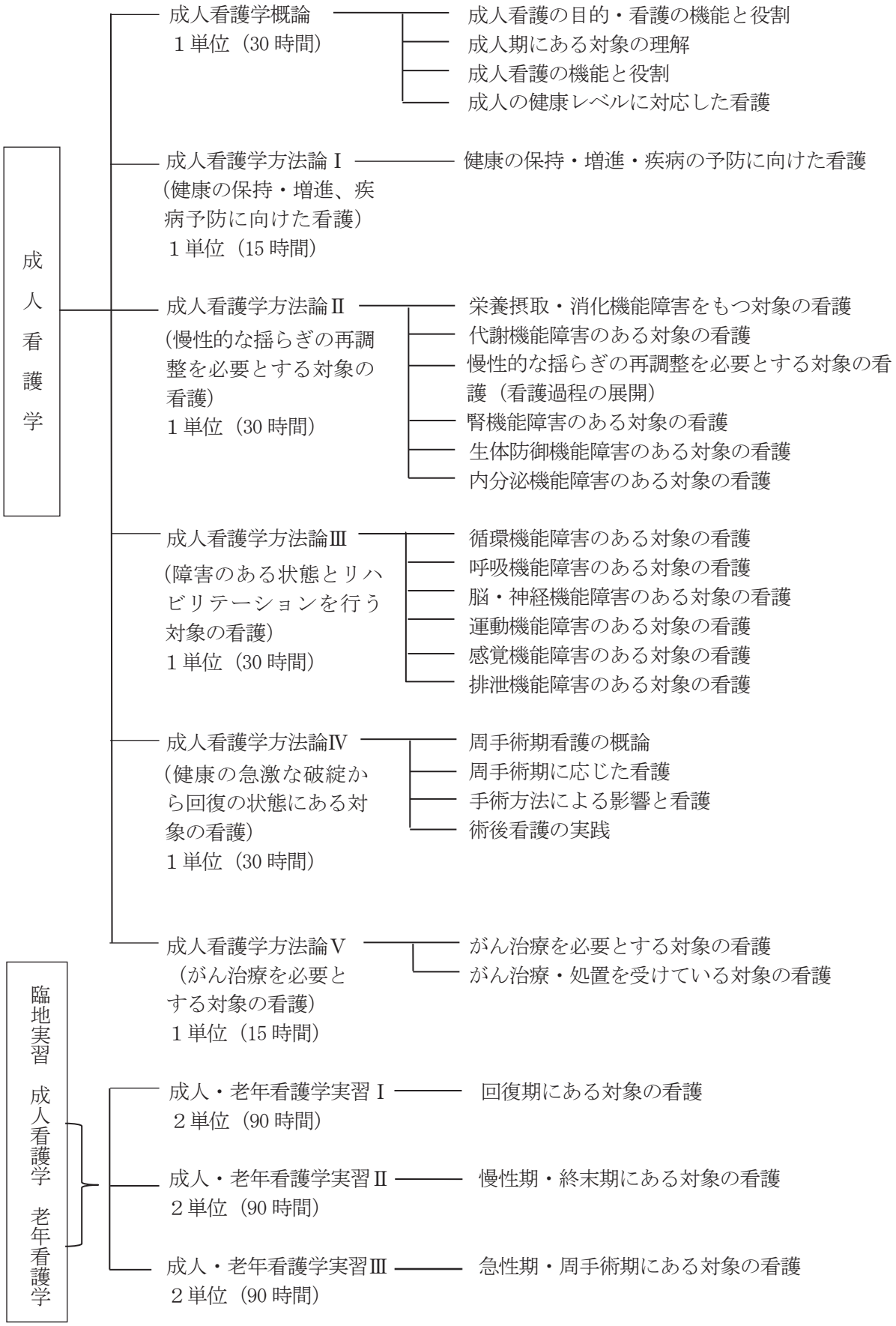
目　的

成人期にある対象の特徴、健康上の課題をとらえ、健康の状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

目　標

1．成人期にある対象を尊重し、人間関係を円滑にするための能力を身につける。
2．成人期にある対象を生活者として統合的に理解する能力を身につける。
3．成人期にある対象の健康上の課題を科学的根拠に基づいて判断し、看護実践できる基礎的能力を身につける。
4．保健医療福祉制度と多職種との連携、保健医療チームの一員として看護の役割を理解する。
5．看護実践を通して成人看護に対する考えを深め、主体的に学習する力を身につける。

科目構成



※　老年看護学にも記載

科　　目　　名　成人看護学概論

単　位（時間数）　１単位（30時間）

履　修　年　次　１年次　後期

講　義　の　概　要　成人看護の目的・成人看護の機能と役割を学び、成人期にある対象を生活者、成長・発達およびさまざまな健康状態の側面から理解する。成人期において発達課題を達成しつつある対象を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、成人の特性を学ぶ。成人は自律した存在であることからセルフケア能力を向上させる関わりと成人への基本的アプローチと看護に必要な概念を学び、倫理的配慮と看護の役割について考える。

また成人の生活と健康の動向を学び、成人期における健康の保持・増進及び疾病の予防の重要性を理解する。健康にかかわる政策や制度について生活と健康を守りはぐくむシステムについて理解すると共に生活と社会という広い視座から成人看護学の基盤を学ぶ。成人期にある対象を健康生活の急激な破綻から回復を促す看護、健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護、障害を持ちながらの生活とリハビリテーションを支える看護、人生の最期のときを支える看護を必要とする対象の看護の特徴を学ぶ。

目　　標
１．成人看護の目的・看護の機能と役割を理解する。
２．成人期にある対象への倫理的判断について理解する。
３．成人期にある対象の健康を生活の視点から多面的に理解する。
４．成人期における健康を支えるシステムを理解する。
５．成人期にある対象を援助する時の基本的アプローチについて理解する。
６．成人のさまざまな健康状態に応じた看護の特徴を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 2	1．成人看護の目的・看護の機能と役割	1）成人看護学の概念と構成 （1）成人看護の目的 2）成人看護学の対象 （1）成人の発達段階と発達課題 ①エリクソンの発達理論 ②ハヴィガーストの発達課題 （2）ライフステージの中での成人の位置づけと意義 （3）成人各発達段階の特徴（青年期・壮年期・向老期） （4）働いて生活を営むこと （5）家族からとらえる大人 3）成人看護の機能と役割	講義 講義	2 2	
3 ～ 4	2．成人期にある対象の理解	1）成人期にある対象の理解 （1）成人を取り巻く環境と生活 （2）成人の健康の状況 2）生活と健康を守りはぐくむシステム （1）保健・医療・福祉システムの概要 ①健康増進・生活習慣病対策 ②健康日本21（第３次）	講義 講義	2 2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		③健康増進法 ④新健康フロンティア戦略 ⑤がん対策基本法 ⑥特定健康診査と特定保健指導 （2）保健・医療・福祉システムの連携			
5 ～ 6	3．成人看護の機能と役割	1）生活のなかで健康行動を生みはぐくむ援助 （1）おとなの学習（アンドラゴジー） （2）学習に基づく行動形性 2）医療における人間関係 （1）患者と看護師の人間関係構築・発展のプロセス （2）集団における看護アプローチ 3）看護実践における倫理的判断 （1）医療の場における倫理的課題 （2）倫理的判断の基盤となるもの （3）倫理的課題へのアプローチ （4）意思決定支援	講義 講義	2 2	
7 ～ 14	4．成人の健康レベルに対応した看護	1）健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護 （1）ヘルスプロモーションの概念 （2）健康バランスに影響を及ぼす要因 ①ストレスの予防と緩和 （3）生活行動がもたらす健康問題とその予防 （4）地域や労働場における看護活動 2）健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 （1）生命の危機状態にある対象の理解 ①生命の危機状態 ②急激な健康破綻をきたした人の特徴 ・侵襲刺激に対する生体反応 ・急性期の心理的反応 ・健康破綻による危機状況 ③危機にある人々への支援 ・アギュララとメズイックのモデル ・フィンクのモデル 3）健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護 （1）慢性病をもつ対象の理解 ①慢性病の対象が経験する無力感 ②病みの軌跡 （2）慢性疾患との共存を支える看護 ①エンパワメント ②セルフケア ③セルフマネジメント構成要素 ④コンプライアンス	講義 講義 講義 講義	2 2 4 4	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		⑤アドヒアランス ⑥自己効力 ⑦ＱＯＬ （３）社会的支援の獲得 ①患者会・家族会 ②特定疾患治療研究事業 ４）障害をもちながらの生活とリハビリテーションを支える看護 （１）障害とは （２）障害がある人の障害の認識過程 ①障害受容と価値の変換 ②障害受容の段階に応じた援助 ・コーンの危機モデル ③障害の改善と克服への援助 （３）障害を持ちながら生活する人を支援する看護 ①看護の実際 ②多職種連携 ③社会資源の活用	講義	2	
		５）人生の最期のときを支える看護 （１）人生の最期のときにおける医療の現状 ①終末期にある人の療養の場 ②緩和ケア （２）人生の最期のときを過ごしている人の理解 ①キューブラ・ロスのモデル ②全人的苦痛 ③死とともに生きること （３）人生の最期のときを支える看護の役割と機能 ①意思決定支援と看護師の役割 ②生きる意味の探求への援助 ③チームアプローチ ④終末期にある対象の家族の援助 ⑤看護師自身のケア	講義	2	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　小松浩子：系統看護学講座　専門分野　成人看護学［１］成人看護学総論，医学書院, 第 16 版 【電子版】
香春知永：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［４］臨床看護総論，医学書院，第 7 第 16 版 【電子版】
国民衛生の動向，　厚生統計協会

参　考　文　献　安酸史子ら：ナーシング・グラフィカ　成人看護学①成人看護学概論，メディカ出版，第５版，2022
黒江ゆり子：身体系看護学全書　成人看護学①成人看学概論/成人保健，株式会社　メヂカルフレンド社，2018

評　価　方　法　テスト

科　　目　　名　成人看護学方法論Ⅰ（健康の保持・増進、疾病予防に向けた看護）

単　位（時間数）　１単位（15 時間）

履　修　年　次　１年次　後期

講　義　の　概　要　成人の健康生活を維持・促進するための具体的な看護技術を学ぶ。成人期の特徴を踏まえ、成人各期における健康問題や生活習慣病について学ぶ。実践に活かせる理論として「成人教育学」「エンパワメントモデル」「病みの軌跡」を用いて対象に働きかける具体的な方法としてエンパワメントエデュケーションの基本態度と方法を学ぶ。セルフマネジメントを促進する教育支援技術としてセルフマネジメント支援について学習する。

対話を通して対象者の困りごとや気がかりを引き出し、自己効力感を高めるためのアプローチについて学ぶ。

目　　標　１．成人の健康生活を促すための看護を理解する。
２．セルフマネジメントを促進する看護アプローチを理解する。
３．エンパワメント・自己効力を引き出すためのアプローチを理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 7	1．健康の保持・増進・疾病の予防に向けた看護	1）健康の保持、増進、疾病の予防に向けた看護 （1）成人の健康を支援する看護 ・コンプライアンス ・アドヒアランス	講義	2	
		（2）成人期にある対象の健康問題 1）成人各期の健康問題 2）生活習慣病と健康障害 ①肥満②メタボリックシンドローム③脂質異常症④依存症 3）行動変容を促進させる看護	講義	2	
		（3）外来看護の機能と看護の役割 ・健康の保持、増進、疾病の予防に向けた支援。 ・生活を把握するための情報収集 ・集団へのアプローチ。	講義	2	外来講師
		2）セルフケア支援 （1）教育支援 （2）教育支援のプロセス （3）教育支援のアセスメント	講義 演習	2	
		3）教育支援方法 （1）教育支援内容 （2）教育支援方法	演習	4	
		4）エンパワメントエデュケーション （1）基本態度（傾聴・共感） （2）自己効力を引き出す工夫	講義	2	
8		テスト　レポート		1	

テ　キ　ス　ト　小松浩子：系統看護学講座 専門分野　成人看護学［1］成人看護学総論，医学書院，第 16 版 【電子版】
香春知永：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［4］臨床看護総論，医学書院，第 7 第 16 版 【電子版】

参　考　文　献	安酸史子　鈴木純恵　吉田澄江：ナーシング・グラフィカ　成人看護学①成人看護学概論，メディカ出版，2022 安酸史子　鈴木純恵　吉田澄江：ナーシング・グラフィカ　成人看護学③セルフマネジメント，メディカ出版，2022 松本千明：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　生活習慣を中心に，医歯薬出版株式会社，第１版，2019 宮脇郁子：看護実践のための根拠がわかる　成人看護学技術　慢性看護　メヂカルフレンド社、2015.11.25　第２版 安酸史子：糖尿病患者のセルフマネジメント教育　エンパワメントと自己効力　メディカ出版、20210.2.15　第２版
評　価　方　法	テスト　レポート

科　　目　　名　成人看護学方法論Ⅱ（慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象の看護）

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　２年次　前期

講　義　の　概　要　ライフサイクルにおける成人期の特徴を踏まえ、疾病コントロールを必要とする対象のセルフケア行動形成への支援について理解すると共に、生命と生活を維持している機能に障害をもつ対象の特徴を理解し、機能障害に応じた看護の役割と援助方法について学ぶ。
成人の健康状態に応じた看護の特徴を踏まえ、慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象の事例を通し看護過程の展開方法を学ぶ。

目　　標　１．疾病コントロールを必要とする対象を理解する。
２．生活の自己コントロールに向けた看護の役割と方法を理解する。
３．疾病コントロールに向けての看護技術を習得する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．栄養摂取・消化機能障害のある対象の看護	1）栄養摂取・消化と機能障害のある対象の理解と看護の役割 （1）身体的・精神・社会的特徴 2）栄養摂取・消化機能障害が生活へ与える影響と看護 （1）腹痛 （2）吐血 3）検査・治療・処置を受ける対象の看護 4）代表的な疾患をもつ対象の看護 （1）胃潰瘍	講義	2	
2 ～ 4	2．代謝機能障害のある対象の看護	1）代謝機能障害のある対象の理解と看護の役割 （1）身体的・精神的・社会的特徴 2）代謝機能障害が生活へ与える影響と看護 （1）低血糖昏睡 （2）ケトアシドーシス 3）検査・治療・処置を受ける対象の看護 （1）ブドウ糖負荷試験 （2）インスリン療法 4）代表的な疾患を持つ対象の看護 （1）糖尿病 ①生活と自己管理の調整（セルフモニタリング、心理的葛藤への対応） 5）血糖測定に関連した看護技術 （1）血糖測定に関連した技術 （2）血糖自己測定実施の援助	講義 講義 演習	4 2	
5 ～ 10	3．慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対	1）慢性疾患のある対象の看護 （1）身体的・精神的・社会的特徴 ①疾患の看護に必要な基礎知識	演習	12	看護過程

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
	象の看護	②健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする対象に特徴なアセスメントの視点 2）看護過程の展開の実際 （看護過程一連の展開）			
11 ～ 12	4．腎機能障害のある対象の看護	1）腎機能障害の把握と看護 （1）身体的・精神的・社会的特徴 2）腎機能障害が生活へ与える影響と看護 （1）浮腫 （2）尿毒症 3）検査・治療・処置を受ける対象の看護 （1）透析療法 （2）腎移植術 4）代表的な疾患をもつ対象の看護 （1）腎不全	講義	4	
13	5．生体防御機能障害のある対象の看護	1）免疫機能障害のある対象の看護 （1）身体的・精神的・社会的特徴 2）免疫機能障害が生活へ与える影響と看護 （1）皮膚・粘膜症状 （2）レイノー現象 3）検査・治療・処置を受ける対象の看護 （1）腎生検 4）代表的な疾患をもつ対象の看護 （1）全身性エリテマトーデス（ＳＬＥ）	講義	2	
14	6．内分泌機能障害のある対象の看護	1）内分泌機能障害のある対象の理解と看護の役割 （1）身体的・精神的・社会的特徴 2）内分泌機能障害が生活へ与える影響と看護 （1）甲状腺クリーゼ （2）神経・筋症状（テタニー） 3）検査・治療・処置を受ける対象の看護 （1）ホルモン補充療法・抗ホルモン療法の生活指導 （2）ホルモンバランス失調状態の生活指導 4）代表的な疾患をもつ対象の看護 （1）甲状腺機能亢進症（バセドウ病）	講義	2	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　　小松浩子：系統看護学講座　専門分野　成人看護学［1］成人看護学総論，医学書院，第16版 【電子版】
南川雅子：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［5］消化器，医学書院，第16版 【電子版】
吉岡成人：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［6］内分泌・代謝，

医学書院，第 16 版 【電子版】
大東貴志：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［８］腎・泌尿器，医学書院，第 16 版 【電子版】
岩田健太郎：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［11］アレルギー 膠原病 感染症，医学書院，第 16 版 【電子版】
任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［３］基礎看護技術Ⅱ，医学書院，第 19 第 16 版 【電子版】

参　考　文　献　林正健二：ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑥ 内部環境調節障害・性生殖機能障害，メディカ出版
宮脇郁子 簇持知恵子：看護実践のための 根拠がわかる 成人看護技術 慢性看護，メヂカルフレンド社
竹尾恵子：看護技術プラクティス〔第４版動画付き〕学研メディカル秀潤社，第４版，2021

評　価　方　法　テスト レポート

科　　目　　名　成人看護学方法論Ⅲ(障害のある状態とリハビリテーションを行う対象への看護)

単　位（時間数）　１単位（30時間）

履　修　年　次　２年次　前期

講　義　の　概　要　ライフサイクルにおける成人期の特徴を踏まえ、生活行動制限のある対象のセルフケア再獲得に向け、ボディイメージの変化や障害をもちながら生活する対象の特徴を知り、必要な援助方法と看護の役割について学ぶ。さらに、生命と生活を維持している機能に障害をもつ対象の特徴を理解し、機能障害に応じた看護の役割と援助方法について学ぶ。

目　　標　１．生活行動に制限のある対象の特徴を理解する。
２．ボディイメージの変化を伴う対象を理解する。
３．ボディイメージの変化や障害をもちながら生活する対象の特徴を知り看護の役割と方法を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．循環機能障害のある対象の看護	1）循環機能障害のある対象の理解と看護の役割 （1）身体的・精神・社会的特徴 2）循環機能障害が生活へ与える影響と看護 （1）心不全 3）検査・治療・処置を受ける対象の看護 （1）心血管造影検査 （2）薬物療法 （3）経皮的冠動脈形成術への援助 4）代表的な疾患をもつ対象の看護 （1）心筋梗塞 5）臨床判断能力 （1）胸部症状のある対象への看護の実際	講義 講義 演習	4 2	
4 ～ 6	2．呼吸機能障害のある対象の看護	1）呼吸機能障害のある対象の理解と看護の役割 （1）身体的・精神・社会的特徴 2）呼吸機能障害が生活へ与える影響と看護 （1）症状に対する看護 ①咳嗽・喀痰 ②血痰・喀血 ③胸痛 ④呼吸困難 3）代表的な疾患をもつ対象の看護 （1）肺がん （2）自然気胸 4）呼吸理学療法の実際 （1）呼吸筋・胸郭のリラクゼーション・ストレッチ	講義 講義 演習	2 4	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		（2）体位ドレナージ （3）スクイージング （4）排痰法			
7 ～ 8	3．脳・神経機能障害のある対象の看護	1）脳・神経機能障害のある対象の理解と看護の役割 （1）身体的・精神・社会的特徴 2）脳・神経機能障害が生活へ与える影響と看護 （1）頭蓋内圧亢進症状 （2）運動麻痺 （3）意識障害 3）検査・治療・処置を受ける対象の看護 （1）頭部ＣＴ検査、ＭＲＩ検査 4）代表的な疾患をもつ対象の看護 （1）クモ膜下出血 （2）脳梗塞	講義	4	
9	4．運動機能障害のある対象の看護	1）運動機能障害のある対象の理解と看護の役割 （1）身体的・精神・社会的特徴 2）運動機能障害が生活へ与える影響の把握と看護 （1）神経障害 （2）形態の異常 3）代表的な疾患をもつ対象の看護 （1）関節リウマチ	講義	2	
10	5．感覚機能障害のある対象の看護	1）感覚機能障害のある対象への理解と看護の役割 （1）身体的・精神・社会的特徴 2）感覚機能障害が生活へ与える影響の把握と看護 3）代表的な疾患をもつ対象の看護 （1）喉頭癌 ①永久気管孔のある患者の理解と看護	講義	2	
11 ～ 14	6．排泄機能障害のある対象の看護	1）排泄機能障害のある対象の理解と看護の役割 （1）身体的・精神・社会的特徴 2）検査・治療・処置を受ける対象の看護 （1）排尿機能の検査に伴う看護 ①膀胱鏡検査時の援助 （2）排尿機能障害のある対象の看護 ①間欠的自己導尿法の指導 ②腹圧性尿失禁の運動訓練と生活 （3）排便機能の検査に伴う看護 ①大腸内視鏡検査時の援助 ②直腸診時の援助 3）尿路変更術を受ける対象の看護 （1）膀胱留置カテーテル挿入の実際	講義 演習	2 2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		４）排便機能障害のある対象の看護 （1）ストーマ造設術を受ける対象の看護	講義 演習	4	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　　川村雅文：系統看護学講座　専門分野　成人看護学［２］呼吸器，医学書院，第 16 版 【電子版】
吉田俊子：系統看護学講座　専門分野　　成人看護学［３］循環器，医学書院，第 16 版 【電子版】
井出隆文：系統看護学講座　専門分野　　成人看護学［７］脳・神経，医学書院，第 16 版 【電子版】
田中栄：系統看護学講座　専門分野　成人看護学［10］運動器，医学書院，第 16 版 【電子版】
大東貴志：系統看護学講座　専門分野　成人看護学［８］腎・泌尿器，医学書院，第 16 版 【電子版】
南川雅子：系統看護学講座　専門分野　成人看護学［５］消化器，医学書院，第 16 版 【電子版】
小松浩子：系統看護学講座　専門分野　成人看護学［14］耳鼻咽喉，医学書院，第 15 第 16 版 【電子版】
任和子：系統看護学講座　専門分野　　基礎看護学［３］基礎看護技術Ⅱ，医学書院，第 19 第 16 版 【電子版】

参　考　文　献　　竹尾恵子：看護技術プラクティス〔第４版動画付き〕学研メディカル秀潤社，第４版，電子版，2020
山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック　目と耳でここまでわかる，医学書院，第２版，2017

評　価　方　法　　テスト

科　　目　　名　成人看護学方法論Ⅳ（周手術期の看護）

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　２年次　前期～後期

講　義　の　概　要　健康の急激な破綻から回復の状態にある対象の周手術期とその状況に応じた看護の特徴、術後合併症予防に必要な周手術期の看護技術を学ぶ。

治療に伴う不快症状のコントロールとして急性疼痛が及ぼす身体への影響を理解し、術後合併症予防や薬理学的方法による鎮痛ケアや疼痛の影響要因をコントロールする看護技術を学ぶ。

目　　標　１．周手術期の看護について理解する。
２．急性期・周手術期の代表的な看護技術を習得する。
３．手術方法による影響と看護を理解する。
４．手術療法を受ける対象の症状緩和と看護の役割について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．周手術期看護の概論	1）周手術期にある対象の特徴 （1）身体的・精神的・社会的特徴 （2）手術侵襲に対する生体反応と回復過程 （3）周手術期における今日の課題と看護の役割	講義	2	
2 ～ 7	2．周手術期に応じた看護	1）手術前患者の看護 （1）意思決定支援 （2）術前のアセスメント ①呼吸機能検査 （3）合併症予防・全身状態を整える看護 ①呼吸訓練 （4）前日・当日の援助 （5）日帰り手術を受ける対象の看護	講義 演習	2	
		2）手術中患者の看護 （1）手術室の環境管理 （2）麻酔導入時の看護 （3）手術中の看護 ①器械出し看護師と外回り看護師の役割 ②手術体位と合併症 （4）手術終了時の看護 ①麻酔覚醒時の援助	講義	2	
		3）手術後患者の看護 （1）術後のモニタリング （2）クリティカルケア （3）術後合併症の発生機序	講義	2	
		4）周手術期の看護計画 （1）術後合併症の予防と発生時の対応と回復に向けた援助	講義	2	
		5）周手術期の看護技術 （1）弾性ストッキング	演習	4	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		（2）ドレーン類の挿入部の処置			
8 ～ 10	3．手術方法による影響と看護	1）胸部の手術を受ける対象の看護 （1）身体的・精神的・社会的特徴 （2）開胸手術（後側方切開・胸骨正中切開）を受ける対象の看護 （3）胸腔ドレナージの管理 2）腹部の手術を受ける対象の看護 （1）身体的・精神的・社会的特徴 （2）開腹術・腹腔鏡下手術をうける対象の看護 （3）腹部のドレーン管理 3）整形外科の手術を受ける対象の看護 （1）身体的・精神的・社会的特徴 （2）術後の管理 ①体位変換（ログロール法） ②下肢静脈血栓・肺塞栓予防 ③ドレーン管理 ④コルセット	講義 講義 講義	2 2 2	
11 ～ 14	4．周手術期看護の実践	1）術後看護の実践 （1）術後合併症 （2）疼痛コントロール 2）ME機器についての基礎知識 3）ME機器の実際 （1）心電図モニター （2）人工呼吸器 （3）輸液ポンプの基本的操作 （4）シリンジポンプの基本的操作	演習 講義 演習	4 4	シミュレーション
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　矢永勝彦ら：系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院，第12第16版 【電子版】
任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ，医学書院，第19第16版 【電子版】
小松浩子：系統看護学講座　専門分野　成人看護学［1］成人看護学総論，医学書院，第16版 【電子版】
香春知永：系統看護学講座　専門分野　　基礎看護学［4］臨床看護総論，医学書院，第7第16版 【電子版】
北側雄光ら：系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　医学書院，第10第16版 【電子版】
竹内登美子：講義から実習へ　高齢者と成人の周手術期看護2　術中/術後の生体反応と急性期看護，　医歯薬出版株式会社，第3版，2020
奈良信雄　和田隆志：系統看護学講座　別巻　臨床検査，医学書院，第9第16版 【電子版】

参　考　文　献　竹尾恵子：看護技術プラクティス〔第4版動画付き〕学研メディカル秀潤社，第4版，電子版，2020

評　価　方　法　テスト レポート

科　　目　　名　成人看護学方法論Ⅴ（がん治療を必要とする対象の看護）

単　位（時間数）　１単位（15 時間）

履　修　年　次　２年次　前期～後期

講　義　の　概　要　がん治療で特徴的となる、治療完遂、患者の主体的な治療参加・治療継続のための管理、がんリハビリテーションの支援、チームアプローチの調整における看護の役割とその重要性について学ぶ。
がん治療の三本柱となる手術療法・薬物療法・放射線療法の治療と症状の管理や合併症予防、セルフケア支援、症状マネジメントや緩和ケア多職種連携などがん看護について学ぶ。

目　　標　１．がん看護の特徴を理解する。
２．侵襲的な治療を受ける対象の特徴と看護の役割について理解する。
３．治療を受ける対象のセルフケア支援の技術を習得する。
４．緩和ケアを受ける対象の症状緩和と看護の役割について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．がん治療を必要とする対象の看護	1）がん治療を必要とする対象の理解と看護の役割 （1）がんの治療と臨床経過 （2）身体的・心理的・社会的特徴 ①全人的苦痛 2）がん薬物療法を受ける対象の看護 （1）がん薬物療法がもたらす日常生活機能への影響 （2）心理的・社会的サポート （3）家族への支援 （4）外来におけるがん患者への看護 3）放射線療法を受ける対象の看護 （1）放射線療法に対する準備教育 （2）効果的な治療を行うためのケア （3）治療継続と生活調整の支援 （4）放射線療法を受ける対象と家族への看護の実際	講義 講義 講義	2 2 2	
4 ～ 7	2．がん治療・処置を受けている対象の看護	1）血液造血機能障害のある対象への看護 （1）身体的・心理的・社会的特徴 （2）血液造血機能障害が生活へ与える影響と看護 （3）検査・治療・処置を受ける対象の看護 ①造血幹細胞移植を受ける対象の看護 （4）代表的な疾患をもつ対象の看護 ①悪性リンパ腫 ・セルフモニタリングの促進 ・治療継続のための管理 ・心理的・社会的サポート	講義	2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		2）性・生殖機能障害をもつ対象の看護 （1）身体的・心理的・社会的特徴 （2）性・生殖機能障害が生活へ与える影響と看護 （3）代表的な疾患をもつ対象の看護 ①乳がん患者の看護	講義	2	
		3）人生最期のときを過ごす対象の看護 （1）栄養・代謝機能障害のある対象の看護 ①肝不全（肝臓がん末期） （退院への移行期） （2）がん性疼痛を抱える対象の疼痛マネジメントの実際と緩和ケア ①がん性疼痛管理 （緩和ケア・オピオイド） （3）家族の悲嘆のケア 4）療養の場の移行支援の具体的方法 （1）多職種連携	講義	4	
8		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　小松浩子：系統看護学講座　別巻　がん看護学，医学書院，第3第16版【電子版】
香春知永：系統看護学講座 専門分野　基礎看護学［4］臨床看護総論，医学書院，第7第16版【電子版】
小松浩子：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［1］成人看護学総論，医学書院，第16版【電子版】
飯野京子：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［4］血液・造血器，医学書院，第16版【電子版】
末岡浩：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［9］女性生殖器，医学書院，第16版【電子版】
南川雅子：系統看護学講座 専門分野 成人看護学［5］消化器，医学書院，第16版【電子版】
池上徹　高橋則子：系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院，第12第16版【電子版】

評　価　方　法　テスト

老年看護学

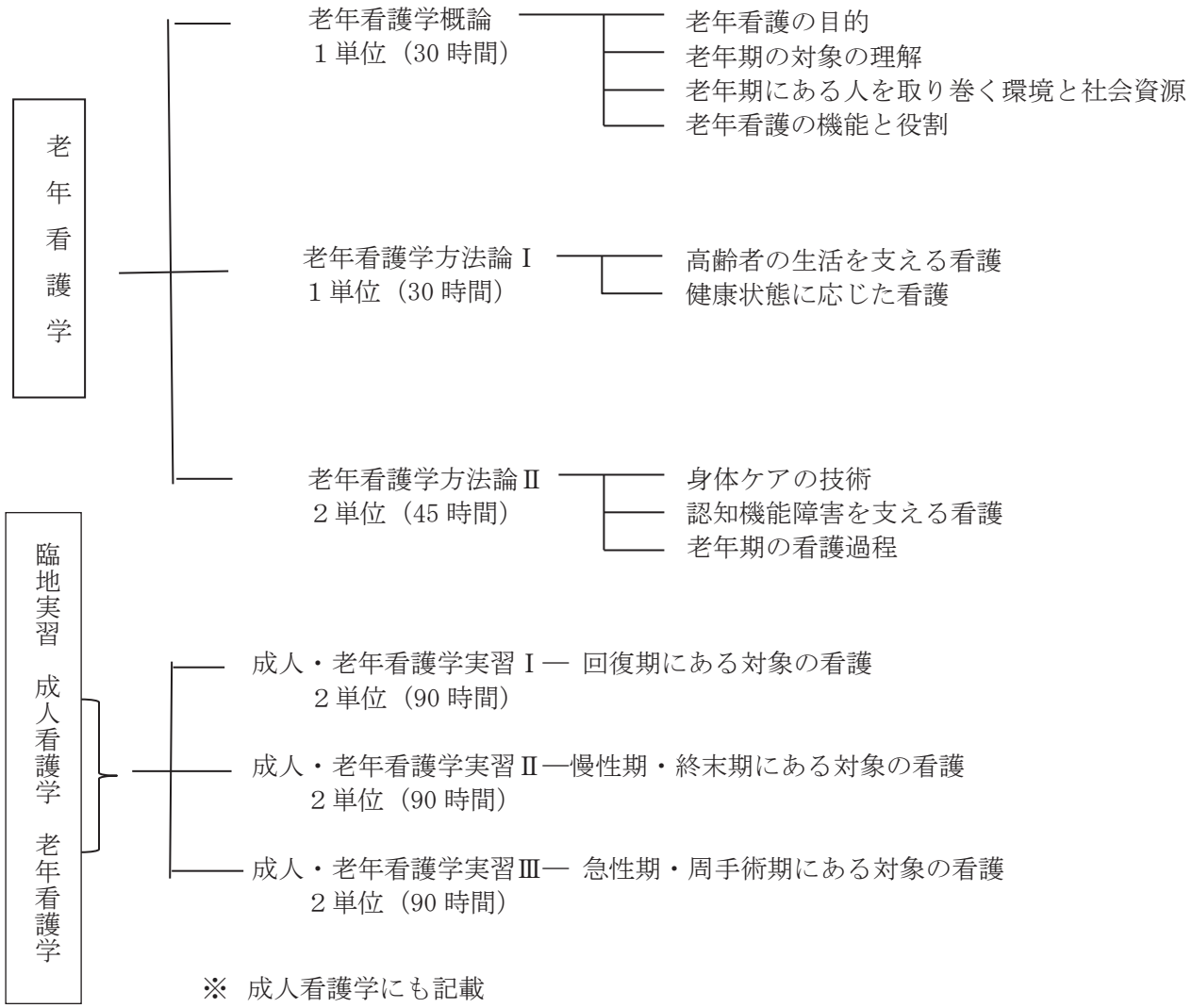
目　的

老年期にある対象とその環境を理解し、健康状態・生活機能に応じた看護を実践する基本的能力を養う。

目　標

1．老年期にある対象の尊厳を保持し、人間関係を形成する能力を身につける。
2．高齢者を、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する。
3．高齢者の健康状態・生活機能を理解し、根拠に基づいた看護を実践する能力を身につける。
4．高齢者の生活を支える保健医療福祉システムと多職種との連携を認識し、対象の状態に合わせた看護の役割を理解する。
5．看護への探究心を持ち、専門職業人として主体的に学習する能力を身につける。

科目構成



※ 成人看護学にも記載

科　　目　　名　老年看護学概論

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　１年次　後期

講　義　の　概　要　老年期の発達段階の特徴と高齢者を取り巻く環境について学び、加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面から高齢者への理解を深める。また、高齢者への支援や社会資源について学び、老年看護の目的や役割について理解する。

目　　標　１．高齢者を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する。
２．高齢者の健康生活とＱＯＬについて理解する。
３．高齢者の生活を支える保健医療福祉システムについて理解する。
４．高齢者の権利擁護と倫理について理解する。
５．老年看護の課題と役割を学び看護観を養う。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 2	1．老年看護とは	1）老年看護の目的 （1）老年看護のなりたち （2）老年看護の変遷 （3）老年看護の役割 （4）老年看護の特徴 ①エンパワメントの定義 ②ＩＣＦのモデル ③エンドオブライフケア ④多職種連携 ⑤リロケーションダメージの回避 2）老年看護における理論の活用 （1）老年看護に役立つ理論・概念 ①サクセスフルエイジング ②セルフケア理論 ③ストレングスモデル （2）老年期の発達課題 ①エリクソンによる発達課題 ②ハヴィガースト、ペック	講義	2 2	
3 ～ 7	2．老年期の対象の理解	1）老年期の対象の特徴 （1）加齢に伴う身体・精神・社会的役割の変化 ①恒常性を土台とした４つの力の変化 ②疾病をめぐる特徴 ③流動性知能と結晶性知能 ④スピリチュアリティ （2）ライフステージ （3）老年期の発達段階 （4）家族 （5）セクシャリティ 2）老年期の健康 （1）高齢者の健康 （2）身体の加齢変化と健康	講義 演習	2 4	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		①皮膚とその付属器 ②視聴覚とそのほかの感覚 ③循環系・呼吸器系・消化器系 ④ホルモン・泌尿生殖器・運動系 （3）発達段階 3）加齢に伴う身体的変化を体験 （1）高齢者擬似体験 （2）日常生活の相互作用の理解と実践	演習	4	
8 ～ 10	3．老年期にある人を取り巻く環境と社会資源	1）高齢者を取り巻く現状 （1）超高齢社会の現況 （2）高齢者の暮らし （3）高齢者と家族 （4）社会参加 2）高齢社会における保健医療福祉の動向 （1）保健医療福祉制度の変遷 （2）介護保険制度の整備 （3）多職種連携と看護活動の多様性 3）保健医療福祉施設および居住施設における看護 （1）介護保健施設 （2）地域密着型サービス	講義 講義 講義	2 2 2	
11 ～ 14	4．老年看護の機能と役割	1）看護倫理 （1）高齢者虐待 ①高齢者虐待防止法と高齢者虐待の定義 ②高齢者虐待の実態と特徴 ③虐待の発生要因と予防に向けた支援 （2）身体拘束 （3）権利擁護のための制度 ①身体拘束の定義と身体拘束を禁止する規定 ②身体拘束の例外３原則 （4）権利擁護のための制度 ①成年後見制度 2）老年看護の機能と役割・責務 （1）高齢者のための国連原則 ①自立・参加・ケア・自己実現・尊厳 3）エンドオブライフケア （1）エンドオブライフケアの概念 （2）意思決定への支援 （3）アドバンスケアプランニング 4）高齢者のリスクマネジメント （1）高齢者と医療安全 （2）救命救急・災害 （3）医療事故と対応の実際	講義 講義 講義	4 2 2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　北川公子：系統看護学講座 専門分野 老年看護学，医学書院，第９版【電子版】

参　考　文　献　亀井智子：新体系看護学全書 老年看護学 老年看護学概論・老年保健 メヂカルフレンド社，第５版，2020 年
堀内ふきら：ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者の健康と障害，メディカ出版，第７版，2023 年

評　価　方　法　テスト・レポート

科　　目　　名　老年看護学方法論Ⅰ（生活を支える支援）

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　２年次　前期

講　義　の　概　要　加齢による変化や、高齢者に特徴的な疾患や症状が、生活に及ぼす影響を捉え、QOL の維持・向上へ向けた援助について学ぶ。

目　　標　１．高齢者との関係性を形成するコミュニケーションを理解する。
２．高齢者の生活機能に視点をおき、QOL の維持・向上に向けた援助を理解する。
３．高齢者に特徴的な健康状態の看護を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 11	1．高齢者の生活を支える看護	1）コミュニケーションのアセスメントと看護 （1）関係確立、関係発展、関係終結の段階 （2）高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法 ①難聴・視力障害 ②失語症・構音障害 （3）コミュニケーション障害のアセスメントと看護	講義	2	
		2）日常生活を支える看護 （1）生活の基本となる日常生活動作 （2）FIM	講義 演習	4	
		（3）転倒 （4）廃用症候群のアセスメントと看護	講義	2	
		3）生活リズムのアセスメントと看護 （1）睡眠と覚醒の変化 （2）生活行動の変化とその影響 （3）生活リズムのアセスメント （4）生活リズムを整える看護	講義	2	
		4）健康支援とアクティビティケア （1）高齢者の健康状態に応じたアクティビティケア （2）余暇活動	講義 演習	4	
		5）食事を支える看護 （1）高齢者における食生活の意義 （2）高齢者に特徴的な変調 ①加齢に伴う摂食嚥下機能の変化 ②疾患による摂食嚥下機能障害 （3）低栄養		2	
		6）食生活の再構築に向けた援助 （1）経鼻経管栄養	講義	2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		（2）胃瘻 7）排泄を支える看護 （1）排尿障害のアセスメント ①尿失禁の分類とケア （2）排便障害のアセスメント ①便秘の種類 8）清潔を支える看護 （1）清潔の援助 （2）セクシュアリティ	講義 講義	2 2	
12 ～ 14	2．健康状態に応じた看護	1）急激な破綻から回復の状態 （1）大腿骨近位部骨折 （2）退院調整・支援 2）慢性的な揺らぎの調整を必要とする状態 （1）慢性心不全 （2）COPD 3）人生最期のとき （1）パーキンソン病 （2）誤嚥性肺炎	講義 講義 講義	2 2 2	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　北川公子：系統看護学講座 専門分野 老年看護学，医学書院，第９版【電子版】

参　考　文　献　堀内ふきら：ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践，メディカ出版，第6版，2023年

亀井智子：新体系看護学全書 老年看護学② 健康障害を持つ高齢者の看護，　メヂカルフレンド社，第5版，2020年

評　価　方　法　テスト

科　　目　　名　老年看護学方法論Ⅱ（老年看護に必要な看護技術）

単　位（時間数）　２単位（45 時間）

履　修　年　次　２年次　前期～後期

講　義　の　概　要　健康障害を持つ高齢者の身体ケア技術を生活機能に合わせ、習得する。認知機能の障害に対する看護について学び、対象とその家族への支援を通して高齢者の尊厳について理解を深める。また、看護過程・臨床判断能力、多職種連携カンファレンスなどの演習を通して実践へ向けた援助方法を学ぶ。

目　　標　１．高齢者のＡＤＬに合わせた援助を理解する。
２．認知機能の障害に対する看護を理解する。
３．健康障害のある高齢者の看護過程、臨床判断について理解する。
４．多職種連携の中の看護の役割について理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 9	1.身体ケアの技術	1）基本動作の実際 （1）関節可動域・筋力強化訓練 （2）MMTの実際 2）食事介助 （1）摂食嚥下訓練 （2）サルコペニアのアセスメント 3）経鼻経管栄養 （1）経鼻経管栄養の管理 （2）経鼻経管チューブの挿入 4）口腔ケア （1）誤嚥性肺炎の予防 （2）口腔内の観察 5）口腔内の環境 （1）義歯の取り扱い 6）褥瘡ケア （1）スキンテア （2）皮膚障害の予防	演習 演習 演習 演習 演習 講義 演習	4 4 4 2 2 2	
10 ～ 13	2．認知機能障害を支える看護	1）認知機能障害を持つ人への看護 （1）うつ （2）せん妄 2）認知症とは （1）認知機能障害（中核症状） （2）認知症の行動・心理症状 （3）病態・診断・治療・予防 3）認知機能および生活機能の評価 4）認知症の看護 （1）パーソンセンタードケア （2）ユマニチュード 5）認知症の行動・心理症状への対応 （1）認知症の行動・心理症状のアセスメント （2）徘徊への対応、幻覚・妄想への対応	講義 講義	2 2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		（3）認知症高齢者を持つ家族への支援 6）認知症高齢者の援助の実際 （1）行動療法 （2）認知症高齢者とのコミュニケーション方法 （3）倫理的側面への配慮	講義 演習	4	医療現場における認知症高齢者への援助の実際
14		テスト		1	
15 ～ 23	3．老年期の看護過程	1）健康障害をもつ高齢者の看護過程 （1）老年看護過程の基本 ①生活行動モデルによる看護過程 ②目標志向型思考の考え方 （2）脳血管障害の疾患と看護・事例の展開 2）臨床判断能力 （1）高齢者の異常を見逃さないアセスメント （2）シミュレーション 3）多職種連携（退院支援） （1）多職種カンファレンス	講義 演習 演習	14 4	看護過程個人ワーク・グループワーク 発表・レポート作成

テ　キ　ス　ト　北川公子：系統看護学講座 専門分野 老年看護学，医学書院，第9版【電子版】
山田律子ら：生活機能から見た老年看護過程+病態・生活機能関連図，医学書院，第4版【電子版】

参　考　文　献　亀井智子：新体系看護学全書 老年看護学 健康障害をもつ高齢者の看護，メジカルフレンド社
奥宮暁子 川揚子 島輝美 田かおり：生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程，医歯薬出版

評　価　方　法　テスト　レポート

小児看護学

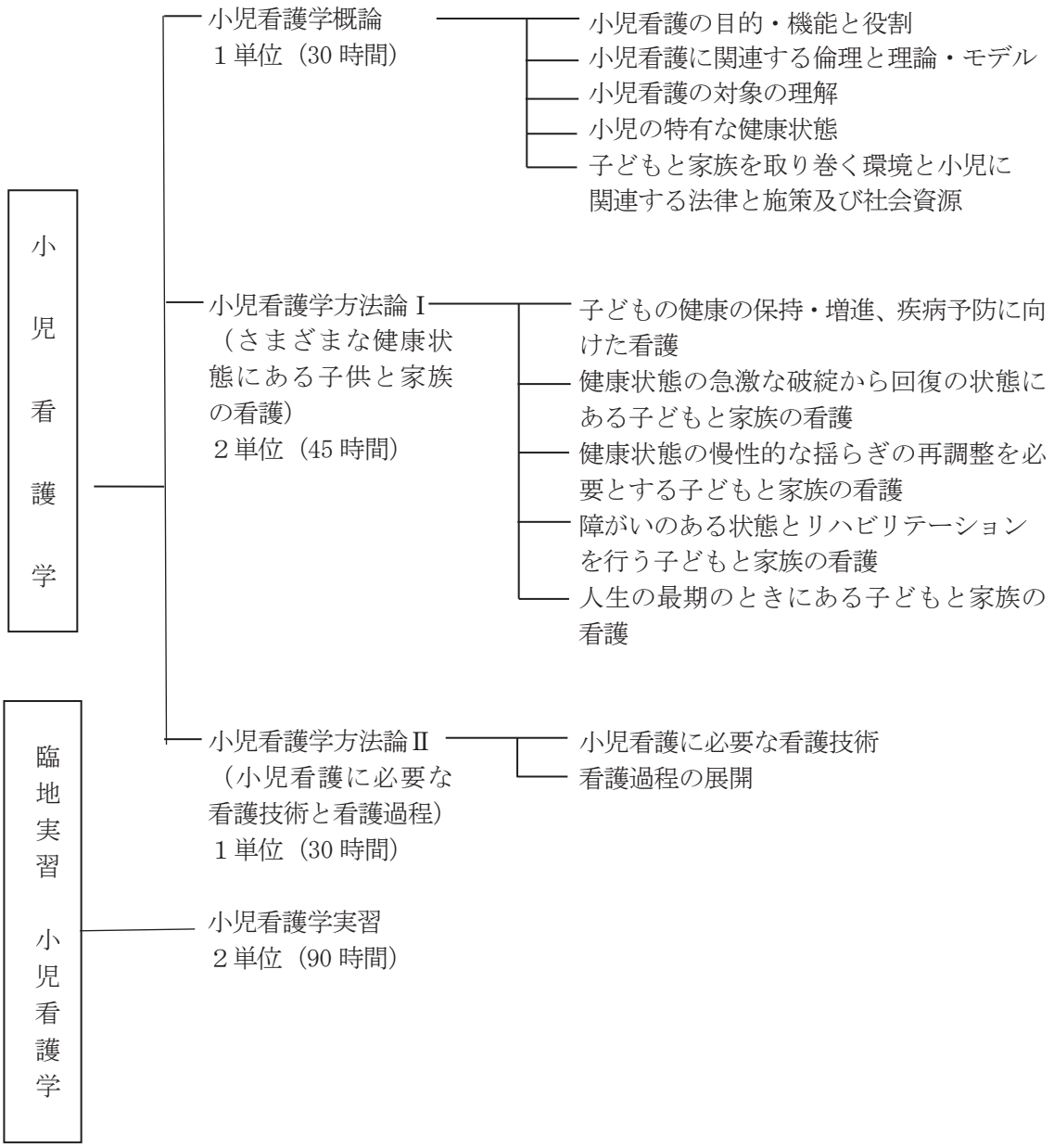
目　的

小児看護の対象である子どもの特徴を理解し、さまざまな健康状態にある子どもとその家族に対して、看護を実践するために必要な知識・技術・態度を養う。

目　標

1．子どもの権利を擁護し、子どもと家族の最善の利益を守ることができる倫理観を養う。
2．成長・発達し続けている子どもの特徴をとらえ、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を養う。
3．子どもと家族の健康上の課題に対応するために、科学的根拠に基づいた看護を実践する基礎的能力を養う。
4．保健医療福祉および教育機関における小児看護師の役割を認識し、チームの一員として多職種と協働できる基礎的能力を養う。
5．小児看護への探求心をもち専門職業人として学習し続ける能力を養う。

科目構成



科　　目　　名　小児看護学概論

単位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　１年次　後期

授業の概要　さまざまな場での小児看護の目的、役割と機能を学び、子ども観及び小児看護の歴史を振り返り、小児保健医療の動向や今後の課題について学ぶ。小児看護では、子どもと家族をひとつの単位として援助対象である。そのうえで、子どもの特性の理解として、成長・発達の原則、発達理論、形態的・機能的成長・発達、心理社会的発達、小児の栄養、発育・発達の評価について学ぶ。また、子どもの権利を尊重し、子どもと家族の最善の利益を守るための小児看護における倫理について学ぶ。

子どもを取り巻く環境では、家族・社会および自然環境を含めた広い視野で対象を理解するために、現代家族の現状について学ぶ内容としている。また、統計資料から小児の出生・死亡・疾病構造の変化と関連づけながら、子どもの健康を守るための関連する法律や施策について学ぶ。

目　　標
１．小児看護の目的と歴史について理解できる。
２．小児看護の機能と役割について理解できる。
３．子どもの権利を守る条約や関連する倫理と理論モデルを理解できる。
４．子どもの特徴と成長、発達の特徴および基本的生活習慣の獲得について理解できる。
５．小児に特有なさまざまな健康状態について理解できる。
６．主な統計、関連データをもとに子どもと家族を取り巻く環境について理解できる。
７．子どもと家族を支える法律・施策について理解できる。

授　業　内　容

回	単　元	学習内容	授業形態	時間	備考
1	１．小児看護の目的・機能と役割	１）小児看護の対象 （1）子どもとは （2）子どもと家族 ①家族とは ②家族の機能と役割 ③家族の発達と発達課題 ２）小児看護の目的 （1）小児看護の目的 （2）小児看護の変遷 ３）小児看護の機能と役割 （1）小児看護の役割 （2）様々な場における小児看護の機能と役割	講義	2	
2～3	２．小児看護に関連する倫理と理論・モデル	１）子どもの権利条約・児童憲章 ２）医療における子どもの権利 （1）看護者の倫理綱領 （2）病院における子どもの看護 （3）子どもの意思決定 ①権利擁護（アドボカシー） ②インフォームド・アセント （4）小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針	講義	4	

回	単　元	学習内容	授業形態	時間	備考
		3）子どもと家族を理解するための理論・モデル （1）ボウルビィの愛着理論 （2）ピアジェの認知発達理論 （3）エリクソンの自我発達理論			
4 ～ 11	3．小児看護の対象の理解	1）小児看護の対象の理解 （1）子どもの特徴 2）成長・発達に影響する因子 （1）遺伝的因子 （2）環境因子 3）子どもの成長・発達の概念 （1）成長・発達の区分・原則 （2）成長・発達の評価 4）小児の成長発達の特徴 （1）形態・機能的特徴 （2）心理・社会的成長・発達 （3）社会性の発達 （4）基本的生活習慣の獲得 5）健康な子どもの対象理解 （1）保育所（園）見学・体験の実際 ①乳幼児期の身体的成長・発達の特徴 ②乳幼児期の遊び・保育活動 （2）乳幼児期の成長・発達の自立に向けた日常生活援助の見学 （3）施設の環境・安全管理 6）保育所(園)見学のまとめ	講義 講義 演習 演習	2 8 4 2	人間関係論、生涯発達心理学と関連 保育所（園）の　見学・体験
12	4．小児の特有な健康状態	1）小児の健康状態の特徴 （1）健康状態の急激な破綻から回復にあるこどもと家族の特徴 （2）健康状態の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態こどもと家族の特徴 （3）障害がいのある状態とリハビリテーションを行う状態時子どもと家族の特徴 （4）人生の最期のときにあるにある子どもと家族の特徴	講義	2	
13 ～ 14	5．子どもと家族を取り巻く環境と小児に関連する法律と施策及び社会資源	1）子どもと家族を取り巻く環境 （1）統計からみる子どもと家族を取り巻く環境と課題 2）子どもと家族を取り巻く環境・課題の対策に関連する法律と施策および社会資源 （1）児童福祉・母子保健関連法律 （2）医療費の支援 （3）予防接種 （4）学校保健	講義	4	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト	奈良間美保：系統看護学講座 専門分野 小児看護学［１］小児看護学概論 小児臨床看護総論，医学書院，第 15 版，電子版，2026 奈良間美保ら：系統看護学講座 専門分野 小児看護学［２］小児臨床看護各論，医学書院，第 16 版，電子版，2026
参　考　文　献	中野綾美：ナーシンググラフィカ 小児看護学（１） 小児の発達と看護，ＭＣメディカ出版，第 7 版，2023 小林京子ら：新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論　小児保健，メヂカルフレンド社，第 7 版，2022 筒井真優美ら：小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア，日総研出版，第 8 版，2019 桑野タイ子 ら：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ｉ，中央法規，初版第 4 刷，2011 国民衛生の動向，厚生労働統計協会
評　価　方　法	テスト　レポート

科　　目　　名　小児看護学方法論Ⅰ(さまざまな健康状態にある子どもと家族の看護)

単位（時間数）　２単位（45時間）

履　修　年　次　２年次　前期

授業の概要　子どもの健康の保持・増進、疾病予防に向けた看護では、小児各期の発達段階に応じた基本的生活習慣や日常生活の獲得に向けた援助や、子どもの成長・発達を促す援助、および家族への援助について学ぶ。

子どもの様々な健康状態における看護の特徴を学び、それぞれの健康状態に特有な健康障害や入院が子どもの成長・発達に与える影響と子どもの反応、子どもと家族の生活に及ぼす影響について理解を深める。また、疾病治療学Ⅴの学習をふまえ、臨床で受け持つことが多い疾患の特徴をふまえ、必要な看護援助について学ぶ。

目　　標　１．発達段階に応じた生活習慣の自立過程と日常生活習慣の獲得に向けた援助について理解できる。
２．健康状態の急激な破綻から回復の状態の看護について理解できる。
３．健康状態の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする状態の看護について理解できる。
４．障がいのある状態とリハビリテーションを行う状態の看護について理解できる。
５．人生の最期のときの看護について理解できる。

授　業　内　容

回	単　元	学習内容	授業形態	時間	備考
1 ～ 5	1．子どもの健康の保持・増進疾病予防に向けた看護	1）子どもの基本的生活習慣や生活習慣の自立過程に向けた援助の実際 （1）食事・栄養 （2）排泄 （3）運動・睡眠 （4）清潔・衣服の着脱 （5）遊ぶ・学習する （6）事故防止	講義 演習	1 8	小児看護学概論発達段階と関連
6 ～ 14	2．健康状態の急激な破綻から回復の状態にある子どもと家族への看護	1）急激な経過をたどる子どもと家族の看護 （1）主な症状と看護 ①発熱 ②脱水 ③呼吸困難 ④けいれん ⑤意識障害	講義	6	
		2）感染症・隔離が必要な子どもと家族の看護 （1）ウイルス感染症 （2）細菌感染症 （3）乳児下痢症	講義	4	
		3）周手術期の子どもと家族の看護 （1）子どもの手術の特徴 （2）手術を受ける子どもと家族の反応	講義	2	

回	単　元	学習内容	授業形態	時間	備考
		（3）検査処置を受ける子どもと家族の看護 ①プレパレーション （4）術前・術当日・術後急性期・回復期の子どもの健康状態の特徴と看護 ①先天性心疾患 （ファロー四徴症） ②水頭症・二分脊椎症 ③口唇・口蓋裂 ④肥厚性幽門狭窄症 4） 活動制限が必要な子どもと家族の看護（運動機能障害） （1）先天性股関節脱臼 （2）骨折	講義 講義 講義	2 2 2	
15		筆記テスト		1	
16 ～ 17		5）低出生体重児・ハイリスク新生児と家族の看護 （1）低出生体重児・ハイリスク新生児の集中治療と看護 （2）親子・家族関係の促進 6） 先天異常のある子どもと家族の看護 （1）出生前後の看護 （2）子どもの発達段階に応じた看護	講義	4	
18 ～ 20	3．健康状態の慢性的な揺らぎの再調整を必要とする子どもと家族の看護	1） 慢性的経過をたどる子どもの特徴 2） 主な症状と看護 （1）気管支喘息 （2）食物アレルギー（アトピー性皮膚炎） （3）1型糖尿病 （4）ネフローゼ症候群	講義 講義 講義	2 2 2	
21 ～ 22	4．障がいのある状態とリハビリテーションを行う子どもと家族の看護	1） 障害と共に育つ子どもと家族への看護 （1）発達障害の子どもと家族の特徴 （2）けいれん性疾患 （3）脳性まひ 2） 在宅・地域の子どもと家族の看護 （1）入院から在宅への移行の支援 （2）多職種との連携と社会資源の活用 （3）医療的ケアを必要とする子どもと家族の特徴と看護	講義 講義	2 2	
23	5．人生の最期のときにある子どもと家族の看護	1） 人生の最期のときにある子どもと家族の看護 （1）子どもの死の概念 （2）人生の最期のときにある子ども	講義	2	

回	単　元	学習内容	授業形態	時間	備考
		の看護 （３）人生の最期のときにある家族への看護（緩和ケア、グリーフケア）			
24		テスト		1	

テ　キ　ス　ト　奈良間美保：系統看護学講座 専門分野 小児看護学［１］小児看護学概論 小児臨床看護総論，医学書院，第 15 版，電子版，2026
奈良間美保：系統看護学講座 専門分野 小児看護学［２］小児臨床看護各論，医学書院，第 16 版，電子版，2026

参　考　文　献　中野綾美:ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護，メディカ出版，第 7 版，2023
小林京子ら：新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論　小児保健，メヂカルフレンド社，第 7 版，2022
筒井真優美 :小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア，日総研出版，第 8 版，2019
桑野タイ子 ら：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅰ，中央法規，初版第 4 刷，2011
桑野タイ子 ら：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅱ，中央法規，初版第 4 刷，2011

評　価　方　法　テスト　レポート

科　　目　　名　小児看護学方法論Ⅱ（小児看護に必要な看護技術）

単位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　２年次　前期～後期

授業の概要　小児の看護技術を実践する際には、子どもを一人の人間として尊重する姿勢を大切にしながら、発達段階に応じた援助技術の選択や、子どもの反応や状況に合わせて対応していく必要がある。講義・演習では、小児看護技術の中でも、特に臨床実習で実践することが多い技術項目を精選した。また、小児看護の実践の場において、プレパレーションは、特別な行為ではなく、日常的に行われるべき倫理的配慮が必要な技術の一つである。実際の場面でこれらを展開できるよう、シミュレーション演習を取り入れながら、小児看護技術を習得する。

看護過程については、概論や方法論Ⅰで学んだ知識を統合し、事例を使って小児看護学の看護過程の展開方法について学習する。

目　　標　１．小児看護に必要な看護技術が習得できる。
２．健康上の課題をもつ小児および家族をアセスメントし、看護過程を展開することができる。

授　業　内　容

回	単　元	学習内容	授業形態	時間	備考
1 ～ 5	1.小児看護に必要な看護技術	1）援助関係を形成する技術 （1）発達段階別コミュニケーション 2）検査や処置を受ける小児の看護 （1）小児に特有な技術 （2）小児に特有な技術とプレパレーションの実際 ①援助関係を形成する技術 ・子どもへの説明と同意 ②バイタルサイン測定 ③フィジカルアセスメント ④身体測定 3）小児の救命処置	講義 講義 演習 講義・演習	2 2 4 2	
6 ～ 14	2．看護過程の展開	1）小児の看護過程の実際 （1）アセスメント （2）看護問題の明確化 （3）看護計画の立案 （4）看護計画の評価・まとめ 【事例】小児に多い疾患の看護展開 2）小児看護技術の実際 ＊看護過程の事例をもとに小児看護技術の実施、臨床判断能力 （1）吸入療法 （2）口腔・鼻腔吸引 （3）与薬の管理（輸液管理）	講義 演習 演習	14 4	
15		まとめ 筆記テスト		2	

テ　キ　ス　ト	奈良間美保：系統看護学講座 専門分野 小児看護学［１］ 小児看護学概論 小児臨床看護総論，医学書院，第 15 版，電子版，2026 奈良間美保：系統看護学講座 専門分野 小児看護学［２］ 小児臨床看護各論，医学書院，第 16 版，電子版，2026
参　考　文　献	浅野みどり：根拠と事故防止からみた　小児看護技術，医学書院，第４版，2025 浅野みどり：発達段階からみた小児看護過程，第 4 版，2021 桑野タイ子 ら：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅰ，中央法規，初版第 4 刷，2011 桑野タイ子 ら：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅱ，中央法規，初版第 4 刷，2011 中野綾美：ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術，メディカ出版，第 7 版，2023 小林京子ら：新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論　小児保健，メヂカルフレンド社，第 7 版，2022 筒井真優美 ：小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア，日総研第 8 版，2019 筒井真優美：パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護実習ガイド，株式会社照林社，第 2 版，2018 山元恵子ら：写真でわかる小児看護技術アドバンス，インターメディカ 山口桂子：エビデンスに基づく小児看護ケア関連図，中央法規，初版第刷，2018 浅野みどり：発達段階からみた小児看護過程+病態関連図，医学書院，第 4 版，2021
評　価　方　法	テスト、　レポート（講義受講後レポート、技術演習手順書課題、看護過程、プレパレーションレポート）

母性看護学

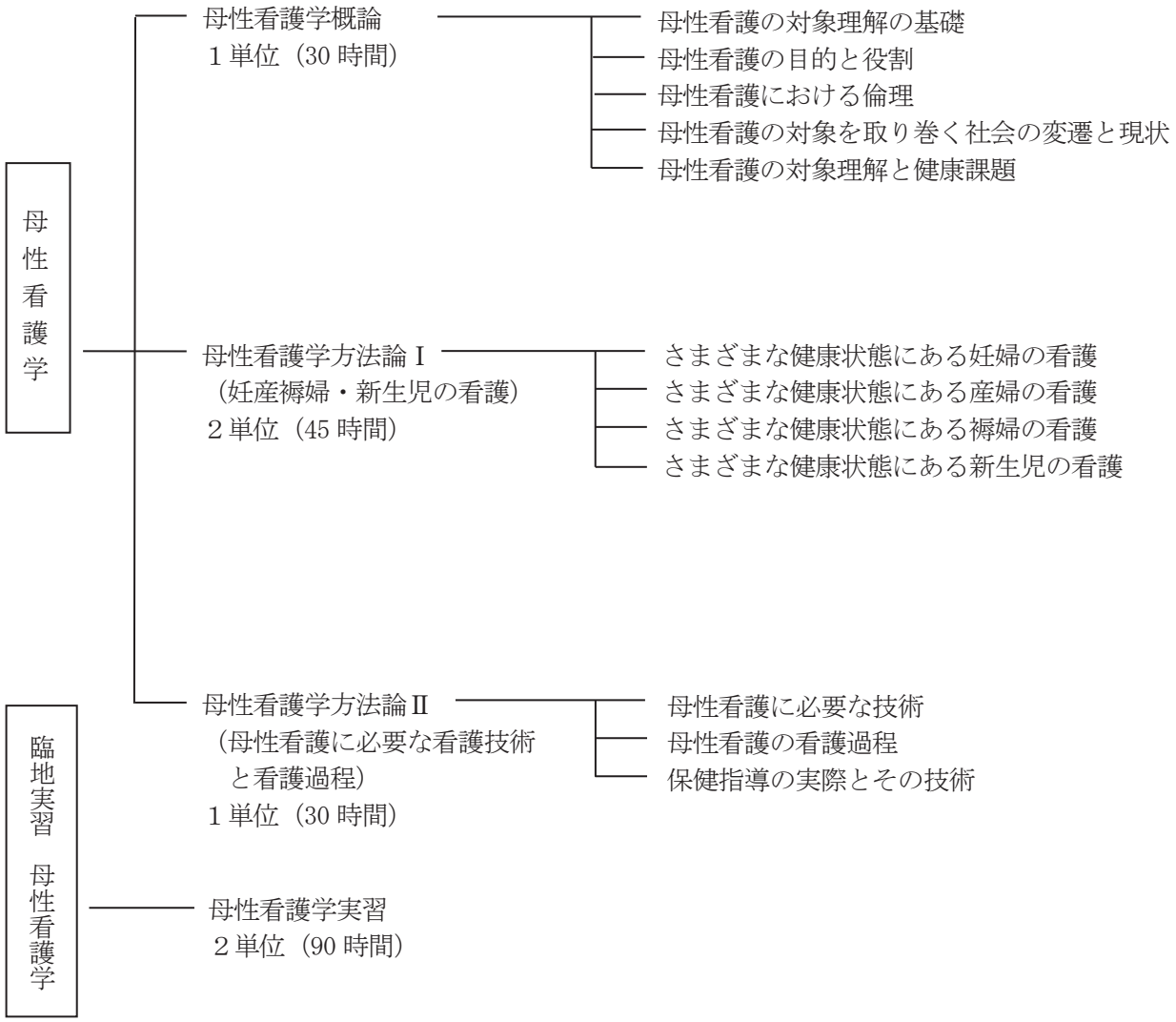
目　的

女性を取り巻く環境や性の意義を理解し、女性のライフサイクルの変化や健康状態に応じた看護の基礎的能力を養う。

目　標

1．女性を取り巻く環境や性の意義を理解し、生命の尊厳への配慮と倫理観を身につける。
2．母性看護の対象を統合的に捉え、家族を含めて理解できる。
3．女性のマタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥）や新生児についての生理や疾病を理解し、心理的・社会的特徴をふまえ、援助方法を学ぶ。
4．母子保健活動の実際を通して、保健医療福祉チームの一員としての役割を理解する。
5．母性看護の現状に関心を持ち、専門職業人として学習し続ける能力を身につける。

科目構成



科　　目　　名　母性看護学概論

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　２年次　前期

授　業　の　概　要　母性看護の基盤となる概念を理解し、近年の母性看護の対象をめぐる社会的な変化を広く捉え、母性看護の機能と役割を理解する内容とした。

目　　標　１．母性看護の基礎となる概念を理解する。
２．多様な性について理解する。
３．母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解を深め、母性看護の役割を理解する。
４．健康の保持・増進、疾病の予防状態にある母性看護の対象の健康課題と看護の必要性を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．母性看護の対象理解の基礎	1）母性とは、父性とは （1）さまざまな定義の母性 （2）父性とは （3）親性とは 2）母性看護における家族とは （1）家族とは 多様な家族形態 （2）ファミリーライフサイクル	講義	2	
2		3）さまざまな性 （1）セクシャリティ（人間の性） ①セクシャリティに関する概念 ②性的マイノリティ （2）セクシャリティの発達と課題 ①ジェンダー ②性同一性 ③女性性 ④性解放思想	講義	2	
3 ～ 4	2．母性看護の目的と役割	1）リプロダクティブヘルス／ライツ 2）母性看護の目的と役割 （1）母性看護の目的 ①ヘルスプロモーション ②エンパワメント （2）母性看護の役割 （3）母性看護の場と職種	講義 講義	2 2	
5 ～ 6	3．母性看護における倫理	1）母性看護における倫理 （1）生殖医療を取り巻く現状と倫理 （2）母性看護における倫理的意思決定	講義	4	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
7 ～ 9	4．母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1）母子保健統計からみた動向と現状 2）母性看護の対象を取り巻く環境 3）母性看護に関する法律と施策 （1）法律 （2）施策	講義	6	
10 ～ 14	5．母性看護の対象理解と健康課題	1）思春期にある女性のライフステージに伴う形態・機能の変化と健康課題 2）成熟期にある女性のライフステージに伴う形態・機能の変化と健康課題 （1）性周期のメカニズム （2）妊娠の成立過程 （3）健康課題 3）更年期・老年期にある女性のライフステージに伴う形態・機能の変化と健康課題	講義	2 2 2 2 2	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　森恵美：系統看護学講座　専門分野　母性看護学概論，医学書院，第15版，電子版
森恵美：系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論，医学書院，第15版，電子版

参　考　文　献　渡邉浩子ら：新体系看護学全書　母性看護学①　母性看護学概論　ウイメンズヘルスと看護，メヂカルフレンド社，第６版，2019
新道幸恵ら：新体系看護学全書　母性看護学２ マタニティサイクルにおける母子の健康と看護，メヂカルフレンド社，第５版，2016
大平光子ら：母性看護学Ⅱ　マタニティサイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践，南江堂，改訂第２版，2018
有森直子：母性看護学Ⅱ 周産期各論 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得，医歯薬出版株式会社，第２版，2020
医療情報科学研究所：病気が見える　産科　vol.10，メディックメディア，2019
国民衛生の動向，厚生労働統計協会

評　価　方　法　テスト、豆テスト（講義出席時の豆テスト加点）
課題レポート（期限内提出）

科　　目　　名　母性看護学方法論Ⅰ（妊産褥婦・新生児の看護）

単　位（時間数）　２単位（45 時間）

履　修　年　次　２年次　前期～後期

授　業　の　概　要　生理的な変化を遂げている妊婦・産婦・褥婦及び新生児の看護は、健康の急激な破綻をきたさないために、臨床判断能力が求められる。そのため、健康の保持・増進・予防に努めるための援助方法を理解する内容とした。

目　　標　１．妊婦・産婦・褥婦及び新生児の生理的な変化を理解する。
２．急激な健康の破綻をきたさないための健康の保持・増進・予防のための妊婦・褥婦・新生児の援助方法を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1～5	1．さまざまな健康状態にある妊婦と胎児の看護	1）妊婦の特徴 2）胎児の特徴 3）妊婦の異常と看護 4）妊婦の看護の視点	講義	10	
6～10	2．さまざまな健康状態にある産婦の看護	1）産婦の特徴 2）産婦の異常と看護 3）産婦の看護の視点	講義	10	
11		中間テスト		1	
12～19	3．さまざまな健康状態にある褥婦の看護	1）褥婦の特徴 2）褥婦の看護の視点 （1）子宮復古過程と看護 （2）全身復古過程と看護 （3）母乳分泌過程と看護 （4）母親役割獲得過程と看護	講義	16	
20～22	4．さまざまな健康状態にある新生児の看護	1）新生児の特徴と看護 2）新生児の異常と看護 3）新生児の看護の視点	講義	6	
23		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　森恵美：系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論，医学書院，第 15 版，電子版

参　考　文　献　新道幸恵ら：新体系看護学全書　母性看護学２ マタニティサイクルにおける母子の健康と看護，メヂカルフレンド社，第５版，2016
大平光子ら：母性看護学Ⅱ　マタニティサイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践，南江堂，改訂第２版，2018
有森直子：母性看護学Ⅱ 周産期各論 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得，医歯薬出版株式会社，第２版，2020
医療情報科学研究所：病気が見える　産科　vol.10，メディックメディア，2019

評　価　方　法	テスト、豆テスト（講義出席時の豆テスト加点） 課題レポート（期限内提出）

科　　目　　名　母性看護学方法論Ⅱ（母性看護に必要な看護技術と看護過程）

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　２年次　後期

授　業　の　概　要　母性看護を展開するために必要な看護過程の展開方法やヘルスアセスメントに必要な技術および、対象との援助関係形成のための技術や援助技術を理解し習得する内容とした。

目　　標　１．母性看護に必要な技術及び保健指導の実際を習得する。
２．母性看護における看護過程の特徴を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．母性看護に必要な技術	1）妊婦・褥婦・新生児の看護技術 （母乳育児支援を除く） （1）妊娠期 ①レオポルド触進法 ②子宮底の測定 ③胎児心音の聴取 ④ＮＳＴの装着 （2）産褥期 ①子宮底の測定 （3）新生児 ①バイタルサインの測定 ②黄疸測定 ③点眼 ④ビタミンＫの投与方法 ⑤マススクリーニング検査 ⑥聴力スクリーニング ⑦沐浴 ⑧抱き方、寝かせ方 ⑨おむつ交換 2）母乳育児支援の技術 （1）母乳育児支援に必要な技術（知識編） （2）母乳育児支援に必要な技術（技術編）	講義 演習 講義 演習	2 4	
4 ～ 11	2．母性看護の看護過程	1）褥婦の看護過程の展開方法 ・正常褥婦の看護過程 ・ウェルネス型看護問題 2）褥婦の看護過程の実際 （1）アセスメント ①子宮復古過程 ②全身復古過程 ③母乳分泌過程 ④母親役割獲得過程 （2）看護問題の抽出 （3）看護計画の立案	講義 演習	2 2 2 2 2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		（4）指導略案の作成・パンフレットの作成 （5）経過記録 3）リスクのある褥婦の看護過程		2 2 2	
12 ～ 14	3．保健指導の実際とその技術	1）母性看護におけるコミュニケーション （1）母性看護の対象と看護師の人間関係のプロセス ①関係確立の段階 ②関係発展の段階 ③関係終結の段階 （2）母性看護の対象に応じたコミュニケーションの特徴 ①対象をエンパワメントする関わり方 ②セルフケア能力が高い対象への関わり方 ③信頼関係形成のための関わり方 ＊産褥期の保健指導の場面のシミュレーションを通して学ぶ 2）母性看護における安全・事故防止 ＊産褥期の保健指導の場面のシミュレーションを通して学ぶ 3）演習方法 （1）立案した計画を基に保健指導用パンフレット作成 （2）作成したパンフレットを使用し、指導場面のロールプレイを行う 4）指導場面のリフレクション	演習	4 2	
15		テスト		2	

テキスト　森恵美：系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論，医学書院，第15版，電子版

参考文献
新道幸恵ら:新体系看護学全書　母性看護学２　マタニティサイクルにおける母子の健康と看護，メヂカルフレンド社，第５版，2016
大平光子ら:母性看護学Ⅱ　マタニティサイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践，南江堂，改訂第２版，2018
有森直子：母性看護学Ⅱ 周産期各論 質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得，医歯薬出版株式会社，第２版，2020
医療情報科学研究所：病気が見える　産科　vol.10，メディックメディア，2019
石村由利子：根拠と事故防止から見た母性看護技術，医学書院，第２版，2016
北川眞理子：看護実践のための根拠がわかる母性看護技術，メヂカルフレンド社，2015

	太田操：ウェルネス看護診断にもとづく 母性看護過程，医歯薬出版，第２版，2011 中村幸代:根拠がわかる母性看護過程 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画，南江堂，2018 竹尾恵子：看護技術プラクティス，学研メディカル秀潤社，第４版，2019
評　価　方　法	テスト、看護過程レポート、指導パンフレット、演習（シミュレーション） 看護過程レポート・パンフレットなど期限内提出は加点 演習（シミュレーション）の出席で加点

精神看護学

目　的

精神看護の対象を理解し、精神（心）の健康の保持増進および、精神（心）に障害をもつ人々とその家族へ看護を実践する基礎的能力を養う。

目　標

1．精神看護の対象の尊厳を保持し、高い倫理観を備えた豊かな人間性を身につける。
2．精神看護の対象を、身体的・精神的･社会的に統合された生活者として理解する。
3．精神看護の対象の健康上の課題に対応するために、科学的根拠に基づいた知識と技術を身につける。
4．精神保健医療福祉における看護の役割を理解し、チームの一員として他の職種と協力できる能力を身につける。
5．精神看護をとりまく社会情勢に関心を持ち、専門職業人として学習し続ける能力を身につける。

科目構成

- 精神看護学（5単位（195時間））
  - 精神看護学概論　1単位（30時間）
    - 精神看護学の目的
    - 精神看護の機能と役割
    - 精神（心）の健康と危機
    - 精神看護の対象を取り巻く環境
    - 精神（心）のとらえ方と心の発達
    - 精神（心）に障害をもつ人の理解
    - 精神保健福祉の変遷
    - 精神（心）に障害をもつ人の治療の場の理解
    - 精神看護における倫理
  - 精神看護学方法論Ⅰ　2単位（45時間）（さまざまな健康状態にある対象への看護）
    - 精神（心）の健康の急激な破綻から回復を促す看護
    - 精神科病棟での事故防止・安全管理
    - 災害時の精神保健
    - 主な精神疾患をもつ人への看護
    - 精神（心）に障害をもつ人の地域生活支援
    - 精神（心）に障害をもつ人とリハビリテーションを支える看護
  - 精神看護学方法論Ⅱ　1単位（30時間）（精神看護に必要な技術）
    - 精神（心）に障害をもつ人との治療的関係の構築とコミュニケーション技術
    - 精神看護の看護過程
  - 精神看護学実習　2単位（90時間）

科　　目　　名　精神看護学概論

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　２年次前期

授　業　の　概　要　本科目では、精神看護の基盤となる心についての概念と、精神保健福祉の現在、及び精神に障害をもつ人の暮らしについて学ぶ。

精神看護学では、すべての発達段階にある人々の心の健康について考え、対象理解を深める。家庭や学校、職場における人間関係の中で、心は影響し合い育まれることを学習する。また、心の健康の維持とライフサイクルにおける心の健康と発達について学び、現代社会の社会病理からみた心のあり方と、精神看護学の位置づけを学ぶ。

精神保健福祉の歴史的な変遷から、今日の制度の成り立ちと今後の精神医療について学び、精神保健福祉法と関連づけて、看護師としての倫理について学習する。

また、心に病を抱えた人の治療環境と、障害と共に社会で生活するための支援について学ぶ。

目　　標

１．精神看護学の考え方と看護師の役割、機能を理解する。
２．精神看護の対象を取り巻く環境について理解する。
３．精神（心）に障害をもつ人について理解する。
４．精神保健福祉制度について学び、精神（心）に障害をもつ人への理解を深める。
５．精神看護における倫理について理解を深める。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．精神看護学の目的	1）精神看護学とは 2）精神看護の特徴	講義	2	
2	2．精神看護の機能と役割	1）精神障害と精神保健 （1）精神保健福祉法の目的 （2）精神保健政策と方向性 （3）地域精神保健の予防の考え 2）精神看護の役割	講義	2	
3 ～ 4	3．精神（心）の健康と危機	1）精神的健康の保持・増進としての精神保健 （1）精神的健康とは （2）精神的健康を支える要因 2）精神（心）の危機的状況と精神保健 （1）危機とは （2）ストレスとコーピング （3）適応と不適応 （4）セルフマネジメント	講義 演習	4	
5 ～ 6	4．精神看護の対象を取り巻く環境	1）暮らしの場と精神（心）の健康 （1）学校と精神（心）の健康 （2）職場・仕事と精神（心）の健康 （3）地域における生活と精神（心）の健康 2）精神保健が関与する社会病理現象	講義	4	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		（1）ドメスティック・バオレンス （2）ハラスメント （3）虐待 （4）いじめ （5）ひきこもり （6）不登校 （7）自殺 （8）自傷行為 （9）依存 (10)犯罪・非行			
7 ～ 8	5．精神（心）のとらえ方と心の発達	1）心のとらえ方 （1）心と脳の関係 （2）心の構造とはたらき ①精神力動理論 ②自我の防衛機制 ③対象関係論 2）心の発達 （1）欲動論 （2）斬成的発達理論	講義	4	
9	6．精神（心）に障害をもつ人の理解	1）「精神（心）を病む」とはどういうことか 2）精神障害と差別 3）精神障害と共に生きる	講義	2	
10 ～ 11	7．精神保健福祉の変遷	1）精神保健医療福祉の歴史と現在の姿 （1）諸外国における精神医療福祉 （2）我が国の精神保健福祉と法制度 ①入院医療の形態 ②入院患者の処遇と権利擁護 2）司法精神医療と看護 （1）司法精神看護の対象、役割 （2）医療監察法	講義	4	
12 ～ 13	8．精神（心）に障害をもつ人の治療の場の理解	1）日本の精神科病院の特徴 （1）閉鎖病棟と開放病棟 （2）精神科病棟の構造と設備 2）治療的環境としての病棟 （1）安心と安全保障の場としての環境	講義	2	
		3）リエゾン精神看護 （1）リエゾン精神看護とは （2）リエゾン看護活動 （3）リエゾン看護のケアの実際	講義	2	
14	9．精神看護における倫理	1）精神医療の現状と倫理 （1）精神看護者の倫理綱領（日本精神看護協会） （2）事例から学ぶ精神医療の倫理	講義	2	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト	岩崎弥生：新体系看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論／精神保健，メヂカルフレンド社，第6版第4刷　電子版 岩崎弥生：新体系看護学全書，精神看護学②　精神障害をもつ人の看護，メヂカルフレンド社，第6版第4刷　電子版
参　考　文　献	武井麻子：系統看護学講座　専門分野　精神看護学［1］　精神看護の基礎，医学書院，第6版 電子版 山村豊：系統看護学講座　基礎分野　心理学，医学書院，第6版 電子版， 石川ひろの：系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　医学書院，第 3 版 電子版
評　価　方　法	テスト，レポート

科　　目　　名　精神看護学方法論Ⅰ（さまざまな健康状態にある対象への看護）

単　位（時間数）　２単位（45時間）

履　修　年　次　２年次　前期～後期

授　業　の　概　要　本科目では、精神科病棟での安全管理や、精神（心）に障害をもつ人に対する看護援助の実際、診療に伴う診察や検査の基本的な援助、治療に伴う看護について学ぶ。特に、幻覚妄想や興奮状態など精神症状の苦しさと、日常生活への影響を理解し、精神に障害をもつ人の抱える「生活のしづらさ」を改善するための生活技能訓練をはじめとする作業療法、精神療法、薬物療法などについて学習する。

さらに、近年は様々な災害が発生しているため、災害とストレスの関係や災害時の精神保健活動、支援方法も学習する。

目　　標

1．精神（心）の健康の急激な破綻からの回復を促すための治療と看護を理解する。
2．精神科病棟での事故防止・安全管理について理解する。
3．主な精神疾患をもつ人への看護を理解する。
4．精神（心）に障害をもつ人の地域生活支援とその看護を理解する。
5．精神（心）に障害のある人とリハビリテーションと、それを支える看護を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1～3	1．精神（心）の健康の急激な破綻から回復を促す看護	1）精神疾患の診察、検査に伴う看護 （1）診察場面での看護 （2）精神科で行われる検査と看護	講義	2	
		2）精神疾患の主な治療法 （1）薬物療法に伴う看護	講義	2	
		（2）精神療法に伴う看護 （3）作業療法に伴う看護 （4）電気けいれん療法に伴う看護	講義	2	
4～5	2．精神科病棟での事故防止・安全管理	1）精神科病棟での安全管理 2）病棟環境の整備 （1）療養環境の整備 （2）危険物の管理 3）自殺、自殺企図、自傷行為がある患者への対応 4）攻撃的行動、暴力行為がある患者への対応（CVPPP） 5）離院発生時の対応 6）隔離、身体拘束が必要な患者への看護の実際	講義	4	
6	3．災害時の精神保健	1）災害とストレス 2）災害時の精神保健医療活動の基本 （1）災害支援時の基本 （2）災害派遣精神保健医療チーム（DPAT）	講義	2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		（3）心理的応急処置（PFA） 3）被災した精神に障害をもつ人への支援			
7 ～ 14	4．主な精神疾患をもつ人への看護	1）統合失調症スペクトラム障害患者の看護	講義	2	
		2）双極性障害および関連障害群患者の看護 3）抑うつ障害群患者の看護	講義	2	
		4）不安障害患者の看護 （1）社会不安症 （2）パニック障害 5）強迫性障害患者の看護 6）心的外傷およびストレス因関連障害患者の看護	講義	2	
		7）物質関連障害および嗜癖性障害群患者の看護	講義	2	
		8）パーソナリティ障害群患者の看護	講義	2	
		9）児童・思春期に起こりやすい精神障害に対する看護	講義	2	
		10）食行動障害および摂食障害群患者の看護	講義	2	
		11）身体疾患を合併している患者の看護	講義	2	
15		中間テスト		2	
16 ～ 18	5．精神（心）に障害をもつ人の地域における生活への支援	1）地域生活支援の再構築と社会参加 （1）地域包括ケアシステムと支援に関する法制度 ①障害者総合支援法 （2）当事者の力量を生かす相互支援 ①ピアグループ活動 ②ピアサポート 2）精神に障害をもつ人の地域生活支援の実際 （1）地域生活支援における保健師の役割 （2）多職種連携による地域生活支援 （3）長期入院患者の地域への移行支援 （4）訪問看護をとおした地域生活支援 （5）就労支援	講義	4	
		3）精神に障害をもつ人をケアする家族への支援 （1）精神障害の家族への影響 （2）家族への支援	講義	2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
19 ～ 22	６．精神（心）に障害をもつ人とリハビリテーションを支える看護	１)精神科リハビリテーション療法に伴う看護 （１)精神科リハビリテーションの目的、内容、看護師の役割 （２)社会生活技能訓練（SST） （３)精神科デイケア、ナイトケア、デイナイトケア、ショートケア	講義 演習	2	
		２）精神（心）に障害をもつ人のセルフマネジメント （１)セルフマネジメントの背景 （２)セルフマネジメントのための疾病教育、心理教育 （３)服薬自己管理 ①コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンス ②服薬アドヒアランスを高める支援	講義	2	
		３)セルフケアの援助 （１)セルフケアとは ①オレムのセルフケア理論 ②オレム・アンダーウッドモデル （２)セルフケア援助の実際	講義 演習	4	
23		期末テスト		1	

テ　キ　ス　ト　岩崎弥生：新体系看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論／精神保健，メヂカルフレンド社，第６版第４刷　電子版
岩崎弥生：新体系看護学全書，精神看護学②　精神障害をもつ人の看護，メヂカルフレンド社，第６版第４刷　電子版

参　考　文　献　武井麻子：系統看護学講座　専門分野　精神看護学［1］　精神看護の基礎，医学書院，第６版 電子版
武井麻子：系統看護学講座　専門分野　精神看護学［2］精神看護の展開，医学書院，第６版 電子版
井上智子・窪田哲男：系統看護学講座　別巻　臨床薬理学，医学書院，第２版 電子版

評　価　方　法　テスト

科　　目　　名　精神看護学方法論Ⅱ

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　２年次　後期

授　業　の　概　要　本科目では事例を通して、精神に障害をもつ対象を統合的（身体的・精神的・社会的側面）に理解し、健康な側面に注目しながら看護実践に必要な看護過程の展開（援助方法）を理解する。精神症状や日常生活に問題がある患者とのシミュレーション学習を通して、コミュニケーション技術の基礎を学び、プロセスレコードを用いて自己洞察、自己理解、患者と看護師の相互作用について学ぶ内容とする。

目　　標
1．精神看護におけるコミュニケーションを学び、患者－看護師関係を踏まえた人間対人間の看護について理解する。
2．精神（心）に障害をもつ人に対する治療的コミュニケーション技術の基礎を身につける。
3．精神看護における看護過程が展開できる。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．精神（心）に障害をもつ人との治療的関係の構築とコミュニケーション技術	1）治療的関係の構築 （1）患者－看護師関係の理解 （2）関係構築の基本的な態度 （3）ペプロウ、トラベルビー	講義	2	
		2）精神看護におけるコミュニケーション技法 （1）精神に障害をもつ人とのコミュニケーションの特徴 （2）精神看護におけるコミュニケーション技法 ①精神的安寧を保つためのコミュニケーション技法 ②治療的コミュニケーション	講義	2	
		3）精神に障害をもつ人との関係の振り返り （1）振り返ることの意味 （2）プロセスレコード （3）オーランド	講義 演習	2	
4 ～ 5	2．精神看護の看護過程	1）精神（心）に障害をもつ人への看護過程 （1）看護援助の基本構造 ①情報収集 ②アセスメント ③看護問題の明確化 ④看護計画の立案 （2）臨床判断の視点	講義 演習	4	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
6 ～ 14	3．精神看護の看護過程の展開	1）事例を用いた看護過程 【事例1】急性期の統合失調症 【事例2】感情障害（うつ病） （1）アセスメント （2）看護問題の明確化 （3）看護過程の立案 2）事例を用いた看護展開 （1）看護計画の実践 （2）治療的コミュニケーション技術 （精神的安寧を保つためのコミュニケーション） 3）看護計画の評価、まとめ 4）発表	講義 演習	18	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　岩崎弥生：新体系看護学全書　精神看護学①　精神看護学概論／精神保健，メヂカルフレンド社，第6版第4刷　電子版
岩崎弥生：新体系看護学全書，精神看護学②　精神障害をもつ人の看護，メヂカルフレンド社，第6版第4刷　電子版

参　考　文　献　武井麻子：系統看護学講座　専門分野　精神看護学［2］精神看護の展開，医学書院，第6版 電子版
焼山和徳：はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神看護過程，医歯薬出版株式会社

評　価　方　法　テスト，レポート

看護の統合と実践

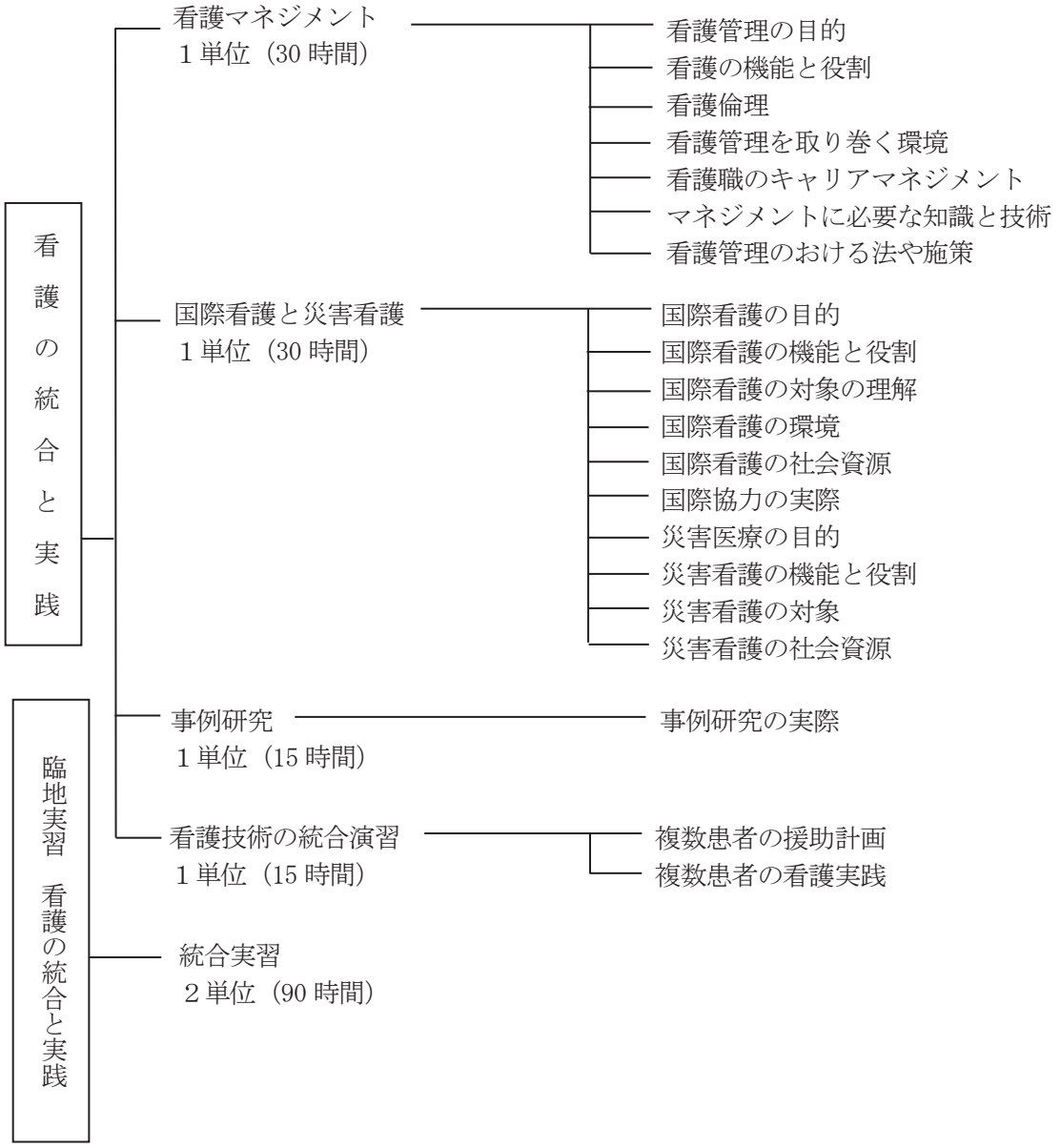
目　的

医療サービス組織における看護職者の役割を理解し、既習した知識・技術を統合し、対象に応じた看護を実践する能力を養う。

目　標

1．生命を尊重し、看護師として倫理に基づいた行動をとることができる。
2．看護の対象には多様な価値観があることを認識し、看護の対象を生活者として理解できる。
3．各看護学で学習した知識、技術を統合し、対象の状況に応じて看護実践できる基礎的能力を身につける。
4．看護の対象となる人々及び多職種と協働する中で、看護をマネジメントする基礎的能力を身につける。
5．国際的視野を持ち、変動する社会や様々な状況に柔軟に対応するため専門職業人として学習し続ける姿勢を身につける。

科目構成



科　　目　　名　看護マネジメント

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　３年次　前期

講　義　の　概　要　看護におけるマネジメントの意義を理解し、マネジメントを「ケアマネジメント」「看護サービスのマネジメント」の２つの概念から捉え、役割と機能について理解する。また、看護マネジメントにおけるチーム医療や医療安全について理解する。さらに、看護倫理、看護職キャリアマネジメントについても学ぶ内容とする。

目　　標
１．看護におけるマネジメントの基礎的知識を理解する。
２．看護におけるマネジメントの基礎的知識を理解する。
３．チーム医療における看護の役割について理解する。
４．組織におけるリスクマネジメントについて理解する。
５．看護職のキャリアマネジメントについて理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．看護管理(マネジメント)の目的	1）看護管理の定義 2）マネジメントとは 3）看護マネジメントとは （1)マネジメントの考え方の変遷 （2)ネジメントの考え方変遷 （3)マジメントシステム （4)看護過程と看護ケアマジメント	講義	2	
2	2．看護の機能と役割	1）看護の機能と役割 （1)マネジメントプロセス （2)ＰＤＣサイクルとは 2）ケアマネジメント （1)ケアとは何か （2)ケアをマネジメントすることとは （3)ケアマネジメントの基本 3）患者の権利の尊重 4）ケアの安全管理・感染管理 5）日常業務のマネジメント （1)看護業務の実践	講義	2	
3	3．看護倫理	1）看護の法的責任 （1)看護職と専門性 （2)看護者の倫理綱領 （3)看護業務の法的範囲 2）看護者の基本的責務 3）法と倫理 4）倫理原則 5）看護職の基本的責務	講義	2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
4 ～ 7	4．看護管理をとりまく環境	1）医療におけるサービスの構造 （1）サービスとは （2）サービスの基本的特性 （3）サービスの３つの構造と顧客 （4）組織目的達成のマネジメント （5）医療サービスの質評価 2）組織の成り立ちと病院組織の基本的構造 （1）組織とマネジメント （2）組織の調整 ①集団 ②組織文化 （3）コミュニケーション （4）動機づけ （5）パワーとエンパワーメント （6）コンフリクト （7）変化と変革 （8）組織と個人 （9）目標管理 3）看護サービスのマネジメント （1）看護サービスのマネジメント （2）組織の中で看護部門が占める位置 （3）看護部門の組織化 （4）看護提供システム （5）施設・設備環境のマネジメント （6）物品のマネジメント	講義 演習	4 4	
8	5．チーム医療	1）チーム医療とは 2）チーム医療に必要な機能 3）他職種との連携・協働 4）クリニカルパス 5）リーダーシップとマネジメント 6）情報マネジメント	講義	2	
9 ～ 12	6．安全管理	1）組織におけるリスクマネジメン 2）安全管理のしくみ 3）医療事故対策 4）院内感染対策 5）感染管理の組織化 6）医療現場における業務上の危険 7）患者・同僚および第三者による暴力	講義 演習	8	
13 ～ 14	7．看護職のキャリアマネジメント	1）人材のマネジメント 2）看護職のキャリア形成 3）看護専門職としての成長 4）労働環境 5）ストレスマネジメント 6）タイムマネジメント 7）キャリア形成の実際	講義 講義	2 2	
15		テスト		2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考

テ　キ　ス　ト	上泉和子：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 ［１］看護管理, 医学書院, 第 11 版【電子版】 川村治子：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 ［２］医療安全, 医学書院, 第 5 版【電子版】 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学［１］ 看護学概論, 医学書院, 第 17 版【電子版】
参　考　文　献	
評　価　方　法	テスト

科　　目　　名　国際看護と災害看護

単　位（時間数）　１単位（30 時間）

履　修　年　次　３年次　前期

講　義　の　概　要　国際社会において看護師として諸外国との協力のあり方を学習する 。県下において国際活動を行っている施設や国際活動に携わる人々及び、県内で生活する外国人を通して国際協力の現状と在沖外国人への看護を考える内容とする。また、我が国の災害対策、災害救助活動を学び、災害時の看護の特徴と基本的な援助について理解する。これらの学習を通して、看護に対する広い視野と課題について考え、専門性の意識を高める。

目　　標
１．世界の健康問題の現状を知り、国境を越えて健康をまもるために看護師が果たすべき役割を理解する。
２．在日外国人への看護の役割を理解する。
３．災害医療の概念と災害時の実際を理解する。
４．災害時の看護の役割を理解する。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	１．国際看護の目的	１）多様な状況にある様々な国や地域の人々の文化 ２）世界の健康問題の現状と課題 ３）国際看護の目的	講義	2	
2	２．国際看護の対象の理解	１）あらゆる場であらゆる年代の個人および家族、集団、コミュニティ （１）日本で暮らす外国人 （２）開発途上国に住む人々 （３）災害・紛争被害者 （４）在外日本人	講義	2	
3	３．国際看護の環境	１）国際協力のしくみ ２）国際協力の実際 ３）看護師の国際的な移動	講義	2	
4	４．国際看護の社会資源	１）世界が目指していること ２）施策 （１）SDGs ３）外国人の医療に関する主な制度 （１）国際人権法 （２）国際人道法 （３）難民条約	講義	2	
5 ～ 10	５．国際協力の実際	１）多様な状況下にある国や地域の人々とのコミュニケーション ２）人道、公平、中立、独立の原則に沿った行動 ３）ＩＣＴを活用した国際交流 ４）ＩＣＴを活用した地域交流 ５）地域の国際協力の実際 ６）世界の災害、紛争の救援活動	講義 演習	12	
11	６．災害医療の目的	１）災害医療の目的	講義	2	

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
		2）災害医療の基礎知識 （1）災害の定義 （2）災害の種類と健康障害 3）我が国の災害医療体制 4）災害看護と法律 （1）災害対策基本法 （2）災害救助法 （3）被災者支援制度 （4）大規模地震対策特別措置法			
12	7．災害看護の機能と役割	1）災害看護の定義と役割 2）災害サイクルに応じた災害看護 発災～急性期・亜急性期 （1）CSCATTT （2）トリアージ	講義	2	
13	8．災害看護の対象	1）災害サイクルに応じた災害看護 （1）災害時要配慮者 （2）慢性期・復興期	講義	2	
14	9．災害と心のケア	1）災害がもたらす精神的影響 2）こころのケアの基本 3）被災者のこころのケア 4）遺族のこころのケア 5）支援者のストレスとこころのケア	講義	2	
15		テスト		2	

テ　キ　ス　ト　　竹下喜久子：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践［3］災害看護学・国際看護学，医学書院，第5版【電子版】

参　考　文　献

評　価　方　法　　テスト、演習課題

科　　目　　名　事例研究

単　位（時間数）　１単位（15 時間）

履　修　年　次　３年次　前期～後期

講　義　の　概　要　事例研究では、基礎看護学概論Ⅱで学んだ研究の基礎をふまえ、自己の看護実践を振り返り（３年次の臨地実習）、理論と統合させながら事例研究をまとめる内容とした。

目　　標
１．看護研究の意義を理解し、研究していく姿勢を身につける。
２．理論と統合させながらケーススタディをまとめ、自己の看護実践を振り返る。
３．発表のプロセスをとおして、看護の視野を深める。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1	1．看護研究の意義	1）看護研究の目的（成果） 2）看護研究における倫理的配慮 3）研究方法・デザイン	講義	2	
2～8	2．事例研究の実際	1）事例研究の実際 （1）ケーススタディとは （2）ケーススタディの目的、種類、方法 （3）倫理的配慮とは （4）研究計画書作成の実際 ①ケーススタディの作成方法 ②文献検索について 3）ケーススタディの実際 4）ケーススタディの発表	演習	13	

参　考　文　献　坂下玲子：系統看護学講座 別巻 看護研究，医学書院，第２版【電子版】

評　価　方　法　レポート、発表態度、演習状況

科　　目　　名　看護技術の統合演習

単　位（時間数）　１単位（15 時間）

履　修　年　次　３年次　後期

講　義　の　概　要　統合実習の前段階として、臨床に近い状況での看護技術の実際をシミュレーションで体験する。体験後デブリーフィングを行い知識と技術、態度を統合し、臨床現場への実践に応用させていく。実践では対象の状況に応じて、思考力や臨床判断力を身につけ優先順位を考えていく。複数患者への対応のみでなく、チームメンバーとの調整、割り込み状況への対処を含めた看護技術を安全に実施できるように協同学習を取り入れて学ぶ。

目　　標

１．複数患者の情報収集を行い、優先順位を考えたケアの計画立案できる
２．既習の技術を用いて対象に応じて必要な援助を安全、安楽に援助が実施できる。
３．計画に沿った看護実践中に起こる割り込み状況への対処ができる。
４．協同学習の精神に基づき、チームワークを活用できる。
５．看護実践を通して、自己の課題を明確にできる。

授　業　内　容

回	単　元	学　習　内　容	授業形態	時間	備考
1 ～ 3	1．複数患者の看護過程の計画	1）オリエンテーション （1）演習のねらい （2）演習の進め方、留意点 （3）事例の紹介 （4）評価方法 2）複数患者の援助計画立案 （1）複数患者の看護援助に必要な情報の整理 （2）複数患者の全体像を把握、健康問題の確認 （3）協同学習の手法を活用して、看護援助を検討する。	演習	6	
4 ～ 8	2．複数患者の状態に応じた看護実践	1）対象に応じて必要な援助を安全、安楽に実施 （1）既習の技術を用いて援助の実践シミュレーションで実施 （2）デブリーフィングの実施 2）時間切迫、同時業務、想定外の状況の変化に伴う優先順位の考え方 3）臨床判断能力 気づき、解釈、反応、省察に基づいた看護実践 4）チームメンバーとの連携 5）チームのメンバーの一員として責任と自覚	演習	9	

テ　キ　ス　ト　　茂野香おる：系統看護学講座 専門分野　基礎看護学［２］基礎看護技

術Ⅰ，医学書院，第 19 版【電子版】
任和子：系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［３］　基礎看護技術Ⅱ，医学書院，第 19 版【電子版】
川村治子：系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践 ［２］ 医療安全，医学書院，第 5 版【電子版】

参　考　文　献　川村治子：医療安全ワークブック，医学書院，2018

評　価　方　法　レポート、技術テスト、演習参加

実　習　要　綱

臨地実習の目的、目標

目　的

看護の対象を全人的に捉え、既習の知識・技術をあらゆる健康状態にある対象に応じて、看護実践できる基礎的能力を養う。

目　標

1　対象の人間性を尊重し、円滑な人間関係を築き、看護の援助関係を発展させる基礎を学ぶ。

2　あらゆる健康状態にある対象を統合された生活者として理解する。

3　対象の健康上の課題に対応した科学的根拠に基づいた看護を実践するための思考過程を身につける。

4　対象の健康状態に応じた看護実践の基礎となる技術を習得する。

5　保健医療福祉チームの一員として、看護の役割を理解し、メンバーとして自覚した行動ができる。

6　看護実践を通して自己の看護観を育成し、主体的な学習姿勢を身につける。

科　目　目　的

実習科目	単位	科目目的
基礎看護学実習Ⅰ	1	医療施設における看護援助場面の見学をとおして、看護の機能と役割を理解するとともに、看護師としての基本姿勢の基盤をつくる。
基礎看護学実習Ⅱ	2	看護過程のステップを踏みながら、対象の基本的欲求を理解して生活上の援助を行うことで、看護の基礎的能力を養う。
看護実践ステップアップ実習	2	対象の健康上の課題に対応するために看護過程を活用しながら看護を実践し、看護師としての基礎的能力を養う。
健康支援を知る実習	2	地域の中で生活する人々を捉え、人々の健康を維持・増進するための支援の在り方を学び、看護師としての基礎的能力を養う。
地域・在宅看護論実習	2	地域で生活している療養者とその家族を理解し、看護の実際を経験することにより、その人らしい生活や自立を援助するための基礎的能力を養う。
成人・老年看護学実習Ⅰ （回復期にある対象の看護）	2	回復期にある成人期・老年期の対象の健康上及び生活上の課題を理解し、日常生活適応への看護を実践する基礎的能力を養う。
成人・老年看護学実習Ⅱ （慢性期・終末期にある対象の看護）	2	慢性的な揺らぎの再調整から人生最期のときを過ごす成人・老年期の対象を理解し、意志・意欲の維持、健康状態に応じた看護が実践できる能力を養う。
成人・老年看護学実習Ⅲ （急性期・周手術期にある対象の看護）	2	成人期・老年期の特性を踏まえ、健康の急激な破綻から回復にある対象を理解し、機能回復および生活活動の維持、日常生活への復帰に向けての看護が実践できる能力を養う。
小児看護学実習	2	成長・発達過程にある子どもを全人的に捉え、さまざまな健康状態にある子どもと家族に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。
母性看護学実習	2	母子保健活動の実際から、保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、母性看護の対象に応じた看護の基礎的能力を養う。
精神看護学実習	2	精神科看護の実際から、保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、精神看護の対象に応じた看護の基礎的能力を養う。
統合実習	2	病院における看護管理の実際を知るとともに、チームの一員として既習した知識と技術を統合し看護を実践できる基礎的能力を養う。

基礎看護学実習

目　的

入院している対象の健康状態に応じ、看護者と共に看護技術の基本を踏まえて日常生活援助を実践し看護者としての基礎的能力を養う。

目　標

1．入院している対象の状況に応じて適切なコミュニケーションをとり、円滑な人間関係を築くことができる。
2．対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。
3．看護過程のステップを踏みながら、対象の健康上の課題を明確にし、援助の方法を理解できる。
4．既習の日常生活援助技術を安全・安楽に基づき対象へ実施できる。
5．受け持ち対象を通して保健医療福祉チームの連携と看護の役割について理解することができる。
6．実習をとおして自己の看護観を培い、学習意欲を保持しながら実習に取り組むことができる。

実習構成

実習科目	単位（時間数）	実習施設
基礎看護学実習Ⅰ	１単位（45 時間）	病院：13 施設
基礎看護学実習Ⅱ	２単位（90 時間）	病院：14 施設
看護実践ステップアップ実習	２単位（90 時間）	病院：17 施設

科　目　名	基礎看護学実習Ⅰ		
単　位 （時間数）	１単位（45 時間）	履　修　年　次	１年次　前期
分　野	専門分野	授業形態	実習
履修条件	前提条件：臨地実習に関連する科目を履修している		
	その他：「医療者のためのワクチンガイドライン」に基づき麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎およびB型肝炎ワクチンの接種を終了していること		
実習目的	医療施設における看護援助場面の見学をとおして、看護の機能と役割を理解するとともに、看護師としての基本姿勢を養う。		
実習目標	１．対象を尊重し、その気持ちに配慮したコミュニケーションをとることができる。 ２．看護の対象を生活者として捉えることができる。 ３．健康課題を抱える対象の生活の場としての療養環境を理解することができる。 ４．看護師が行う援助の意味を考えながら、安全・安楽な日常生活の援助に参加することができる。 ５．病院内における医療チームの連携や看護の役割について考えることができる。 ６．実習を通して看護について考え、意欲的に実習に取り組むことができる。		
授業概要	基礎看護学実習は「基礎看護学実習Ⅰ」と「基礎看護学実習Ⅱ」「看護実践ステップアップ実習」の３段階で構成されている。 「基礎看護学実習Ⅰ」は、看護が行われている場や対象が過ごしている療養環境、看護の機能と役割の実際を知ることをねらいとしている。		

授業計画：実習展開方法

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
１日目 (5h)	・実習ガイダンス 臨地実習の目的・目標、取り決め 情報管理、健康管理、感染予防、実習の心得 臨地実習における安全 実習展開方法・評価 記録の書き方 ・技術練習		・看護における倫理 ・関係構築のためのコミュニケーション ・医療従事者とその役割	
２日目 (8h)	学内実習 ・受け持ち患者への挨拶・コミュニケーション場面のシミュレーション ・技術練習 標準予防策、環境整備、ベッドメーキング		・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案	実習記録２
３日目 (8h)	・病院・病棟オリエンテーション ・受け持ち患者の紹介、挨拶 ・受け持ち患者とのコミュニケーション	・実習での体験・学び ・病院・病棟環境について	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・プロセスレコードの記載	実習記録２ ワークシート
４日目 (8h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とのコミュニケーション ・ジョブシャドウイング 受け持ち患者の看護援助場面の見学 バイタルサイン測定の見学	・実習での体験・学び ・対象に行われている援助の目的・意味について ・プロセスレコード検討会	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・プロセスレコードの記載 ・看護観の記載	実習記録２ 実習記録９ ワークシート
５日目			・実習の評価・学びの記	実習記録１

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
(8h)	・受け持ち患者の生活について観察、情報収集 ・環境測定、療養環境の整備、ベッドメーキング、標準予防策の実施 ・受け持ち患者から得た情報の報告 ・実習の振り返り		載 ・翌日の行動計画の立案 ・プロセスレコードの追加・修正 ・目標ごとの学びと自己の課題の記載	実習記録２ 実習記録９ ワークシート
６日目 (8h)	学内実習 ・実習での学びをグループごとに振り返り、発表することで、各実習施設・病棟の特徴や学びを共有する ・各実習施設での学びを踏まえ、目標の達成状況・今後の課題についてまとめる		・記録物の修正	実習記録２ 実習記録９ ワークシート

テキスト	実習要綱、臨地実習における取り決め、実習の手引き
参考文献	基礎看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ その他
成績評価	実習レポート 成績規程 別途（実習要綱、実習の手引き）定める実習評価基準に準ずる
備考	

科　目　名	基礎看護学実習Ⅱ		
単　位 （時間数）	２単位（90 時間）	履　修　年　次	１年次　後期
分　野	専門分野	授業形態	実習
履修条件	前提条件：臨地実習に関連する科目履修後に履修している		
	その他：「医療者のためのワクチンガイドライン」に基づき麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎およびB型肝炎ワクチンの接種を終了していること		
実習目的	看護過程のステップを踏みながら、対象の基本的欲求を理解して生活上の援助を行うことで、看護の基礎的能力を養う。		
実習目標	１．対象を尊重し、状況に応じたコミュニケーションを心がけ、円滑な人間関係を築くことができる。 ２．対象を身体的・精神的・社会的側面から把握することができる。 ３．問題解決思考に基づいて援助の必要性を見出し、生活を整える方法を計画することができる。 ４．安全・安楽に配慮した援助を実施できる。 ５．対象を取り巻く保健医療福祉チームの連携と看護が果たす役割を理解することができる。 ６．実習を通して自己の看護観を培い、学習意欲を保持しながら実習に取り組むことができる。		
授業概要	基礎看護学実習は、「基礎看護学実習Ⅰ」と「基礎看護学実習Ⅱ」「看護実践ステップアップ実習」の３段階で構成されている。 「基礎看護学実習Ⅱ」は、基礎看護学実習Ⅰでの学びをもとに、対象への日常生活上の援助を実践する内容とした。また、対象との関わりを通して得た情報を活用して、看護過程の構成要素である「アセスメント」を体験し、看護の基礎的能力を養うことをねらいとしている。		

授業計画：実習展開方法

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
(2h)	・実習ガイダンス 臨地実習の目的・目標、取り決め 実習展開方法・評価 情報管理、健康管理、感染予防、実習の心得 臨地実習における安全 実習記録について		・技術練習	
１日目 (8h)	学内実習 ・技術練習 フィジカルイグザミネーション、日常生活援助 ・実習準備、担当教員との打ち合わせ		・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・発達段階の特徴の整理	
２日目 (8h)	・病院・病棟オリエンテーション ・受け持ち患者の選定・挨拶 ・受け持ち患者とコミュニケーション・情報収集 ・報告	・実習での体験・学び ・受け持ち患者の紹介	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・受け持ち患者の情報の整理 ・疾患学習	実習記録１ 実習記録２ 実習記録３ 実習記録E

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
3日目 (8h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とコミュニケーション ・看護援助場面の見学、または一部実施 ・援助・コミュニケーションを通して情報収集 ・報告	・実習での体験・学び ・受け持ち患者に行われている援助と援助の目的	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・受け持ち患者の情報の整理 ・疾患学習	体温表 実習記録2 実習記録3 実習記録E
4日目 (8h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とコミュニケーション ・病棟の計画に基づいて看護師とともに援助を実施 ・援助・コミュニケーションを通して情報収集 ・報告	・実習での体験・学び ・受け持ち患者の疾患による身体や生活への影響（入院前後の生活の変化、社会的役割の変化、今の思いなど）	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・受け持ち患者の情報の整理	体温表 実習記録2 実習記録3 実習記録E
5日目 (8h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とコミュニケーション ・病棟の計画に基づいて看護師とともに援助を実施 ・援助・コミュニケーションを通して情報収集 ・報告	・本日までの実習をふり返り、実習内容や記録などを担当教員と確認する	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・受け持ち患者の情報の整理と解釈・分析	体温表 実習記録2 実習記録3 実習記録E
6日目 (8h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とのコミュニケーション ・学生が考えた計画に基づいて看護師とともに援助を実施 ・援助を通して情報収集 ・報告	・実習での体験・学び ・目標の達成状況と自己の課題（中間評価）	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・受け持ち患者のアセスメントの追加・修正	体温表 実習記録2 実習記録3 実習記録E
7日目 (8h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とのコミュニケーション ・学生が考えた計画に基づいて看護師とともに援助を実施 ・援助を通して情報収集 ・報告 ・ケースカンファレンス「受け持ち患者の全体像について」	・援助を実施してのふり返り、翌日の援助に向けて（患者の反応を踏まえて、客観的にふり返る）	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・受け持ち患者のアセスメントの追加・修正 ・社会資源について調べ学習	体温表 実習記録2 実習記録3 実習記録E
8日目 (8h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とのコミュニケーション ・学生が考えた計画に基	・実習での体験・学び ・受け持ち患者が活用している社会資源と退院後の生活・継続看護の	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案	体温表 実習記録2 実習記録3 実習記録E

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
	づいて看護師とともに援助を実施 ・援助を通して情報収集 ・報告	必要性について	・受け持ち患者のアセスメントの追加・修正	
9日目 (8h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とのコミュニケーション ・学生が考えた計画に基づいて看護師とともに援助を実施 ・援助を通して情報収集 ・報告	・実習での体験・学び ・受け持ち患者を支える多職種の役割と連携方法（看護師間の連携・協働も含む）	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・受け持ち患者のアセスメントの追加・修正 ・最終カンファレンスに向けての準備	体温表 実習記録２ 実習記録３ 実習記録E
10日目 (8h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とのコミュニケーション ・学生が考えた計画に基づいて看護師とともに援助を実施 ・援助を通して情報収集 ・報告 ・最終カンファレンス「実習での学びとなりたい看護師像」	・実習での体験・学び ・医療チームの中の看護の役割について	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・受け持ち患者のアセスメントの追加・修正 ・目標ごとの学びと自己の課題の明確化	体温表 実習記録１ 実習記録２ 実習記録３ 実習記録E
11日目 (8h)	学内実習 ・各実習施設・病棟の概要や学びについて発表し、施設間での違いを共有する ・受け持ち患者の看護過程（看護実践）について発表し、客観的に自己の看護を振り返る ・発表会をとおしての学び		・記録物の修正	実習記録２ 実習記録３ 実習記録E ワークシート

テキスト	実習要綱、臨地実習における取り決め、実習の手引き
参考文献	基礎看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護総論 その他
成績評価	実習レポート 成績規程 別途定める実習評価基準に準ずる
備考	

科　目　名	看護実践ステップアップ実習		
単　位 （時間数）	２単位（90 時間）	履　修　年　次	２年次　前期
分　野	専門基礎	授業形態	実習
履修条件	前提条件：臨地実習に関連する科目を履修している		
	その他：「医療者のためのワクチンガイドライン」に基づき麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎およびB型肝炎ワクチンの接種を終了していること		
実習目的	対象の健康上の課題に対応するために看護過程を活用しながら看護を実践し、看護師としての基礎的能力を養う。		
実習目標	１．対象を尊重し、適切なコミュニケーションを心がけ、円滑な人間関係を築くことができる。 ２．対象を身体的・精神的・社会的側面から生活者として捉えることができる。 ３．看護過程を活用し、対象の健康上の課題に応じた看護を実践するための思考過程を身につける。 ４．対象の反応をとらえながら、立案した看護を安全・安楽に実践できる。 ５．対象を支える保健医療福祉チームの連携と看護が果たす役割を理解することができる。 ６．実習を通して自己の看護観を培い、主体的に実習に取り組むことができる。		
授業概要	基礎看護学実習は、「基礎看護学実習Ⅰ」と「基礎看護学実習Ⅱ」「看護実践ステップアップ実習」の３段階で構成されている。 「看護実践ステップアップ実習」では、入院している対象の健康上の課題に焦点を当て、看護過程のステップを踏みながら看護を実践する内容とした。		

授業計画：実習展開方法

日程	臨地実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
(2h)	・実習ガイダンス 臨地実習の目的・目標、取り決め 情報管理、健康管理、感染予防、実習の心得 臨地実習における安全 実習展開方法・評価 記録の書き方		・実習要綱に記載してある目的・目標の確認	
１日目 (8h)	学内実習 ・技術練習 フィジカルイグザミネーション、日常生活援助 ・実習準備、担当教員との打ち合わせ		・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案	実習記録２
２日目 (8h)	・病院・病棟オリエンテーション ・受け持ち患者の選定・挨拶 ・受け持ち患者の情報収集・コミュニケーション ・報告	・実習での体験・学び ・受け持ち患者の紹介 観察・情報収集した内容（入院目的、現病歴、療養環境など）を発表する	・オリエンテーションのまとめ ・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・受け持ち患者の情報の整理 ・疾患・治療・検査・看護についての調べ学習	実習記録２ 実習記録３
３日目	・申し送りへの参加	・実習での体験・学び	・実習の評価・学び	実習記録２

日程	臨地実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
(8h)	・受け持ち患者とコミュニケーション ・看護援助場面の見学、一部実施 ・援助・コミュニケーションを通して情報収集 ・カルテから情報収集 ・報告		の記載 ・翌日の行動計画の立案 ・受け持ち患者の情報の整理	実習記録3
4日目 (8h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とコミュニケーション ・計画に基づいて看護師とともに援助を実施 ・援助・コミュニケーションを通して情報収集 ・カルテから情報収集 ・報告	・実習での体験・学び	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・受け持ち患者のアセスメント ・患者の全体像の把握 ・看護問題の抽出 ・看護計画の立案	実習記録2 実習記録3 実習記録4 実習記録5 実習記録6
5日目 (8h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とコミュニケーション ・計画に基づいて看護師とともに援助を実施 ・援助・コミュニケーションを通して情報収集 ・カルテから情報収集 ・報告	・プレケースカンファレンス	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・受け持ち患者のアセスメント ・患者の全体像の把握 ・看護問題の抽出 ・看護計画の立案 ・記録の追加・修正	実習記録2 実習記録3 実習記録4 実習記録5 実習記録6
6日目 ～ 7日目 (16h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とのコミュニケーション ・看護計画に基づいて看護師とともに援助を実施 ・援助を通して情報収集 ・カルテから情報収集 ・ケースカンファレンス ・報告	・実習での体験・学び ・目標の達成状況と自己の課題（中間評価）	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・記録の追加・修正 ・看護計画の確認	実習記録2 実習記録3 実習記録4 実習記録5 実習記録6 実習記録7
8日目 ～ 9日目 (16h)	・申し送りへの参加 ・受け持ち患者とのコミュニケーション ・看護計画に基づいて看護師とともに援助を実施 ・援助を通して情報収集 ・カルテから情報収集 ・報告 ・最終カンファレンス	・実習での体験・学び ・援助を実施しての学びと振り返り、翌日の援助に向けて ・実習での体験・学び	・実習の評価・学びの記載 ・翌日の行動計画の立案 ・記録の追加・修正 ・実施した援助の評価 ・最終カンファレンスに向けての準備	実習記録2 実習記録3 実習記録4 実習記録5 実習記録6 実習記録7

日程	臨地実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
	「看護過程を展開するとはどういうことか～受け持ち患者を通しての学びと自己の課題～」			
10 日目 （8ｈ）	学内実習 ・ グループ間での学びの共有 ・ 発表会の準備 ・ 評価記録の記述	・ 受け持ち患者を支える多職種の役割と連携方法（看護師間の連携・協働も含む）	・ 実習の評価・学びの記載 ・ 翌日の行動計画の立案 ・ 記録の追加・修正 ・ 実施した援助の評価 ・ 看護問題の評価	実習記録２ 実習記録３ 実習記録４ 実習記録５ 実習記録６ 実習記録７ 実習記録８
11 日目 （8ｈ）	学内実習 ・ 受け持ち患者の看護過程（看護実践）について発表し、客観的に自己の看護を振り返る ・ 発表会を通しての学び		・ 記録の追加・修正	実習記録１ 実習記録２ 実習記録３ 実習記録４ 実習記録５ 実習記録６ 実習記録７ 実習記録８

テキスト	実習要綱、実習の手引き、臨地実習における取り決め
参考文献	基礎看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、臨床看護総論 その他
成績評価	実習レポート 成績規程 別途定める実習評価基準に準ずる
備考	

地域・在宅看護論実習

目　的

地域の中で生活する人々の健康の維持・増進の在り方と看護の実際を学び、看護師としての基礎的能力を養う。

目　標

1．地域で生活している人とその家族を尊重し、円滑な人間関係を築く態度を養う。
2．健康を保持しながら地域で生活する人を生活者として捉え、統合的に理解できる。
3．地域で生活する人や家族の自立性を理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践するための思考過程を身につける。
4．地域で生活する人や家族の安全安楽に配慮し、健康の保持・増進に向けた援助を実施できる。
5．地域の特徴を理解し、地域で生活する人を支えるために必要な社会資源と関係機関との連携を学び、メンバーとして自覚した行動ができる。
6．地域で生活する人の健康支援の在り方を考え、継続して支援する姿勢を養う。

実習構成

実習科目	単位（時間数）	実習施設
健康支援を知る実習	2 単位（90 時間）	健診センター：6 施設 地域包括支援センターなど：5 施設 介護多機能ホーム、デイサービス、介護老人保健施設など：施設 障がい者就労施設：2 施設 児童放課後デイ、児童館、学童クラブ、子育て支援センターなど： 産後ケア施設、だみりーサポートセンター、助産所など：
地域・在宅看護論実習	2 単位（90 時間）	訪問看護ステーション：28 施設 居宅介護支援事業所：20 施設

科　目　名	健康支援を知る実習		
単　位 （時間数）	2 単位（90 時間）	履　修　年　次	2 年次　通年
分　野	専門分野	授業形態	実習
履修条件	前提条件：臨地実習に関連する科目を履修している		
	その他：「医療者のためのワクチンガイドライン」に基づき麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎およびB型肝炎ワクチンの接種を終了していること		
実習目的	地域の中で生活する人々を捉え、人々の健康を維持・増進するための支援の在り方を学び、看護師としての基礎的能力を養う。		
実習目標	１．地域で生活する人を尊重し、地域で生活する人々の中で円滑な人間関係を築く力を身につける。 ２．健康を保持しながら地域で生活する人を生活者として理解できる。 ３．地域で生活する人の健康を保持・増進するための支援について理解できる。 ４．地域で生活する人の健康の保持・増進に向けた支援に参加できる。 ５．健康の保持・増進にむけて地域の特徴と関係する人々を理解し、地域で生活する人を支えるメンバーとして自覚した行動ができる。 ６．地域で生活する人の健康支援の在り方を考え、継続して支援する姿勢を身につける。		
授業概要	地域・在宅看護論実習では、地域で生活している対象とその家族を理解し、その人らしい生活や自立支援をするための基礎的能力を養うことをねらいとしている。 地域で生活する対象は、小児期から老年期まで様々な発達段階の対象であることや健康状態もさまざまであることを捉える。 また、地域で生活する対象とその家族を支えるための制度や多職種連携の必要性、支援方法について学ぶ内容とし、「健康支援を知る実習」「地域・在宅看護論実習」と二部構成となっている。 「健康支援を知る実習」では、さまざまな発達段階の対象に対し、健康の保持増進や自立に向けてどのような制度や施設、多職種が連携して支援しているかを学ぶ内容とした。		

授業計画：実習展開方法

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
6ｈ	・実習ガイダンス 臨地実習の目的・目標、取り決め 実習の心得 実習展開方法・評価 記録の書き方 看護学生としての接遇・マナー		倫理原則 行動計画の立案 関連する法規の調べ学習（事前学習）	事前学習
70ｈ	・６クールで展開 ・成人・老年・母性・小児・精神・地域在宅看護関連施設で実習		事前課題	ワークシート用紙
14ｈ	・実習での学びをグループごとに振り返り、全体で発表することで、学習を深めるとともに各実習施設の特徴を学ぶ。 ・各実習施設での学びを踏まえ、目標の達成状況・今後の課題についてまとめる。 実習評価		・ ・記録物の提出 ・実習の評価	グループの発表資料（成果物） 個人レポート

テキスト	実習要綱、実習の手引き、臨地実習における取り決め
参考文献	その他
成績評価	実習レポート 成績規程 別途定める実習評価基準に準ずる
備考	

科　目　名	地域・在宅看護論実習		
単　位 （時間数）	2 単位（90 時間）	履　修　年　次	3 年次　通年
分　野	専門分野	授業形態	実習
履修条件	前提条件：臨地実習に関連する科目を履修している		
	その他：「医療者のためのワクチンガイドライン」に基づき麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎およびB型肝炎ワクチンの接種を終了していること		
実習目的	地域で生活している療養者とその家族を理解し、看護の実際を経験することにより、その人らしい生活や自立を援助するための基礎的能力を養う。		
実習目標	１．地域で生活している療養者とその家族を尊重し、円滑な人間関係を築くための態度を養う。 ２．療養者とその家族を生活者として捉える視点を持ち、対象を統合的に理解できる。 ３．療養者とその家族の希望や自立性を考慮し、科学的根拠に基づいた看護を実践するための思考過程を身につける。 ４．安全・安楽に配慮し、療養者とその家族の希望や自立性を考慮した援助を習得する。 ５．社会資源の活用、関係機関との連携・協働について学び、保健医療福祉における看護師の役割を理解し、メンバーとして自覚した行動がとれる。 ６．看護実践での自己課題を持ち、主体的に学習する態度を養う。		
授業概要	地域・在宅看護論実習では、地域で生活している療養者とその家族を理解し、その人らしい生活や自立支援をするための基礎的能力を養うことをねらいとしている。 地域で生活する療養者は、小児期から老年期まで様々な発達段階の対象であることや健康状態もさまざまであることを捉える。 「地域・在宅看護論実習」は、訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所での実習を通して地域で生活している療養者とその家族を理解し、その人らしい生活や自立を支援する方法について在宅での工夫や社会資源の活用、多職種連携など具体的支援方法の実際を学ぶ内容とした。		

授業計画：実習展開方法

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
（２ｈ）	実習ガイダンス ・臨地実習の目的・目標、取り決め ・実習の心得 ・実習展開方法・評価 ・記録の書き方 ・看護学生としての接遇・マナー ・担当者オリエンテーション ・受け持ち利用者の情報確認		【事前課題①】 ・11 項目の社会資源について 【事前課題②】 ・受け持ち利用者の疾患や市町村のサービス ・行われている援助（順書）作成	PC ワード可
１日目 （８ｈ）	・オリエンテーション ・受け持ち利用者紹介 ・情報収集、情報整理	・カンファレンス ・学びの共有 「受け持ち利用者についての情報交換」	・情報整理 ・実習評価、学び ・翌日の行動計画	実習記録１ 実習記録２ 実習記録３

<table>
<tr><th>日程</th><th>実習内容</th><th>研修内容</th><th>課題学習</th><th>記録用紙</th></tr>
<tr><td>２日目
（８ｈ）</td><td rowspan="2">・対象とその家族とのコミュニケーション
・受け持ち利用者・家族の看護援助場面の見学、又は一部実施
・受け持ち以外の対象者宅への同行訪問看護援助場面の見学、又は一部実施
・看護計画立案、ケースカンファレンス
(5～6 日目で実施)</td><td>・カンファレンス、学びの共有
「初回訪問からの学び」
・翌日の同行訪問者の情報収集</td><td rowspan="2">・受け持ち対象者の情報整理と船体像
・看護問題の抽出と計画立案
・支援体制図の作成
・実習評価、学び
・翌日の行動計画</td><td>実習記録１
実習記録２
実習記録３
実習記録４
実習記録 12</td></tr>
<tr><td>３日目
（８ｈ）</td><td>・カンファレンス、学びの共有
「受け持ち、受け持ち外訪問を通しての学び」
「受け持ち利用者の援助の方向性」
・翌日の同行訪問者の情報収集</td><td>実習記録
２～６
実習記録 10
実習記録 12
実習記録 13</td></tr>
<tr><td>４日目
（８ｈ）
学内日</td><td>・プレケースカンフレンス</td><td>「アセスメント、看護問題、計画立案、支援体制図の加筆・修正」</td><td>・実習評価、学び
・翌日の行動計画</td><td>実習記録
２～６
実習記録 10
実習記録 12</td></tr>
<tr><td>５日目
（８ｈ）</td><td>・ケースカンファレンス
(5～6 日目で実施)</td><td>・ケースカンファレンス
「アセスメント、看護問題、計画立案、支援体制図を報告し、２週目実施計画について検討」</td><td>・アセスメント、看護問題、計画立案、支援体制図の追加
・実習評価、学び
・翌日の行動計画</td><td>実習記録
２～６
実習記録 12</td></tr>
<tr><td>６日目
（８ｈ）
７日目
（８ｈ）
８日目
（８ｈ）</td><td>・受け持ち対象者・家族の看護計画に基づき援助実施
・援助を通して評価・修正)
・受け持ち以外の対象者宅への同行訪問</td><td>・カンファレンス、学びの共有
・翌日の受け持ち外訪問者の情報収集</td><td>・受け持ち対象者に関する情報から看護系かつまで追加・修正
・実習評価、学び
・翌日の行動計画</td><td>実習記録2～7
実習記録 10
実習記録 12
実習記録 13</td></tr>
<tr><td>９日目
（８ｈ）</td><td>・実習での学び、看護実践をとおしての振り返り、今後の課題をまとめて発表</td><td>・カンファレンス、学びの共有
「最終カンファレンスを通しての学び」</td><td>・実習評価、学び
・翌日の行動計画
・目標ごとの学びへの追加</td><td>実習記録1～8
実習記録 12</td></tr>
<tr><td>10 日目
（８ｈ）</td><td colspan="2">【居宅介護支援事業所実習】
・オリエンテーション、・サービス担当者会議への参加、・モニタリング等の同行訪問</td><td>・オリエンテーションの学び
・実習評価、学び</td><td>実習記録１
実習記録２</td></tr>
<tr><td>11 日目
（８ｈ）</td><td colspan="3">【学内実習】
・各訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所での学び、看護実践の学び、情報交換、発表会資料の作成
・各訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所での学びの発表会
・記録物の整理、実習評価、　・自己課題の明確化今及び、今後の対策</td><td>実習記録1～8
実習記録 10
実習記録 12
実習記録 13</td></tr>
</table>

テキスト	実習要綱、実習の手引き、臨地実習における取り決め
参考文献	地域・在宅看護の基盤、地域・在宅看護の実践、その他
成績評価	実習レポート 成績規程、別途定める実習評価基準に準ずる
備考	

成人・老年看護学実習

目　的

成人・老年期にある対象の特徴を捉え、健康上の課題を抱えている対象の看護実践に必要な基礎的能力を養う。

目　標

1．成人・老年期にある対象を尊重し、人間関係を円滑にするための能力を身につける。
2．成人・老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から統合された生活者として理解する。
3．成人・老年期にある対象の健康上の課題を科学的根拠に基づき、看護を実践するための思考過程を身につける。
4．成人・老年期にある対象の健康の状態に応じた看護の実践ができる能力を身につける。
5．看護を通して、保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割を理解し、メンバーとして自覚した行動がとれる。
6．看護に対する考えを深め、主体的に学習する能力を身につける。

実習構成

実習科目	単位 (時間数)	内訳	実習施設
成人・老年看護学実習Ⅰ （回復期にある対象の看護）	２単位 (90 時間)	成人看護学: 1 単位(45 時間) 老年看護学: 1 単位(45 時間)	病院 : 15 施設
成人・老年看護学実習Ⅱ （慢性期・終末期にある対象の看護）	２単位 (90 時間)	成人看護学: 1 単位(45 時間) 老年看護学: 1 単位(45 時間)	病院 : 12 施設
成人・老年看護学実習Ⅲ （急性期・周手術期にある対象の看護）	２単位 (90 時間)	成人看護学: 1 単位(45 時間) 老年看護学: 1 単位(45 時間)	病院 : 8 施設

科　　目　　名	成人・老年看護学実習Ⅰ(回復期にある対象の看護)		
単　位 (時間数)	2 単位（90 時間）	履修年次	2 年次　後期
分　　野	専門分野	授業形態	実習
履修条件	前提条件：臨地実習に関連する科目を履修している		
	その他：「医療者のためのワクチンガイドライン」に基づき麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎およびB型肝炎ワクチンの接種を終了していること		
実習目的	回復期にある対象の健康上の課題及び生活上の課題を理解し、日常生活適応への看護を実践する基礎的能力を養う。		
実習目標	１．対象の価値観を受け止め、尊重した態度でコミュニケーションをとり関係を築くことができる。 ２．発達段階の特徴を捉え、回復期にある対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する。 ３．健康上の課題や生活機能障害を把握し、科学的根拠に基づいた看護を実践するための思考過程を身につける。 ４．対象の健康状態・生活機能に応じた日常生活を整える援助を実施できる。 ５．対象の生活を支える保健医療福祉チームの連携と看護の役割について理解する。 ６．看護に対する考えを深め、主体的な学習への取り組みができる。		
授業概要	「成人・老年看護学実習Ⅰ」では、回復期にある対象の特徴を捉え、健康上の課題を抱えている対象の看護実践に必要な基礎的能力を学ぶ内容としている。		

授業計画：実習展開方法

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
(2ｈ)	実習ガイダンス ・臨地実習の目的・目標、取り決め ・情報管理、健康管理、感染予防、実習の心得 ・臨地実習における安全 ・実習展開方法・評価 ・記録の書き方		・実習目的・目標の確認	
１日目 (8ｈ)	学内実習 ・ＦＩＭの理解 ・技術練習　・報告シミュレーション 病院・病棟の機能と役割について調べ学習 ・病棟に多い疾患の学習または受け持ち患者の疾患学習			実習記録２
２日目 (8ｈ)	・病棟オリエンテーション ・患者選定：情報収集 ・指導者・担当教員と日常生活の援助見学・実施	・情報の整理	・オリエンテーションのまとめ ・１日の評価 ・翌日の行動計画立案 ・ＦＩＭ評価（３日目までに）	実習記録１ (必要時) 実習記録２ 実習記録３ ＦＩＭ評価表
３日目 (8ｈ)	・対象とコミュニケーションを図りながら情報収集 ・対象の援助を通して情報	・実習報告・情報共有 ・受け持ち患者の紹介 ・ＦＩＭの根拠	・情報の整理 ・アセスメント ・１日の評価	実習記録 ２～６

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
４日目 ～ ６日目 (24ｈ)	収集 ・指導者・担当教員と日常生活の見学および援助実施		・翌日の行動計画立案 ・全体像の整理・看護計画立案	
	・行動計画に基づく援助を実施 ・ケースカンファレンス	・中間評価	・アセスメント、全体像、看護計画の追加、修正 ・１日の評価 ・翌日の行動計画立案 ・中間の振り返（中間自己評価）	実習記録２～４・６ 実習記録10-①・②
７日目 ～ ９日目 (24ｈ)	・看護計画に基づき援助実施 ・対象の健康状態に応じた看護 ・対象の生活を支える援助を実施	・社会資源の活用・継続看護の必要性 ・自己の看護の振り返り	・看護計画の評価、修正 ・経過記録（SOAPIE） ・１日の評価 ・翌日の行動計画立案 ・実習内容を振り返り、看護観をまとめる	実習記録２～７
10 日目 (8ｈ)	・最終カンファレンス 「回復期にある対象への看護観」 ・看護計画に基づき実践・計画の追加、修正 ・看護過程の評価 ・ＦＩＭ評価（２回目）	・発表会の準備	・１日の評価 ・翌日の行動計画立案 ・記録整理 ・発表に向けた準備 ・目標ごとの学び	実習記録１ 実習記録２ 実習記録７ ＦＩＭ評価表 ワークシート
11 日目 (8ｈ)	学内実習 ・共有学習 「回復期にある対象への看護」の実践をプレゼンテーション ・面談			実習記録２ ワークシート 実習記録ファイル提出

テキスト	実習要綱、実習の手引き、臨地実習における取り決め
参考文献	成人看護学総論、老年看護学、老年看護　病態・疾患論 その他
成績評価	実習レポート 成績規程 別途定める実習評価基準に準ずる
備考	

科　目　名	成人・老年看護学実習Ⅱ（慢性期・終末期にある対象の看護）		
単　位 （時間数）	2 単位（90 時間）	履修年次	2 年次　後期
分野	専門分野	授業形態	実習
履修条件	前提条件：臨地実習に関連する科目を履修している		
	その他：「医療者のためのワクチンガイドライン」に基づき麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎およびB型肝炎ワクチンの接種を終了していること		
実習目的	慢性的な揺らぎの再調整から人生最期のときを過ごす成人・老年期の対象を理解し、意志・意欲の維持、健康状態に応じた看護が実践できる能力を養う。		
実習目標	１．対象の価値観を受け止め、尊重した態度でコミュニケーションをとり関係を築くことができる。 ２．慢性的な揺らぎから人生最期のときを過ごす対象を統合された生活者として理解できる。 ３．対象の健康状態を踏まえ、科学的根拠に基づいた看護を実践するための思考過程を身につける。 ４．対象の健康状態に応じたセルフマネジメント及び安寧を促進する援助が実施できる。 ５．対象の生活を支える保健医療福祉チームの連携と役割について理解する。 ６．看護に対する考えを深め、主体的な学習への取り組みができる。		
授業概要	「成人・老年看護学実習Ⅱ」では、成人・老年期にある対象の特徴を捉え、健康上の課題を抱えている対象の看護実践に必要な基礎的能力を学ぶ内容としている。		

授業計画：実習展開方法

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
１日目	・実習ガイダンス 臨地実習の目的・目標、取り決め 情報管理、健康管理、感染予防、実習の心得 臨地実習における安全 実習展開方法・評価 記録の書き方			実習記録２
２日目	・病棟オリエンテーション ・患者選定 ・情報収集	・実習報告・情報共有 ・受持ち患者紹介	・オリエンテーションのまとめ ・1日の評価・記録 ・翌日の行動計画立案	実習記録１ 実習記録２ 実習記録３
３日目 ～ ４日目	・対象とコミュニケーションを図りながら情報収集 ・行動計画に基づく看護援助や処置の見学、実施を通して情報収集	・実習報告・情報共有 「さまざまな健康状態にある対象の理解」（病みの軌跡・対象の強み）	・情報の整理 ・アセスメント ・1日の評価・記録 ・翌日の行動計画立案 ・全体像の整理・看護計画立案	実習記録 ２～４・６

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
５日目	・学生ケースカンファレンス ・看護計画に沿って援助実施 ・指導者を交えて学生主導でカンファレンスを進める	・看護計画評価・修正 ・翌日の行動計画立案	・情報の関連を考えアセスメント ・看護計画評価・修正 ・翌日の行動計画立案	実習記録２～４・６
６日目 ～ ９日目	・看護計画に沿って援助実施 ・対象の健康状態に応じた看護 ・対象の生活を支え、セルフケアに向けた援助実施 ・病棟最終カンファレンス ※指導者参加のもと実習の振り返りを行う	・中間評価 「受け持ち患者への具体的な支援方法」 「学生でテーマを決める」 ・病棟最終日前日は、看護観をまとめる ・看護の最終評価、振り返り	・看護計画の評価修正 ・経過記録(SOAPIE) ・翌日の行動計画立案 ９日目：実践した看護を振り返り、看護観をまとめる	実習記録２～４・６・７ 実習記録10-① 実習記録10-②
10 日目	外来・透析室実習 ・オリエンテーション・見学 ・多職種連携 (詳細は要綱参照)	オリエンテーションまとめ・情報共有・学びの共有	・記録の整理 ・発表に向けた準備	実習記録1・2 見学実習メモ用紙
11 日目	「対象の健康状態に応じた看護」実践した看護のプレゼンテーションに参加し学習の共有を行う。 ・面談		・学内発表 ・記録の整理 ・面談	学内発表用紙 実習記録２

テキスト	実習要綱、実習の手引き、臨地実習における取り決め
参考文献	成人看護学総論、老年看護学、老年看護　病態・疾患論、がん看護学 その他
成績評価	実習レポート 成績規程 別途定める実習評価基準に準ずる
備考	

科　　目　　名	成人・老年看護学実習Ⅲ（急性期・周手術期にある対象の看護）		
単　位 （時間数）	2 単位（90 時間）	履修年次	3 年次　通年
分　　野	専門分野	授業形態	実習
履修条件	前提条件：臨地実習に関連する科目を履修している		
	その他：「医療者のためのワクチンガイドライン」に基づき麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎およびB型肝炎ワクチンの接種を終了していること		
実習目的	健康の急激な破綻から周手術期にある対象を理解し、機能回復および生活活動の維持、日常生活への復帰に向けての看護が実践できる能力を養う。		
実習目標	１．対象の健康の急激な破綻から回復への期待と不安の思いを受け止め、関係性を築くことができる。 ２．健康生活の急激な破綻から周手術期にある対象を統合的に理解する。 ３．対象の健康上の課題を把握し、根拠に基づき、看護を実践するための思考過程を身につける。 ４．周手術期にある対象の回復段階にあわせ、回復促進に向けた援助が実施できる。 ５．看護を通して保健医療福祉チームの連携と役割を理解できる。 ６．看護に対する考えを深める、主体的な学習への取り組みができる。		
授業概要	「成人・老年看護学実習Ⅲ」では、急性期や周手術期の健康生活の急激な破綻から回復にある対象を理解し、機能回復及び社会復帰に向けての看護が実践できる能力を学ぶ内容とした。		

授業計画：実習展開方法

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
（2ｈ）	・実習ガイダンス 臨地実習の目的・目標、取り決め 情報管理、健康管理、感染予防、実習の心得 臨地実習における安全 実習展開方法・評価 記録の書き方		・実習目標の確認	記録１
１日目 （8ｈ）	・病棟・手術室オリエンテーション ・患者選定、情報収集 ・受け持ち患者紹介	・実習報告 ・情報共有 ・受け持ち患者紹介	・オリエンテーションのまとめ ・１日の評価・記録 ・翌日の行動計画立案	記録 １～３
２日目 ～ ３日目 （16ｈ）	・行動計画に基づく援助 ・患者とコミュニケーションをとりながら情報収集 ・看護師とともに援助を通して情報収集 ・実習計画に沿った情報収集 ・患者のケアや処置の見学 ・指導者へアセスメントの視点や看護の方向性の確認、相談	・実習報告 ・情報共有 ・「受持ち患者の疾患レクチャー」 ・「身体侵襲から回復にむけた援助について」	・情報の関連を考えアセスメント ・１日の評価・記録 ・翌日の行動計画立案 ・全体像の整理・看護計画立案	記録 １～６
４日目 （8ｈ）	・行動計画に基づく援助 ・実習計画に沿った情報収集ができたかどうか報告を行い、指導者へ確認と相談。	・実習報告 ・情報共有 ・「術後合併症の観察・術後感染予防・ドレーン管	・情報の関連を考えアセスメント ・翌日の行動計画立案	記録 ２～６

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
		理・周手術期看護について」		
5日目 ～ 7日目 (24h)	・看護計画に沿って援助実施 ・5日目：中間評価 ・身体侵襲から回復に向けた援助 ・心身の苦痛・不快の緩和にむけた援助	・実習報告 ・情報共有 ・「対象をとりまく多職種連携・看護の役割」 ・「対象に必要な社会資源と継続看護」 ・「周手術期における看護、回復を促進する援助」	・看護計画の評価修正 ・経過記録 ・翌日の行動計画立案 ・7日目：「健康の急激な破綻から回復にむけた看護」について自己の行った看護振り返り、看護観をまとめる。	記録 2～7 記録10
8日目 (8h)	・病棟最終カンファレンス ＊指導者参加のもとに実習の振り返りを行う。	・実習報告 ・情報共有 ・手術室・ICU見学の打ち合わせ	・看護計画の評価 ・翌日の行動計画立案	
9日目 ～ 10日目 (16h)	・手術室見学実習 ・ＩＣＵ見学実習	・「手術室・ICUにおける看護・多職種連携、チーム医療の連携について」	・1日の評価・記録 ・翌日の行動計画立案 ・記録の整理 ・発表に向けた準備	記録2
11日目 (8h)	・学内発表 ・「周手術期における看護、回復を促進する援助」について実践した看護のプレゼンテーションに参加し学習の共有を行う。		・目標1～6の学び ・面談	記録2

テキスト	実習要綱、実習の手引き、臨地実習における取り決め
参考文献	成人看護学総論、老年看護学、老年看護　病態・疾患論、講義から演習へ　周手術期看護2　術中／術後の生体反応と急性期看護 その他
成績評価	実習レポート 成績規程 別途定める実習評価基準に準ずる
備考	

科　目　名	小児看護学実習		
単　位 (時間数)	2 単位（90 時間）	履修年次	3 年次　通年
分　　野	専門分野	授業形態	実習
履修条件	前提条件：臨地実習に関連する科目を履修している		
	その他：「医療者のためのワクチンガイドライン」に基づき麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎およびB型肝炎ワクチンの接種を終了していること		
実習目的	成長・発達過程にある子どもを全人的に捉え、さまざまな健康状態にある子どもと家族の健康の保持・増進・回復に向けて、看護を実践するために必要な基礎的能力を養う。		
実習目標	１．子どもを一人の人間として尊重し、子どもや家族とより良い関係を築くことができる。 ２．成長・発達過程にある小児各期の特徴を捉え、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる。 ３．子どもと家族を対象に、科学的根拠に基づいた看護を実践するための思考過程が理解できる。 ４．子どもの発達過程及び健康状態に応じた日常生活の援助や小児看護技術を実践できる。 ５．子どもと家族を取り巻く保健医療福祉および教育の連携と看護の役割について理解ができる。 ６．主体的に実習に取り組む姿勢で臨み、看護実践を通して自己の看護観を深めることができる。		
授業概要	小児看護学実習では、既習学習を基盤に、子どもを全人的にとらえ、子どもが本来持っている力が発揮できるように子どもと家族を支援していくために必要な基礎的能力を養うことをねらいとする。そのため、さまざまな健康状態にある子どもと家族への看護の実際を学ぶため、学習の場を広く設定し、それぞれの学生が成長・発達の過程にある子どもや家族と関わりを通し、小児看護の実際を学ぶ内容とした。		
実習施設	病院：7 施設 児童デイサービス：６施設　　ほか		

授業計画：実習展開方法

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
(2ｈ)	・実習ガイダンス：施設のオリエンテーション 臨地実習の目的・目標、取り決め 情報管理、健康管理、感染予防、実習の心得 臨地実習における安全、実習展開方法・評価 記録の書き方 ＊視聴覚教材での事前学習		①発達段階の振り返り ②技術手順書の振り返り ③実習オリエンテーション資料・実習要綱を熟読し実習に必要な資料の整理・準備	実習記録 １
１日目 (8ｈ)	**【病棟・福祉施設実習】** ・施設見学・全体オリエンテーション ・受け持ち児選定、紹介情報収集	・カンファレンス 「受持ち児の紹介」	①本日の実習の評価 ②翌日の行動計画立案 ③受け持ち患児の疾患学習 ④情報整理	実習記録 １．２
２日目 ～ ４日目 (24ｈ)	・行動計画発表、調整 ・子どもや家族とよりよい援助関係の形成 ・日常生活の援助の実施 ・ケースカンファレンス	・カンファレンス 「子どもと家族とよりよい援助関係を形成する目的、子どもや家族とのより	①本日の実習の評価 ②翌日の行動計画立案 ③情報の整理、解釈・分析 ④関連統合、全体像の整理・看護計画立案	実習記録 １・２～６ 実習記録 10－① ＊必要時

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
	・看護計画に添った援助の実施 ・実施の報告・連絡	良い援助関係に向けて工夫したこと」 「子どもの安全を守る環境や援助について」 「受け持ち児の社会資源の活用」 「多職種連携における看護の役割と継続看護について」	⑤指導案作成、パンフレット等の作成 ⑥看護計画の追加・修正 ⑦経過記録のまとめ ⑧病棟実習の振り返り（目標１～６）	10ー②
５日目 (8h)	・看護計画に沿った援助の実際、評価 ・最終カンファレンス 臨地実習の学び、目標達成度および今後の課題について	・看護計画の評価、追加・修正	①本日の実習の評価 ②翌日の行動計画立案 ③実習記録の追加・修正 ④実習の振り返り（目標１～６）のまとめ	実習記録 ２～７
１日 （８ｈ）	**【外来実習】** ・実習要綱を参照し実習展開	・カンファレンス 「小児科外来での多職種連携・外来看護師の役割と学び」	①本日の実習の評価 ②翌日の行動計画立案	実習 記録２
１日 （８ｈ）	【児童デイサービス実習】 ・実習要綱を参照し実習展開	・カンファレンス 「児童デイサービスでの多職種連携・児童デイでの看護師の役割と学び」	①本日の実習の評価 ②翌日の行動計画立案	実習 記録２
３日 (24h)	**【学内実習】** ・視聴覚教材の視聴 ・受け持ち児の援助技術のシミュレーション（バイタルサイン測定・身体計測技術） ・小児看護学の知識の振り返り（豆テスト）	・技術練習 ・児童デイサービス実習・小児外来実習に向けての事前学習 ・病棟実習に向けての知識・技術の振り返り	①本日の実習評価 ②翌日の行動計画立案 ③発表会に向けての実習記録の追加・修正 ④看護観のまとめ	実習記録 ２～７
11日目 (8h)	学内実習 ・小児看護学の知識の共有学習 ・実習目標達成状況の振り返り ・小児看護学実習学びの発表会	・カンファレンス 「小児看護学実習の学び」 実習目標の達成状況と今後の課題の明確化	①本日の実習の評価 ②発表会の準備・振り返り ③実習記録の追加・修正 ④実習評価表 ⑤技術到達度の確認・記入 ⑥ワークシート記入	実習記録 ２ ワークシート ファイル 提出

テキスト	実習要綱、実習の手引き、臨地実習における取り決め
参考文献	小児概論・小児臨床総論、小児臨床看護各論、その他
成績評価	実習レポート 成績規程 別途定める実習評価基準に準ずる
備考	

科　目　名	母性看護学実習		
単　位 (時間数)	2 単位（90 時間）	履修年次	3 年次　通年
分　　野	専門分野	授業形態	実習
履修条件	前提条件：臨地実習に関連する科目を履修している		
	その他：「医療者のためのワクチンガイドライン」に基づき麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎およびB型肝炎ワクチンの接種を終了していること		
実習目的	母子保健活動の実際から、保健医療福祉チームの一員の役割を理解し、母性看護の対象に応じた看護の基礎的能力を養う。		
実習目標	１．母性看護の対象やその家族への援助をとおして生命の尊さについて考え、その人を尊重した人間関係を作るための態度を養う。 ２．周産期にある女性(妊婦・産婦) と新生児及びその家族を含めた対象を総合的に理解できる。 ３．受け持つ対象の健康課題を身体的・精神的・社会的側面から明確にできる。 ４．受け持つ対象の健康課題に対応した看護を展開できる。 ５．母子保健活動の実際から保健医療福祉チームの一員の役割を理解し、母性看護の役割を考えることができる。 ６．主体的に学習し続ける看護者としての態度を培い、看護実践をとおして自己の母性・父性及び母性看護のありかたについて考えることができる。		
授業概要	母性看護学実習では、マタニティサイクルにある女性及び新生児の看護を中心としながら女性の健康支援を学習する内容とした。		
実習施設	病院：8 施設		

授業計画：実習展開方法

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
(2ｈ)	・実習ガイダンス 臨地実習の目的・目標、取り決め 情報管理、健康管理、感染予防、実習の心得 臨地実習における安全 実習展開方法・評価 記録の書き方		・新生児アウトラインシート ・沐浴動画	実習記録２
１日目 (8ｈ)	・入院中の妊婦の看護 ・産婦の看護	・妊婦の看護計画 ・産婦の看護計画	・妊婦の看護に関する調べ学習課題 ・産婦の看護計画（ワークシート）	産婦の看護計画（ワークシート） 実習記録２
２日目 (8ｈ)	・新生児の看護の視点（アウトラインシート活用） ・新生児情報収集 ・沐浴技術チェック	・新生児の看護について	・新生児の看護の行動計画	新生児全体像Ｅ 実習記録２
３日目 (8ｈ)	・新生児の看護とアセスメント ・褥婦の看護（ジョブシャドウイング）	・褥婦の看護計画（短期目標の修正）	・褥婦への指導パンフレットの修正	実習記録２
４日目 (8ｈ)	・褥婦の看護 （子宮復古・母親役割）	・経過記録記入	・褥婦の看護計画	実習記録２ 実習記録７
５日目 (8ｈ)	・褥婦の看護 （全身復古・母乳分泌）	・経過記録記入	・褥婦の看護計画	実習記録２ 実習記録７

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
6日目 ～ 10日目 （40ｈ）	・受け持ちの情報収集 ・解釈・分析 ・看護問題の明確化 ・看護計画の立案 ・実践 ・経過記録 ・評価記録 ・分娩見学（許可があれば）	・ケースカンファレンス	・アセスメント ・優先順位決定 ・看護計画 ・指導略案 ・経過記録 ・評価記録 ・母性観・父性観 ・多職種連携と継続看護の必要性 ・目標のふり返り	・実習記録 1～3, 5～8, 11 ・実習記録E
11日目 （8ｈ）	・実習で体験したことなどから学びを発表し、目標達成に向けて共有学習する。 ・母性・父性観を発表し価値観の違いを共有する。 ・実践した指導の根拠を発表し、客観的に自己の看護を振り返る。		・記録物の修正 ・自己の課題のふり返り	・実習記録2 ・実習記録1 ・ワークシート ・ルーブリック評価表

テキスト	実習要綱、実習の手引き、実習における取り決め
参考文献	母性看護学概論、母性看護学各論 その他
成績評価	実習レポート 成績規程 別途定める実習評価基準に準ずる
備考	

科　　目　　名	精神看護学実習		
単　位 (時間数)	2 単位（90 時間）	履修年次	3 年次　通年
分　　野	専門分野	授業形態	実習
履修条件	前提条件：臨地実習に関連する科目を履修している		
	その他：「医療者のためのワクチンガイドライン」に基づき麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎およびB型肝炎ワクチンの接種を終了していること		
実習目的	精神科看護の実際から、保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、精神看護の対象に応じた看護の基礎的能力を養う。		
実習目標	１．対象の人間性を尊重し、円滑な人間関係及び良好な援助関係を作るための態度を養う。 ２．対象を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる。 ３．対象の健康上の課題に応じた看護を科学的根拠に基づき、実践するための思考過程を身につける。 ４．精神に障害のある対象の健康上の課題に応じ、精神的な安寧を図るための看護が実践できる。 ５．精神保健医療福祉チームの一員として看護の役割を理解し、メンバーとして自覚した行動がとれる。 ６．看護の実践を通して、自己の看護観を育み主体的に学習し続ける態度を養う。		
授業概要	精神看護学実習では、精神保健医療福祉における看護の役割・機能および精神を障害された人と、その家族の理解を深め、健康の保持増進、回復への支援の方法について学ぶ内容とした。		
実習施設	病院：8 施設　ほか		

授業計画：実習展開方法

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
学内 （2ｈ）	・実習ガイダンス 臨地実習の目的・目標、取り決め 情報管理、健康管理、感染予防、実習の心得 臨地実習における安全、実習展開方法・評価 記録の書き方		・実習要綱を熟読し、実習に必要な資料の整理・準備 ・事前課題の確認	
1 日目 （8ｈ）	・オリエンテーション ・受け持ち患者の選定 ・情報収集	・「安全・安心の環境」 ・「隔離・拘束、ＣＶＰＰＰ」	・受け持ち患者の疾患と看護 ・発達段階	実習記録 2
2 日目 ～ 3 日目 （16ｈ）	・コミュニケーション ・医療スタッフの行う日常生活の援助の実際を見て学ぶ（声かけや誘導の方法）	・受け持ち患者の紹介 （疾患名、主な治療と検査、背景、過ごし方、援助内容、社会資源） ・「治療、薬物の作用と副作用、クロザリル」	・薬物療法 ・作業療法 ・レク療法 ・コミュニケーション技法	実習記録 2、3
4 日目 （8ｈ）	・プロセスレコード検討会 （１回目）	・「コミュニケーションにおける自己の課題と傾向」	・ペプロウ ・プロセスレコードの目的と意義	実習記録 2、3、9

5日目 (8h)	・デイケア実習	・「デイケアの機能と役割」	・デイケアの目的と機能	実習記録2、3
6日目 （8h）	・ケースカンファレンス	・「看護援助の明確化」	・心理教育 ・SST	実習記録2、3、4、6
7日目～9日目 (24h)	・看護計画に基づいた実践 ・プロセスレコード検討会（2回目）	・多職種連携と看護の役割」 ・「治療的コミュニケーションと自己の課題」	・精神障害をもつ人の社会資源」 ・多職種連携とそれぞれの役割	実習記録2、3、4、6、7、9、10
10日目 (8h)	・最終カンファレンス	・「精神看護観」	・発表準備	実習記録1、2
11日目 （学内8h）	・発表会	・実習目標ごとの学び		ワークシート

テキスト	実習要綱、実習の手引き、臨地実習における取り決め
参考文献	精神看護の基礎、精神看護の展開 その他
成績評価	実習レポート 成績規程 別途定める実習評価基準に準ずる
備考	

科　　目　　名	統合実習		
単　位 （時間数）	2 単位（90 時間）	履修年次	3 年次　後期
分　　野	専門分野	授業形態	実習
履修条件	前提条件：領域実習すべてを履修している		
	その他：「医療者のためのワクチンガイドライン」に基づき麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎およびB型肝炎ワクチンの接種を終了していること		
実習目的	病院における看護管理の実際を知るとともに、チームの一員として既習した知識と技術を統合し看護を実践できる基礎的能力を養う。		
実習目標	１．チーム内の複数の患者及び家族の状況に応じて、円滑な人間関係を築き、看護の援助関係を発展させることができる。 ２．あらゆる健康の状態や発達段階にある複数の患者及び統合された生活者として理解する。 ３．対象の健康上の課題に対応した科学的根拠に基づいた看護を実践するための思考過程を身につける。 ４．既習の知識や技術を統合し、対象の健康の状態に応じた看護実践能力を習得する。 ５．病院の中の看護者の一員として、チームメンバー及びリーダーの役割を理解し、メンバーとしての役割を自覚した行動ができる。 ６．看護実践を通して看護専門職として自己の課題を明確にし、主体的な学習姿勢を身につける。		
授業概要	統合実習は、病院における看護管理の実際を知るとともに、チームの一員として看護を実施し、看護専門職としての役割を理解し、自覚と責任を養うために設定した。複数の患者を受け持ち、患者の状態を把握し、優先順位を考えた援助ができる内容とした。また、実習全体を通して看護専門職として自己の振り返りが表現できる内容とした。		
実習施設	病院：12 施設　ほか		

授業計画：実習展開方法

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
１日目 （2ｈ）	・実習ガイダンス ・事前調整事項 ＜事前準備＞ ＜実習展開方法の調整＞		＜事前学習＞ ・看護ケアのマネージメント ・看護サービスのマネージメント	レディネスカードの記載
２日目 （8ｈ）	・病棟実習 １）看護部の看護管理講義 ２）病棟オリエンテーション ３）病棟師長の役割、病棟管理について ４）受け持ち患者の選定（学生１名につき２～３名）	・カンファレンス （例）「受け持ち患者の紹介」	・実習の評価・学び ・翌日の行動計画表の立案 ・既習の看護技術の手順や根拠の確認 ・受け持ち患者について	実習記録１ 実習記録⑮ 実習記録Ｆ
３日目 （8ｈ）	・病棟実習 １）担当看護師と行動を共にして看護を実践（ジョブシャド	・カンファレンス （例）「実習指導者からの助言・ア	・実習の評価・学び ・翌日の行動計	実習記録１ 実習記録⑮ 実習記録Ｆ

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
	ウの実施) 2）チームでの協働・連携 （1）チームメンバー・リーダーの日勤の業務の調整方法 （2）申し継ぎの場面の見学 3）複数受け持ち患者の情報収集 4）病棟で立案された看護計画と全体像を把握する 5）本日の実習内容の振り返りと翌日の計画を調整	ドバイスなどの情報共有	画表の立案 ・既習の看護技術の手順や根拠の確認 ・複数患者の病態、治療内容、日常生活に及ぼす影響について捉える	
4日目 ～ 6日目 (24h)	1）自己の行動計画に基づき担当看護師と共に看護を実践 2）複数患者の看護実践から得た情報をチームの一員として共有 ・他学生の患者への援助をチームの一員として情報を共有 3）複数患者の疾患や治療、処置などを理解し、看護問題の確認 4）本日の実習内容の振り返りと翌日の計画を調整	カンファレンス （例）「複数の患者を受け持つことによっておこる多重課題・時間切迫・業務割込みについて」	・本日の行動計画の評価・学び ・翌日の行動計画表の記載 ・複数患者の病態生理、治療内容、日常生活に及ぼす影響について捉える	実習記録1 実習記録⑮ 実習記録F
7日目 ～ 9日目 (24h)	1）自己の行動計画に基づき担当看護師と行動を共にして看護を実践 2）複数患者の看護実践から得た情報をチームの一員として共有。 3）複数患者の疾患や治療、処置などを理解し、看護計画の実施。 4）本日の実習内容の振り返りと翌日の計画を調整	・カンファレンス （例）「実習指導者からの助言・アドバイスなどの情報共有」	・本日の行動計画の評価・学び ・翌日の行動計画表の記載 ・最終カンファレンスの準備（実習目標に沿って実習記録1に1枚以上記載）	実習記録1 実習記録⑮ 実習記録F
10日目 (8h)	1）2）3）4）同様 5）最終カンファレンス 「看護専門職としての、自己の課題と対策」		・目標に沿って自己の振り返りを記載	実習記録1 実習記録⑮ 実習記録F 実習目標の振り返りワークシート
11日目 ～ 12日目 (16h)	1）学内実習 (1)実習目標に沿って複数の患者への看護実践を振り返り、看護専門職に求められる看護実践能力について、グループで討議 (2)受け持ち患者の援助の事例も含めてまとめる。 (3)討議後、全体発表し、共有			実習記録1 実習記録⑮ 実習記録F

日程	実習内容	研修内容	課題学習	記録用紙
	(4)実習評価のまとめファイル提出 (5)看護専門職としての自己の課題と対策をレポート提出			

テキスト	実習要綱、実習の手引き、実習における取り決め
参考文献	その他
成績評価	実習レポート 成績規程 別途定める実習評価基準に準ずる
備考	

本学生講義要項は３年間の学修の基本を定めたものであり、学生生活に資するものです。卒業までの間大切に保管し、必要なときは必ず参照してください。

また、今後変更される部分がある場合は、変更部分を掲示板などによりお知らせいたします。

学籍番号	
氏　　名	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧

学校法人湘央学園 浦添看護学校 （看護学科）

科目名	単位数	授業時数（h）	実務経験
人間工学	1	15	病院勤務経験
健康と栄養	1	15	病院勤務経験
生涯発達心理学	1	30	研究所勤務経験
人間関係論	1	30	病院勤務経験
異文化の理解Ⅰ	1	30	病院勤務経験
異文化の理解Ⅱ	1	15	病院勤務経験
人体のしくみとはたらきⅠ	1	30	病院勤務経験
人体のしくみとはたらきⅡ	1	30	病院勤務経験
人体のしくみとはたらきⅢ	1	30	病院勤務経験
薬理学総論	1	30	病院勤務経験
微生物学	1	30	研究所勤務経験
病理学総論	1	30	病院勤務経験
治療総論	1	30	病院勤務経験
疾病治療学Ⅰ	1	30	病院勤務経験
疾病治療学Ⅱ	1	30	病院勤務経験
疾病治療学Ⅲ	1	30	病院勤務経験
疾病治療学Ⅳ	1	30	病院勤務経験
疾病治療学Ⅴ	1	15	病院勤務経験
疾病治療学Ⅵ	1	15	病院勤務経験
疾病治療学Ⅶ	1	15	病院勤務経験
臨床薬理学	1	15	病院勤務経験
臨床栄養学	1	15	病院勤務経験
健康支援論	1	30	研究所勤務経験
保健医療論	1	15	病院勤務経験
公衆衛生学	1	30	病院勤務経験
社会福祉Ⅰ	1	15	病院勤務経験
社会福祉Ⅱ	1	30	病院勤務経験
看護と法律	1	15	病院勤務経験
基礎看護学概論Ⅰ	1	30	病院勤務経験
基礎看護学概論Ⅱ	1	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅱ	1	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅲ	1	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅳ	1	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅴ	1	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅵ	1	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅶ	1	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅷ	1	30	病院勤務経験
基礎看護学方法論Ⅸ	1	30	病院勤務経験
地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15	病院勤務経験

科目名	単位数	授業時数（h）	実務経験
地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30	病院勤務経験
地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	15	病院勤務経験
地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	15	病院勤務経験
地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	30	病院勤務経験
地域・在宅看護方法論Ⅵ	1	30	病院勤務経験
成人看護学概論	1	30	病院勤務経験
成人看護学方法論Ⅰ	1	15	病院勤務経験
成人看護学方法論Ⅱ	1	30	病院勤務経験
成人看護学方法論Ⅲ	1	30	病院勤務経験
成人看護学方法論Ⅳ	1	30	病院勤務経験
成人看護学方法論Ⅴ	1	15	病院勤務経験
老年看護学概論	1	30	病院勤務経験
老年看護学方法論Ⅰ	1	30	病院勤務経験
老年看護学方法論Ⅱ	2	45	病院勤務経験
小児看護学概論	1	30	病院勤務経験
小児看護学方法論Ⅰ	2	45	病院勤務経験
小児看護学方法論Ⅱ	1	30	病院勤務経験
母性看護学概論	1	30	病院勤務経験
母性看護学方法論Ⅰ	2	45	病院勤務経験
母性看護学方法論Ⅱ	1	30	病院勤務経験
精神看護学概論	1	30	病院勤務経験
精神看護学方法論Ⅰ	2	45	病院勤務経験
精神看護学方法論Ⅱ	1	30	病院勤務経験
国際看護と災害看護	1	30	病院勤務経験
看護マネジメント	1	30	病院勤務経験
事例研究	1	15	病院勤務経験
看護技術の統合演習	1	15	病院勤務経験
基礎看護学実習Ⅰ	1	45	病院勤務経験
基礎看護学実習Ⅱ	2	90	病院勤務経験
看護実践ステップアップ実習	2	90	病院勤務経験
地域・在宅看護論実習	2	90	病院勤務経験
健康支援を知る実習	2	90	病院勤務経験
成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90	病院勤務経験
成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90	病院勤務経験
成人・老年看護学実習Ⅲ	2	90	病院勤務経験
小児看護学実習	2	90	病院勤務経験
母性看護学実習	2	90	病院勤務経験
精神看護学実習	2	90	病院勤務経験
統合実習	2	90	病院勤務経験

	単位数	実務経験（h）
合計	94	2,835